

7000 の未伝部族に宣教師を派遣する  
3 万人のメガチャーチを日本で開拓するには  
～神の計画が前進するために生き、  
イエスの来られる道を備えるために～

関西聖書学院 3 年 中島豊  
担当教員 小山大三先生

## 目次

序章	はじめに	…5p
第1節	研究目的	…5p
第2節	問題定義	…5p
第3節	内容	…5p
第4節	研究方法について	…6p
第5節	動機	…6p
	1) 主の来られる道を整えるにはどうしたらよいのか	…6p
	2) 宣教学視点	…7p
	3) 教会成長論、リーダーシップ論から	…8p
	召命に生きるためのロードマップを探る	
第6節	ビジョンを抱くようになった経緯	…9p
	1) 牧師への召しとメガチャーチ	…9p
	2) 宣教師への召しと学生伝道	…10p
	3) 結婚の召しと海外宣教	…11p
第1章	全ての未伝部族に派遣する戦略（宣教学）	…11p
第1節	聖書的基盤 「すべての民族へ届けられる」	…12p
第2節	未伝部族の定義「Joshua Project」	…12p
第3節	未伝部族伝道をどのように可能とするのか	…14p
	1) ビジョンと動機づけ・目的 「大宣教命令の実現」	…14p
	2) 戦略 宣教師を戦略的に派遣する「マニラ宣言に学ぶ」	…15p
	戦略①：国内外の未伝部族・地域が宣教のターゲット/カバレッジプロジェクト	…15p
	戦略②：整えられた宣教師の訓練と派遣	…16p
	戦略③：働き人を求めて祈る「OMFの創設者ハドソン・テイラーに学ぶ」	…16p
第2章	聖書的な教会の姿とは（教会論）	…17p
第1節	教会の定義：言語	…18p
第2節	教会の目的：キリストを体現し、愛なる神の救いの御心を成し遂げる	…18p
第3節	聖書的な教会観 ～教会に対する神の夢と期待～	…18p
	イエスとパウロは教会についてどのように語っているのか	
第4節	使徒の働きが教える教会観	…20p
章結	まとめ	…25p
第3章	日本においてメガチャーチを開拓する戦略（教会成長論）	…26p
第1節	どのように3万人を越えるのか	…27p
	1) メガチャーチの特徴	…27p
	教会例：サドルバック教会、オンヌリ教会	
	水営路教会、ヨイド純福音教会	
	2) メガチャーチに共通していること「明確な教会論と牧会論」	…28p
	サドルバック教会	
	オンヌリ教会	
	水営路教会	
	ヨイド純福音教会	
第4章	日本という文化の土壌で教会成長するために	…36p

- 第1節 日本で成長している教会のインタビューから見えるもの  
日本における実を結んでいる教会のインタビュー
- (1) 本郷台キリスト教会 池田恵賜先生 …36p
  - (2) 加古川バプテスト教会 梅谷悟先生 …37p
  - (3) Be One 大阪 フォーセット先生 …39p
  - (4) 京都シオンの丘キリスト教会 後藤利昭先生 …41p

第2節 まとめ ～自分に合っているモデルとは～ …44p

- 第3節 世界で実を結んでいる教会のインタビュー …45p
- (5) オンヌリ教会 高見澤栄子先生 …46p
  - (6) ヨイド純福音教会 スンボク先生 …47p
  - (7) サラン教会 三中先生 …48p

まとめ：日本の土壌でその人数を超えるにはどうしたらよいか …49p

- 第4節 メガチャーチに対する問い …51p  
日本では本当に3万人教会が宣教前進に効果的なのだろうか …51p
- (1) 教会増殖の可能性 …51p
  - (2) 経済的リスクと追求すべき本質 …51p
  - (3) 量的成長と質的成長の2刀流 …52p

第5節 具体的な目標と計画 ～どのように3万人へ導くのか～ …52p

～ビジョン準備の10年～ 28-38歳 …54p  
人脈作り、同じビジョンの働き人、母教会の理解、経済的な支援者

- 1) 50人までどう導くのか 39歳 …55p
- 2) 100人までどう導くのか 40歳 …57p
- 3) 300人までどう導くのか 45歳 …58p
- 4) 1000人までどう導くのか 50歳 …59p
- 5) 3000人までどう導くのか 55歳 …60p
- 6) 30000人までどう導くのか 60歳 …60p

第6節 夢の教会 …61p  
聖書学校、宣教師を送り出すプログラム

第5章 神の願われるリーダーシップ像とは（リーダーシップ論） …64p

第1節 「メガチャーチスキャンダルからの聖書的な脱却」 …64p

- 1) Hillsong Church：異性問題 …64p
- 2) IHOP：異性問題 …65p
- 3) ウィロークリーク：異性問題 …65p
- 4) ヨイド純福音教会：お金、権力問題 …67p

第2節 リーダーシップの直面する課題 …67p

- 1) 異性 …67p

- 2) お金と権力 …68p
- 3) 燃え尽き …68p
- 4) 家庭崩壊 …68p
- 5) 後継者 …69p
- 6) その他（名誉欲、権威主義、異端、分裂等）…69p

第3節 聖書的なリーダーシップとは（誘惑に対する向き合い方と対処法）…69p

- 1) 異性問題に勝利するために …69p
- 2) 金銭、権力問題に勝利するために …71p
- 3) 燃え尽きないために …73p
- 4) 家庭において成功するために …74p
- 5) 次世代を育てるために …75p
- 6) 様々な問題に勝利し、神の御心を実現するために …75p

章結 まとめ 聖書が教えるリーダーシップ像 …77p

結論と今後の課題 …77p

- 1) 結論 …77p
- 2) 今後の課題 …79p  
教会成長を宣教にどう持っていくか  
教会成長の計画のブラッシュアップ  
あとがき …80p

参考文献 …81p

謝辞 …82p

付録 先生方とのインタビュー …83p

- 1) 本郷台キリスト教会 池田恵賜先生 …83p
- 2) 韓国オンヌリキリスト教会 高見澤栄子先生 …85p
- 3) 韓国純福音教会 スンボク先生 …89p
- 4) 加古川バプテスト教会 梅谷悟先生 …94p
- 5) Be One 大阪 フォーセット先生 …99p
- 6) 韓国サラン教会 三中先生 …104p

## 序章 はじめに

### 第1節 研究目的

この論文研究の目的は、神様が私の人生に建てている計画に生きるために必要な手順を知ることである。神がくださったビジョンを実現させるために必要なロードマップを明らかにするのが目的である。

保育園の時、「お父さんのようになりたい」と保育園の卒業アルバムに書いて、牧師に憧れていた。

中学生の時、Hillsong Church の YouTube 動画をみて、メガチャーチの牧師になりたいと思った。大学生の時、主から「わたしの羊を飼いなさい」<sup>1</sup>という牧会の召しを受け取った。

高校生の時、ラオスに行き貧困の子供達と関わる中で、宣教師への夢が与えられた。台湾に行き「わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする」<sup>2</sup>という世界宣教の召しを受け取った。

社会人の時、東アジアのある国に対して、深い感動を覚えて祈るようになった。

神学生の時、宣教学の授業で7000部族が未伝部族であり、残された神の計画実現のために必要なタスクであると知った。メガチャーチを建てたい思いは変わらず、この想いは主からのものであると信じている。牧師、宣教師としての志を握り、主がくださった「7000部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓する」という志を実現するためにどのような備えが必要なのかを考察し、ビジョンに生きるために必要なロードマップを明らかにする。

### 第2節 問題定義

論文である以上、問題定義を表明し、その問題を明らかにする必要がある。

この論文を通して明らかにしたい問題とは、何か。

宣教師の墓場と言われる日本。歴史上、数多くの殉教者を出しているこの日本は、いまだにクリスチャン人口が1%と言われている。日本の教会数は減少し、牧師の兼牧が増加している。

牧師の超高齢化と同時に、神学校において献身者の少なさも否めない。

日本は多くの宣教師に助けられてきた。それに比べて、日本が海外に派遣している宣教師はごくわずかである。日本において最大と言われる教会でさえ、3000人規模である。

それに対して、韓国やアメリカ、アフリカ大陸には3000人どころか、3万人を超えるような大きなメガチャーチ教会が存在する。

国際的には、毎週の礼拝出席が2000人以上でメガチャーチとされることが多いが、

日本においては、1教会しか存在しない。私はこの日本宣教の厳しい現実を見る時に、夢を描く。

この日本において、30000人以上のメガチャーチがあったら、素晴らしいのではないだろうか、と。そして、韓国やアメリカのように、多くの宣教師を輩出する国となり、国々を祝福する日本になりたいと願う。私は、「この日本において、世界宣教に豊かに用いられるメガチャーチの開拓は可能である」ということをこの論文で明らかにしたい。そして、そのためにはどのような具体的なステップを踏めばよいのかを提案し、卒業後、この召しに生きるためのロードマップを提示する。

### 第3節 内容

序論では、このテーマを選んだ動機とビジョンについて、

第1章では、未伝部族宣教をどのように可能とするのか（宣教学）

第2章では、聖書的な教会について（教会論）

第3章では、どのように3万人を超えるのかについて（教会成長論）

---

<sup>1</sup> ヨハネ 21:17 新改訳 2017

<sup>2</sup> イザヤ 49:6

第4章では日本文化の土壌で教会成長するための計画について（インタビューから）  
第5章では、聖書的リーダーシップについて（リーダーシップ論）記し、  
結論では「7000の未伝部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓する戦略を提示する。

#### 第4節 研究方法

① 文献調査（サドルバック教会、オンヌリ教会、水宮路教会、ヨイド純福音教会）

② インタビュー調査

（日本国で用いられている世界宣教に開かれた教会の先生にインタビュー）  
調査する教会は、日本の文脈で用いられている以下の教会の先生に伺う。

① 本郷台キリスト教会、（池田恵賜先生） 神奈川県

② 加古川バプテスト教会（梅谷悟先生） 兵庫県

③ Be One 大阪（グレアム・フォーセット先生） 大阪府

④ 京都シオンの丘キリスト教会 後藤利昭先生 京都府

⑤ 元/オンヌリキリスト教会（高見澤栄子先生） 千葉県

⑥ ヨイド純福音教会・韓国（スンボク先生 宣教師） 韓国ソウル

⑦ サラン教会・韓国（三中先生 宣教師） 韓国ソウル

- A) 国内外で用いられている教会の牧師からインタビューを行い、日本、海外で成長している教会成長の鍵を分析する。
- B) 未伝地宣教に用いられてきた宣教師にインタビューを行い、未伝部族に効果的に福音を届ける鍵を分析する。
- C) 未伝地宣教に用いられてきた教会の牧師にインタビューを行い、未伝部族に効果的に福音を届ける鍵を分析する。
- D) 約7000の未伝部族の人々に福音を伝え、主の来られる日を早めるために教会を通して残された未伝地に宣教師を派遣し、神の計画が前進するために必要なことを明らかにする。

BとCは時間的に研究が許される場合に取り組む。

この論文を通して、日本の教会が使徒の働きの教会のように益々力強く成長し、日本、世界の  
大リバイバルのために大いに用いられ、主の再臨の道を備えるために用いられて、主の御名に栄  
光が帰されることを願う。

#### 第5節 動機

1) 主の来られる道を整えるために

私がこの論文で明らかにしたいことは、「主の来られる道を整えるためには、どうしたら良  
いのか？」ということである。イエスは、

「この御国の福音はすべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。」(マタイ 24:14)と  
語られた。

イエスがこの地上に再臨されるためには、全世界中のすべての民族に福音が証される必要があ  
る。ペテロは手紙の中で

「神の日が来るのを待ち望み、到来を早めなければなりません。」(ペテロ第二 3:12)と語る。

救われたクリスチャンにとって、果たさなければならない使命とは、なんであろうか。  
イエスはこのように語られた。

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15)

全世界に出て行き、全世界に存在するすべての造られた者に、イエスの素晴らしい福音を宣べ伝え、証することこそクリスチャンに対して神が求めておられる命令であり、神の御心そのものである。

弟子たちは、世の終わりに何が起こるのかをイエスに尋ねた。

イエスは、偽キリスト、偽預言者、戦争、飢饉、地震、迫害、不法が蔓延り、愛が冷えると語られた。<sup>3</sup>イエスが天に挙げられてから約 2000 年が経った今、この世界には偽キリストと偽預言者は溢れている。戦争は世界中で勃発し、飢饉や地震も後を経たない。迫害下にある国々は多く、これまでの歴史で殉教してきたキリスト者は、測り知れない。不法は蔓延り、愛は冷え切り、日本社会も、世界情勢も不安と緊張が張り詰めている。信頼できるものは、この世には何一つない状況下にあるのが、21 世紀における現代社会である。

まさに、イエスの語られた「世の終わる時のしるし」が悉く成就している時代に、私たちは生かされているのである。

では、イエスが来られるために、残された条件とはなんなのか。

その答えが、マタイ 24 章 14 節にある。

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証され、それから終わりが来ます。」

世界人口の約 1/3 がキリスト教徒と言われている。約 82 億 6000 万人以上(2025 年 12 月現在)の世界人口のうち<sup>4</sup>、世界のキリスト教人口は、「25 億 2000 万以上から 26 億 3000 万に増加」<sup>5</sup>というデータがゴードン・コンウェル神学校・世界キリスト教研究センターより発表されている。世界全体のキリスト教人口が 25 億人 6000 万人とするなら単純に計算しても、2025 年現在、世界中で約 57 億人が未信者という計算になる。

これらの人々は、福音を聞いているのだろうか。どれくらいの人々が、福音を聞いているのだろうか。この中には、福音を聞いたことがある人も多くいるだろう。しかし、実際のところ多くの人々は、福音を聞いたことがないのである。

## 2) 宣教学的視点

関西聖書学院の元学院長である大田裕作師は、宣教学の講義の中で、

「世界で福音を聞いたことのない民族は、残り 7000 部族である」<sup>6</sup>と語っておられた。

まだ福音を聞いたことがない人がいる。イエスを聞かず、イエスを知らずに命を終えるというのは、どれほど不条理なことであろうか。罪を赦してくださる方を知らないまま、様々な罪の鎖に縛られ、多くの因習と恐れ、悪霊崇拝の文化の中にいる人々が、21 世紀の現代にも多く存在する。このような人々に、福音を届ける責任を神は、クリスチャンに委ねられたのである。

私は大学生の頃から、以下の箇所を読むたびに、心に神から証印を押された感覚があった。

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証され、それから終わりが来ます。」マタイ 24 章 14 節

<sup>3</sup> マタイの福音書 24 章 3-14 節

<sup>4</sup> リアルタイム世界人口 (国連) 2025 年 12 月 13 日閲覧 [https://sekai-hub.com/statistics/real-time-population#google\\_vignette](https://sekai-hub.com/statistics/real-time-population#google_vignette)

<sup>5</sup> Frontier partners LICA.news 「Global Christianity Surges Beyond Projections in 2024」 2025 年 12 月 13 日閲覧 <https://www.frontierpartners.org/global-christianity-surges>

<sup>6</sup> 筆者が関西聖書学院 1 年生時の 2024 年時点の情報

「このために、私は生きなければならない。イエスが来られる道を整えなければならない。」と。

「荒野で叫ぶ者の声がする。荒地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。」イザヤ 40:3

イエスの道備えをしたヨハネのように、私もイエスの来られる道を備え、神の御心の計画を前進させるためにこの生涯を用いていただきたいと願っている。

「全世界の全ての人が救われてほしい。誰も滅びてほしくない」

これこそ、神の御思いである。

神の心は

「神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。」(テモテへの手紙第一 2:4) であり、全世界に存在する全ての人が

「だれも滅びることがなく、すべての人が悔い改めに進むこと」(ペテロの手紙第二 3:9)である。

ここに、厳しい現実がある。もし、この世界の 57 億人が福音を聞いて悔い改め、信じないなら「滅びる」と聖書には書かれている。神との永遠の断絶と永遠の火の苦しみがあることを、聖書は証言しているのだ。神は、罪を裁かれる聖なるきよいお方であり、義なるお方である。それと同時に、愛なるお方であり、とりなし、イエスを受け入れる者を赦して救われるお方である。

人間にとって、救い主はイエスの他にいない。イエスが十字架で死なれた理由は、

「御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちをもつため」(ヨハネ 3:15) なのだ。愛なる神は、この罪の束縛から解放するため、世を救うために来てくださった。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)

どうしても救いたいと願われる神の愛と憐れみの心に合わされて、「すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16:15) という命令を果たす者であること。

「すべての民族に証され、それから終わりが来ます」(マタイ 24:14) というイエスの言葉を心に留めて、イエスが来る日を早めるためにこの人生を捧げること。

これこそ、神からクリスチャンに与えられた最高の使命であり、この卒論テーマを書く目的である。

### 3) 教会成長論とリーダーシップ論

私は本論文のテーマを、「7000 の未伝部族に宣教師を派遣する 3 万人のメガチャーチを日本で開拓するには」～神の計画が前進するために生き、イエスの来られる道を備えるために～と題した。

7000 の未伝部族に宣教師を派遣するためには、多くの人材と経済が必要である。少なくとも、7000 人以上の宣教師を派遣することが必要だ。可能であるなら、イエスの派遣された宣教方法に倣い、<sup>7</sup> 1 民族あたり 2 人以上で遣わすことが理想であると言えるだろう。主によって訓練を受け、整えられた 14000 人のキリストの弟子を 7000 の未伝部族に派遣することができるなら、「すべての民族に福音を宣べ伝える」ことを実現させることは、不可能ではない。

3 万人のメガチャーチを建て上げることができたなら、多くの人材と、経済を未伝地宣教に注ぎ込むことが可能となる。しかし、この働きは、1 教会でするものではない。多くの世界中の諸教会が、「未伝地宣教」への志が与えられている。そのため、いかに世界中の教会と協力し、

<sup>7</sup> ルカの福音書 10 章 1 節

「未伝地宣教」に注力していくかが、神の「すべての民族に福音を宣べ伝える」という計画を遂行する上で重要であると考える。

この論文を通して、どのようにしたらメガチャーチを建て上げることができるのか、どのようなリーダーシップによって神の願われる教会が形成されていくのかという点にも注目しつつ研究を進める。

## 第6節 「7000の未伝部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓する」というビジョンを抱くようになった経緯

### 1) 牧師への召しとメガチャーチ

私は保育園の時の卒業アルバムで、将来の夢を書く欄に、「お父さんみたいになりたい」と書いた。それほど、牧師である父は魅力的であり尊敬の対象であった。

中学生の時、クリスマスプレゼントで「CCM」(Contemporary Christian Music)のクリスマスチャンワースhipソングが入った「WOW WORSHIP」というアルバムを両親から頂いた。

そのアルバムを聴く中で、聴くたびに感動し、涙が出そうになる曲があった。

その曲は、Hillsong Churchの「Worthy is the Lamb」という曲で、YouTubeで検索してみた。すると、何万人もの人が涙を流して、王なるイエス様を礼拝している姿に心を打たれた。

「いつか、こんな大きな教会を牧会する牧師になりたい」と思った。

### 主の宮を建てる召命と超教派賛美集会の導き

大学2年の時、主を愛する先輩であった水梨郁河(hi-b.a.の代表スタッフ)から頂いたみことばが、歴代誌第一28章10節であった。

「今、心に留めなさい。主は聖所となる宮を建てるために、あなたを選ばれた。  
勇気を出して実行しなさい。」

このみことばを通して、私は神の宮を建てるのが、人生の召しであると確信するようになった。オーストラリアで野外賛美集會に参加する姿を見て、日本でもやりたいと思った。詩篇149篇を読む中で、賛美集會を立ち上げるようにとの志を与えられ、大学2年時に「HOUSE OF THE LORD」という超教派賛美集會を立ち上げ、4回ほど開催するように導かれ、卒業前に後輩に引き継いだ。コロナ禍でこの働きは止まってしまった。社会人の時、散歩の中で主から「主の宮を建ててくれないか？」と語られ、「どのように建てればいいのですか？」と祈る中で導かれたのが、超教派賛美集會「GLORY」であった。仲間と人々が集められ、6回程開催するように導かれている。現在は、御霊に導かれて千葉、東京、群馬、兵庫と日本各地で開催するように導かれている。この歴代誌第一28章10節みことばが土台となり、人々が集まって主への礼拝を捧げ、愛し合う中で宣教が拡大していく神のみわざを見せていただいている。

### 教会開拓への志

牧会する父の姿を見ながら、既成の教会で牧会する難しさと既存の教会員から批判される様子を幼い時から見てきた。多くの傷を受けたし、悔しさもあった。もし牧会するなら、新しく教会を開拓したいと思い、教会開拓に熱心に力を入れていた播義也師が牧会する「埼京のぞみチャペル」で1年間奉仕神学生として奉仕した。高知県の教会未設置の村であった日高村、山形県の教会未設置地域である尾花沢市、三重県のいなべ市に宣教旅行に播義也師と同伴した。その中で、多くのノンクリスチャンが救われ、教会が立ち上がっていく過程を見させられた。それと同時に、迫害と霊的戦いの現実を見させられた。また、教会が形成されても、その教会が立ち続ける難しさを見ている。小規模なスモールグループでの交わり、聖餐のやり方、教会開拓チームを神学生と教会員で組んで礼拝を捧げる経験をさせていただいた。将来、教会を開拓する際の初期の段階において、参考になる一つの方法を学ぶことができた。

## 牧者への召命

大学生4年の時、東京基督教大学のスプリングトリートで、朝岡勝師がヨハネ21章からみことばを語られた。その時、「わたしの羊を飼いなさい。」(ヨハネ21:17)のみことばから、主は私に牧者としての召しの確信を与えられた。

電車で東京の山手線に乗っている時、お茶の水付近で、聖霊様から「あなたはここで開拓しなさい」と語られた気がした。

それ以来、私の召しは牧師であり、いつか大きなメガチャーチを東京で開拓したいと願ひ、祈るようになった。

## 2) 宣教師への召しと学生伝道

高校3年の1月、私はCCC(キャンパスクルセードフォークライスト)が主催する、台湾宣教ツアーにも参加した。

大学に行き伝道するのだが、伝道したいけれどできない弱さと自分の醜い心の故に、悲しみが溢れてきた。喜びをもって福音を伝える仲間がいる中で、私は自分の弱さのあまり、涙を流し、最後尾で泣きながら宿舎に帰っていた。すると、チームを率いていたCCCの代表スタッフである原康平さんが一緒に祈ろうと言って、隣に座り、異言で20分ほど祈ってくれた。落ち着くと預言してくれた。

その内容は、私が神の息子であり王子であること、神が私の人生に素晴らしい計画を立てておられ、用いようとされているということであった。

その言葉を聞いて私は、人知を越える神の愛に圧倒され、感謝と喜びの涙が滝のように流れてきた。「これほど神様が愛してくださるなら、私の人生の全てを捧げて、神が私に立てている計画のために生きていきたいです。私の全てを主に捧げます」と祈らされた。

この日を境に、私は牧師の夢を手放しても、神が私に望まれるなら、宣教師になっても良いと思うようになった。

また、この時期に私は神様から一つの召しのみことばを受け取った。

「わたしはあなたを国々の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」  
(イザヤ49:6)

神は私を世界の光とし、地の果てにまで宣教する者として用いられると信じるようになった。

高校3年生の3月、母教団が主催するタイ宣教ツアーに参加し、ラオスとの国境を船で渡る経験をした。そこについた瞬間、貧困下にある子ども達が駆け寄り、「お金をちょうだい！」と手を出して訴えている姿を見た。ボロボロの服を着た子どもたちはそのお金を両親に持ち帰り、それで生活しているということを宣教師から聞いた。

胸が張り裂けそうになりながら、神様に祈った。「主よ、この子達に何かさせてください」祈りつつ、恥ずかしそうにしている、ボロボロの服を着た3歳と6歳位の姉妹と思われる女の子に近寄った。似顔絵を描いて、「イエス様が君のことを愛しているよ！」と書いて渡すと、「ありがとう！」と言って受け取ってくれた。

その瞬間、言葉で表現できないような喜びが、心の底から泉のように湧き上がってきた。

帰りのバスの中で、祈った。「あなたの御心なら、このような貧しい子供達にあなたの愛を伝えさせてください」と。涙が滝のように流れた。

その時、私は、将来宣教師になりたいと思うようになっていった。

### 3) 結婚の召しと海外宣教

「もし、彼女が私のためにあなたが計画しておられる結婚相手であるなら、ビジョンが一致するようにしてください」と祈ったのが大学2年の3月であった。

そのようにして導かれた妻には、「海外宣教への召し」が与えられていた。

主に導かれ、幼稚園での仕事を退職し、関西聖書学院に入学した。

2度、宣教旅行に行く中で、主から「この国にいきたい!」という志が夫婦に、同時に与えられた。

その国で夢を見た。それは、ある大学生の子がキリストの弟子となり、その子を通してキリストの弟子が生まれ出され、福音が伝播し、リバイバルが学校中に、国中に広がっていく、という夢であった。この夢を通して、私はその国の都市部で、学生伝道を通してキリストの弟子を育て、未伝の地域にも届いていきたいと思うようになった。この国では学生伝道の働きに携わる経験が与えられ、「宣教師として海外に行くなら学生伝道をしたい」というパッションが与えられた。

このような過程を辿り、みことばによる召しを握る中で、神様は、私たちを宣教師として、牧者として召しておられると確信するに至った。

私は関西聖書学院を卒業した後、次のステップとして「未伝部族の多いA国に福音を伝え、学生伝道を通してキリストの弟子を育てていく宣教師として歩む」という道に神が導いておられると感じている。また、その地での働きを終えてから、日本の東京で、未伝地に宣教師を派遣して主の来られる道を備えるメガチャーチを開拓するのが主の御心ではないかと感じている。

以上の主の導きを通して、私は、牧師と宣教師になりたい。そのために、必要な学びを得たい。そのために、このテーマで論文を書きたいと願うようになった。

この論文では、宣教学的視点、教会成長論、リーダーシップ論という観点から、

7000部族に宣教師を派遣するため、3万人のメガチャーチを日本で開拓するという召命に生きるためのロードマップを探る。

## 第1章 全ての未伝部族に派遣する戦略

メガチャーチを建てる最大の目的は、「宣教」である。神のご計画は、「福音が全世界に宣べ伝えられて、全ての民族に証され」<sup>8</sup>ることである。すべての民族に福音を証していくためには、その福音を伝える「宣教者」が必要だ。21世紀の現代、情報社会からAI社会への移行期にあり、インターネットを通じて多くの情報を世界の裏側まで発信することができるが、福音を伝達し、キリストの教えを伝えていけるのは、「人」である。

すべての民族に福音を伝えるためには、戦略が必要だ。この章では、どのようにして全ての民族に福音を伝えることが可能となるのかという戦略を提示したい。

未伝部族の定義、聖書的な確かな基盤を土台として、3つの観点から戦略を提示する。

1つ目が、明確なビジョンと動機づけである。ここで、教会が何を指すのかを明らかにする。2つ目が、宣教師を派遣する戦略である。3つ目が、目的である。

---

<sup>8</sup> マタイの福音書 24章 14節

## 第1節 聖書的基盤

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証され、それから終わりが来ます。」（マタイ 24 章 14 節）

聖書は「すべての民族」という言葉を使っているが、

「すべての」とは、ギリシャ語で「ὅλος」すなわち、「すべて、全体、完全に」という意味がある。民族は、「ἔθνος」すなわち、「集団、部族、民族集団、国家」という意味がある。

言い換えるなら、「全世界の全ての部族、民族集団全体に、完全に、福音が伝えられる！」という意味である。

世界未伝道部族宣教会 (WUPM)からはこのように語られている。<sup>9</sup>

1, 聖書が言う「民」（ギリシャ語でエスネー、英語では Nations）とは、今日のような政治的国家のことではなく「部族集団」（People Group）、つまり、民族・部族・言語・文化のグループを意味します。「すべての民を弟子にきなさい」という大宣教命令は、この部族集団の全てに宣教する、という意味です。1つの国家の中にも様々な違う部族集団が存在します。例えば、ミャンマーという1つの国家の中に、135個以上もの部族が存在します。なので、たとえその国で多くの未信者に伝道してクリスチャン人口が増えても、全部族を宣教したことにはなりません。

2, 全世界には 17,425 の民族・部族が存在すると言われていています。しかし、そのうちの約 6500 以上<sup>10</sup>の部族には、自分の部族の言語で礼拝する教会がありません。そればかりか、自分の言語に翻訳された聖書もなく、その部族を宣教しようと担当している教会や宣教団体もないのです（2020年の時点での資料）。このように「教会、聖書、宣教者」のいない部族を「未接触・未伝道部族」（Unengaged Unreached People Group、略して UUPG）と呼んでいます。これらの部族の中で、教会が開拓されなければなりません。

上記文章では 6500 民族と記されているが、宣教団体によって未伝道部族の数に対する見解が少し異なっている。信頼できる情報源の Joshua Project による集計によると、約 7,295 部族が「未伝道 (unreached)」に分類されている。そのため、本論文では未伝道部族は約 7000 部族という設定で進めていく。

私たち教会の使命は、残された約 7000 の部族に福音を伝えることである。教会がなく、聖書がない人々が世界にはいまだに約 7000 部族いるのである。

## 第2節 未伝部族の定義

未伝道部族の定義について、Joshua Project ではこのように述べられている。

未伝道／最少伝道地域 (UPG)

定義：キリスト教信者が 5%以下、かつ福音派が 2%以下。

未伝道地域または最少伝道地域とは、外部からの援助なしにこの地域に伝道できるほどの人数と資源を持つ、信仰を持つキリスト教徒のコミュニティが存在しない地域を指します。…Joshua Project の当初編集委員会は、福音派クリスチャンが 2%以下、キリスト教徒を自称する人が 5%以下という基準を採用しました。<sup>11</sup>

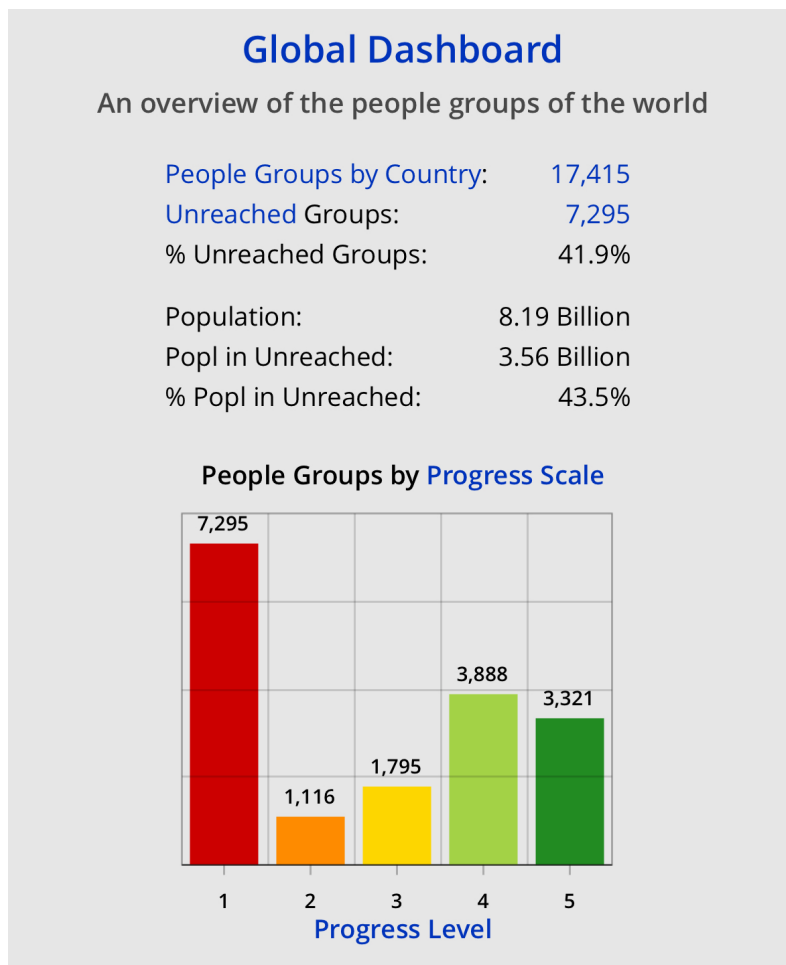
<sup>9</sup> 未伝道部族とは何か – WUPM Japan 2025.7.8 閲覧

<sup>10</sup> 注：未伝部族が 6500 としているデータもあるが Joshua Project の集計によると、約 7,295 部族が「未伝道 (unreached)」に分類されているため、本論文では約 7000 部族という設定で進める。2025.7.8 閲覧)

<sup>11</sup> Definitions | Joshua Project 2025.7.8 閲覧

Joshua Project によると、100 人中 5 人以下のキリスト教徒、福音派が 100 人中 2 人以下である地域は、「未伝道」に分類される。

以下は、Joshua Project Web サイト からの画像を添付している。



情報源によっては未伝道部族の数にばらつきはあるが、Joshua Project では 2025 年 7 月 8 日現在、「7,295」の部族が「未伝道部族」に分類されている。

全世界には 17,415 部族が存在し、そのうちの 7,295 部族が未伝道部族であり、これは世界全体の部族の 41.9%に相当するのである<sup>12</sup>

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証され、それから終わりが来ます。」（マタイ 24 章 14 節）

残された約 7000 の部族に、福音が宣べ伝えられてから、世の終わりが来る。神から任せられたこの任務が完了した後に、キリストは再臨されるのである。

### 第 3 節 未伝道部族宣教をどのように可能とするのか

残された約 7000 の民族に福音を伝えるためには、単純に考えて最低でも約 7000 人の宣教師を未伝道部族に派遣する必要がある。また、イエス様がルカの 10 章で 2 人ずつ派遣されたよう

<sup>12</sup> [People Groups of the World | Joshua Project](#) 2025.7.8 閲覧

に、1部族につき最低2人は宣教師を派遣するのが最善ではないかと考える。仮に3万人のメガチャーチを開拓したとして、そこから1万4000人の宣教師を派遣することができるなら、この目的は達成されるのではないだろうか。ただ、神様の方法は1教会で成し遂げるのではなく、神の家族で協力して行うことである。全世界中の教会で、「未伝道部族」への志のある教会が多く存在する。この「未伝道部族宣教」を協力して行なっているのが、「Finishing The Task」という団体である。

このような世界宣教の問題を打ち破るために、FTTという宣教ネットワークが作られました。FTTとは、Finishing The Taskの略で「任務を果たし終える」という意味です。これは、「すべての民をわたしの弟子にしなさい」という、主イエスの大宣教命令の任務を果たし終えるために、世界中の主な宣教団体が集まって話し合い、2004年から始められました。現在では世界中の1400個以上の宣教団体、教団、教会が協力し合って進めている全世界的・超教派宣教運動です。( [www.finishingthetask.com](http://www.finishingthetask.com) )

FTTでは、全世界の未伝道部族のリストを作成し、まず人口10万人以上の未伝道部族639部族を第1次目標としました。そして参加している各宣教団体に、これらの部族で宣教を開始するようにチャレンジし、分担し合いました。その結果、どうなったのでしょうか？ 2004年にFTT運動が始まって、6年後の2010年までには、470部族で教会開拓が始められました。人口10万人以上の未伝道部族は、639から169に「激減」したのです！さらに4年後の2014年には、その数は90部族にまで減りました。つまりこの10年間で、549部族が未伝道部族から「既伝道部族」になりました。これは驚くべき早さです。なぜこんなにも早くできたのでしょうか？それは、みんなが協力分担していっせいに取り組んだからです。その後では、人口5万人以上の未伝道部族リストを作成して、第2次目標を設定しています<sup>13</sup>

FTTを用いて、神は確実にこの「未伝道部族」を減らしておられる。

10年で未伝の約500部族を達成できたのなら、このペースを維持し続ければあと140年で残された未伝の7000部族に福音が到達する計算になる。しかし、それでは遅いと私は思う。一人でも救われてほしい。この命のある時に、イエス様が来られる再臨を喜びながら迎えたい。これから毎年140の部族に到達できるなら、あと50年で7000部族に到達する。この任務を成し遂げるためには、多くの「働き人」が必要になる。7000もの未伝道の部族。彼らへの宣教こそ、この終わりの時代に生かされている教会の最後の使命であり、神からの任務である。

### 1) ビジョンと動機づけ・目的

明確な、ビジョンがある。それは、「すべての民族にキリストを証し、弟子とする」ことである。明確な動機もある。それは、「キリストに従うこと」だ。イエスが天に挙げられる前、弟子たちに与えられた大宣教命令の実現こそ、ビジョンでありすべての働きの根幹にある土台である。

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしは天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」(マタイ28章18-20節)

<sup>13</sup> 未伝道部族とは何か - WUPM Japan 2025.7.8 閲覧

この箇所が出てくる「国の人々」という言葉も、ギリシャ語で「ἔθνη οἰκιστῶν」すなわち、「集団、部族、民族集団、国家」という意味である。「あらゆる」とは、「πᾶσι」すなわち、「個別に、全ての人」という意味がある。言い換えるなら、「全世界の全ての部族、民族集団全体を、個別に、弟子としなさい！」という意味になる。

残された約 7000 のすべての未伝民族にイエス・キリストを証し、弟子とすることこそ、キリストの命令であり、クリスチャンである私たちに委ねられた最高の使命なのである。

未伝部族宣教に励む目的は、

「イエス様の命令に従って、すべての民族に福音を届けるため」である。

## 2) 戦略 ～宣教師を戦略的に派遣するために～

どのような戦略で、残された 7000 民族の人々に福音を届けるのが最善であるのだろうか。

世界的なキリスト教の大会であるローザンヌ運動のウェブサイトでは、マニラ宣言を引用し、未伝部族へ宣教師を送る必要性が訴えられている。

今日、2000 の大きな部族の中に、さらに細分化された 1 万 2000 の小部族グループが存在する。そして、世界の宣教師の 93 パーセントはすでに福音が伝えられた地域に存在し、7 パーセントだけが未伝部族地で伝道をしている。もしこのアンバランスが修正されなければならないとすれば、人材の戦略的再配置が必要とされるであろう。

前述の分類による伝道戦略を効果あるものとするために障害となっている要素は、接触の難しさである。今日、多くの国々では、他の資格や働きを持たず、ただの宣教師の資格だけで入国する人にビザを発行しない。しかし、そうであるからといって接触不可能というわけではない。祈りの力は、どのようなカーテンでも、扉でも、障害物でも通過することができるからである。また、ラジオ、テレビ、カセットビデオ、カセット、フィルムや文書などを通して、困難に見られるところも乗り越えることができる。また、パウロと同じように、「天幕造り伝道」によって自活しながら伝道することもできる。彼らは自分の職業をいかしながら(例えば、実業家、大学講師、技術家、語学教師など)、イエス・キリストをあかしするためにあらゆる機会を用いるのである。彼らは偽って他国に入国するのではない。なぜなら、その職業そのものが、出かけて行った地域で必要とせられているからである。ただ、どのような場合でも、イエス・キリストをあかしせずにはいられないという生活全体が福音の香りを放つのである<sup>14</sup>

93%の宣教師は福音がすでに伝えられた地域に派遣され、7%のみの宣教師が未伝部族地で宣教しているのである。これは勿体無い現実である。宣教師を派遣するために、多くの祈りと経済、何より尊い人材が神に捧げられている。しかし、すでに福音が伝えられた地に宣教師が行くならば、イエス様の再臨を早める条件を前進させるとは言い難いのではないだろうか。

### 戦略①：国内外の未伝部族・地域が宣教のターゲット

神の明確な目的に従って、すべての民族に福音を届けることを目的とするなら、自ずと教会のターゲットは「未伝部族宣教」に絞られる。3万人のメガチャーチにおいて、まず明確なターゲットとして宣教する対象は、「未伝部族」である。「未伝部族」は海外にだけにとどまらず、日本国内も Joshua Project によると「未伝部族」に分類される。

<sup>14</sup> マニラ宣言 - Lausanne Movement 2025.7.8 閲覧

カバレッジプロジェクトによると、日本国内では 1800 以上の市町村（昭和時代の区域）が教会のない教会未設置エリアとされている。<sup>15</sup> 日本人口の 1% がキリスト教徒であるなら、世界の未伝地部族と同時に、日本国内の未伝地域の約 99% の人々への宣教にも力を注力する必要がある。

### 戦略②：整えられた宣教師の訓練と派遣

未伝部族に宣教師を派遣することが難しい要因のひとつが、「宣教師ビザ」を発行していないことにある。未伝部族に入り込もうとするなら「未伝」の理由として「宣教師を受け入れない」姿勢がある。そのためには、宣教師として派遣される者が「学生ビザ/ビジネスビザ」で侵入する必要がある。手に職を持って国に入り込むことが未伝部族宣教では重要な鍵となる。霊的なスキルと同時に実務的なスキルが必要だ。そのためには、整えられた宣教師の訓練が必須となる。実業家、大学講師、技術者、語学教師など様々なスキルを手にして、宣教の情熱に燃える宣教師を育て、未伝地部族に派遣することが、メガチャーチにおいて求められる効果的な戦略ではないだろうか。それぞれの信徒が社会の中で世の光、地の塩として活躍し、リーダーシップを発揮できるように励まし、訓練し、整えていくこと。教会内で霊的、実務的なスキルの両輪を習得することを励ます環境があれば望ましいだろう。

「宣教」という神からの使命を提示しつつ、それぞれの置かれた環境、社会で神の栄光を現し、宣教のわざに携わるように教育することこそ、神の宣教を前進させるための戦略である。

### 戦略③：働き人を求めて祈る

祈りほど強力な戦略は、存在しない。

祈りは、神の御手を動かし、祈りは人々の心を変える。

祈りによって、聖霊は働かれ、救われ、弟子となり、宣教するものへと変えられていく。

神は、「ハドソン・テイラー」の祈りによって、世界宣教を前進させた。

ハドソン・テイラーを通して神により設立された宣教団体（前チャイナ・イングランド・ミッション。現在の OMF (OMF International)）から 1200 人以上の宣教師が遣わされたというのは驚くべき祈りの結果である。

私は大学で、なぜこれほどまでにハドソン・テイラーが用いられたのか研究した。

その中で印象深かったことは、彼の祈りであった。

「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫の主は、働き手を送ってくださるように祈りなさい。」ルカ 10 章 2 節

このみことばを彼は実践したのである。

彼はこのように語っている。

私は神のことばを学ぶことによって、どのようにしてしっかりとした働き人を得られるかがわかった。第一に、神に働き人を遣わしてくださいと熱心に祈ること、第二に、教会の霊的ないのちを国内にとどめることができないうらいに熱く燃やすこと。私はまず方法や賃金を考えることではなく「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます」と言われた主のことばに信頼して働きを進めるのが使徒のやり方であったことを知った<sup>16</sup>

テイラーが祈りの中で求めたのは、神のみことばを実行することであり、聖書に記された神の御心が実現することを祈り求めた。そのために神の国とその義をまず第 1 に求め、収穫の働き人を求めて祈ったのである。

<sup>15</sup> カバレッジ・プロジェクト Coverage Project – 日本の未伝地へ福音を！2025.7.8 閲覧

<sup>16</sup> ハドソンテイラー、信仰の生涯を語る 154p

ハドソンテイラーは40歳の時、まだ福音が宣べ伝えられていない九省に2名ずつ、計18名の宣教師が与えられるように祈り始め、43歳の時に、祈りの答えとして与えられた18人とともに出発した。49歳の時に、72人の働き手を5年以内に求める祈りがささげ始め、55歳の時には、一年以内に少なくとも百人の新しい働き人を求める祈りが始まった。神様はその祈りに答え、その年に百人の宣教師とその派遣に必要な費用とが与えられ、求めた数の六倍の献身者があった。58歳の時に五年以内に千人の宣教師が与えられるように祈り始め、五年後の63歳の時に1053人の新しい宣教師が与えられたのである。

「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、ご自分の収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさい。ルカ 10:2

何事でも神のみこころに従って願うなら、神は聞いてくださるということ、これこそ神に対して私たちが抱いている確信です。私たちが願うことは何でも神が聞いてくださると分かるなら、私たちは、神の願い求めたことをすでに手にしていると分かります。

第一ヨハネ 5:14.15

ハドソンテイラーが収穫の働き人が送られるように祈り始めて23年後に1053人の働き人が送られた。神様は収穫の働き人を送ってくださるように祈りなさいという、神様の御心にかなう願いに、彼らの祈り求めた信仰に応じて、神は働き人を送られたのである。そのようにして、中国全土に福音が広がっていった。

7000の未伝部族に福音を伝えていく収穫の働き人を祈り求め、彼ら彼女らを派遣して福音を宣べ伝えることこそ、最大の宣教戦略である。

## 第2章 聖書が教える教会観

この章では、聖書が教える教会について見ていきたい。使徒達が活躍した時代、初代教会が世界で最初の「教会」と呼べるだろう。神の願われる教会の姿とはどのようなものなのだろうか。パウロは宣教をし、教会を形成した後、神の教会を建て上げることに尽力した。

神に喜ばれる教会とはどのような姿であるのか。聖書に基づいた、神が願われる教会の姿を、この章では探究し、聖書を揺るぎない土台とした教会を建て上げていきたいと願う。

- 1) 教会の定義：言語
- 2) 教会の目的：キリストを体現し、愛なる神の救いの御心を成し遂げる
- 3) 聖書的な教会観 ～教会に対する神の夢と期待～  
イエスとパウロは教会についてどのように語っているのか
- 4) 使徒の働きが教える教会観

章結 まとめ

### 第1節 教会の定義 言語から

教会とは、どのようなものであるのだろうか。ある人は建物を教会と呼び、ある人は人の集まりを教会と呼ぶ。果たして、教会とはそもそもどのような意味を本来もつものなのだろうか。

教会を指す言語は、「ἐκ κλησίου」エクレシアと呼ばれ、以下のような意味がある。

1. 市民が自宅から公共の場所に招集された集まり、集会
2. 宗教的な集会で礼拝のために集まったキリスト教徒の集会
3. キリスト教徒の集団、またはイエス・キリストを通して永遠の救いを望み、秩序のために定められた規則に従って、独自の宗教儀式を守り、独自の宗教集会を開き、独自の事柄を管理する人々の集団
4. 都市や村など、どこであれ、そのような集団を構成し、一つの団体に結ばれている人々
5. 世界中に散らばっているキリスト教徒の集団
6. すでに亡くなり、天に迎えられた忠実なキリスト教徒の集団

教会の定義を簡単に要約するなら、

「キリストを礼拝するために呼び集められた者たちの集まり」こそ、

「教会」である。

## 第2節 教会の目的

では、この教会の目的とはなんなのか。

「ἐκ κλησίου」の言語の意味にある通り、「キリストを礼拝する」ことが、最大の目的である。また、「集まり」である以上、複数人が存在する。キリストが命じられた最も大切な戒めは、「神を愛し、隣人を自分自身のように愛する」ことであった。そのため、教会に集まる者たちが「互いに愛し合う」ことが教会の目的であるとも言える。

使徒の働き2章42節には「使徒たちの教えを守り、交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていった。」と記されていることから「使徒たちの教え」言い換えるなら「キリストの教え」を守ることが教会の目的であるとも言えるだろう。

教会は、キリストを礼拝するために呼び集められた者たちの集まりであり、神への礼拝、愛の交わり、キリストの教えを守ることによって成長していく。

そのように教会が歩む中で、教会は、悪魔の力を破壊し、神の支配をこの地上に拡大していくことが可能になる。イエスの体として、父なる神の御心をこの地に実現させていくのである。

「地獄のどんな恐ろしい力も、わたしの教会に打ち勝つことはできません。」<sup>17</sup>と聖書は語る。

イエスが悪魔のわざを滅ぼすために来られたように、教会は悪魔の力を打ち破るという使命が与えられている。人々を暗闇から光へと導き、暗闇に満ちた世界の中にあって希望の光となる存在。「すべての人が救われて真理を知ることが望んでおられる」という神のみこころを行うために存在するのが、教会なのだ。

要約すると、教会の目的とは、

「キリストを体現し、愛なる神の救いの御心を成し遂げること」である。

## 第3節 聖書が教える教会観

日本には約6000-7000の教会が存在すると言われている。世界にはさらに多くの教会が存在するが、神が教会に対して抱いている夢、期待とはどのようなものであろうか。この節ではイエス様とパウロの言葉から聖書が教えている教会観について考察する。

### 1) 聖なる栄光の花嫁なる教会

キリストが教会に抱いておられる夢と期待の最骨頂は、エペソ5:25-27に記されている。

---

<sup>17</sup> マタイ16:18 リビングバイブル

キリストがご自身を十字架で捧げられた目的とは、みことばによって、水の洗いを持って、教会をきよめて聖なるものとするためであり、しみやしわや、そのようなものが何一つない、「栄光の花嫁なる教会」を建て上げることであった。

夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自分を献げられたように、あなたがたも妻を愛しなさい。キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、ご自分で、しみや、しわや、そのようなものが何一つない、聖なるもの、傷のないものとなった栄光の教会を、ご自分の前に立たせるためです。エペソ人への手紙 5:25-28

みことばを慕い求め、十字架の贖いによって義とされ、恵みに生きる教会。

主の血潮により清められ、聖なるものとして一人ひとりが主を愛する花嫁として建て上げられる栄光の花嫁なる教会こそ神の求める教会の姿である。このような教会を目指したい。

## 2) すべてを満たす王の王なるキリストが満ちている教会

エペソ 1:20-23 によると、キリストは宇宙史上最強の権威と権力、支配と主権、万物までも司り、教会のかしらとしてキリストが立てられていることがわかる。さらに、教会とはこのキリストの体であり、すべてのものを全てのもので満たすキリストが満ちているところなのである。

全ての病、恐れ、不安、心配、様々な葛藤、必要の全てを知り、全てを満たされ、全てを癒されるキリストが満ちている教会。その教会に行けば、主に出会い、主に癒され、励ましと力を受ける教会。そのような教会を建て上げることを目指して、祈るものでありたい。

## 3) 人知を越える神の愛とキリストご自身に満ち溢れて、神に栄光を捧げる教会

エペソ 3:14-21 にはパウロの祈りが記されている。その祈りの内容は、神の家族が、

- ①御霊によって内なる人が強められること。
- ②信仰によってキリストが心のうちに住むこと
- ③人知を遥かに超えたキリストの愛を知り、神の満ち溢れる豊かさにまで満たされること

である。

聖徒たちが御霊によって強められ、キリストが住まい、神の愛と神ご自身で満ち溢れること。このように願いと思いを越えて力強く働かれる神に、栄光が永久に帰されることであった。

なんと力強くパワフルな教会だろうか。このような教会の姿を見たいと願う。

すべての聖徒が、神の愛に満たされ、神ご自身に満ち溢れて、神に栄光を捧げる姿ほど美しい教会はないだろう。

## 4) リーダーたちが聖徒たちを整え、奉仕の働きをさせてキリストの身丈まで成熟する教会

エペソ 4:11-13 には、キリストが使徒、預言者、伝道者、牧師または教師として立てられたことが記されている。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストの体なる教会を建て上げられていくためである。キリストに対する信仰と知識において一つにされて、成熟した大人となり、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するためなのだ。

一人で牧会するのではなく、チームで聖徒を整え、奉仕をさせることによって、キリストの身丈まで成長することがわかる。教会において、「奉仕」は重要な意味をもち、「成長」に欠かせない要素なのである。また賜物を用いてリーダーが聖徒を整えることを神は教会に望んでおられる。そのような教会を目指していきたい。

## 5) ハデスの門を打ち壊し、神の御国の支配を解き放つ教会

マタイ 16:18-19 には、キリストご自身が教会を建てられることが記されている。そして、ハデスの門も、教会に打ち勝つことはできないのである。さらに教会には、天の御国の鍵が与えられている。これは、教会に委ねられた大きな霊的な権威を意味する。どんな悪魔の力をも破壊する神の最強の力が教会には委ねられているのである。どれほど力強く可能性に満ちているのだろうか。宇宙の王であるキリストが君臨する教会は、盗み、滅ぼし、殺そうとするサタンの力を打ち破り、人々を養い、癒し、生かし、救いと豊かさに導く使命がある。

「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかなりません。わたしが来たのは、羊たちがいのちを得るため、それも豊かに得るためです。」ヨハネ 10:10

「悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」第一ヨハネ 3:8

このみことばのように、キリストのわざを行う教会として、悪魔のわざを打ち破る教会として用いられるのが教会なのである。このような教会を目指していきたい。

以上の箇所から、聖書が教える教会観、神が教会に抱いている夢と期待をこのようにまとめることが可能だ。

教会は、

- 1) 聖なる栄光の花嫁なる教会
- 2) すべてを満たす王の王なるキリストが満ちている教会
- 3) 人知を越える神の愛とキリストご自身に満ち溢れて、神に栄光を捧げる教会
- 4) リーダーたちが聖徒たちを整え、奉仕の働きをさせてキリストの身丈まで成熟する教会
- 5) ハデスの門を打ち壊し、神の御国の支配を解き放つ教会

このような教会を神は期待しておられる。このような教会として歩むためには、神の恵みと聖霊の働きが不可欠であり、祈りなしには実現しない。

これが、神が抱いている教会への夢と期待であり聖書的な教会像なのである。

このような教会を建て上げていけるように祈りつつ開拓していきたいし、聖徒たちと共にこのような教会が建て上げられていくように祈っていきたい。

#### 第4節 使徒の働きが教える教会観

使徒の働きには、世界で最初の「教会」が登場する。神はここに、神に喜ばれる教会の姿を私たちに啓示しておられる。聖書に基づいた、神が願われる教会を追い求め、聖書を揺るぎない土台とした教会を建て上げていく鍵を探っていきたい。

使徒の働きを見てみると、多くの要素によって教会は構成されているのがわかる。1章から28章まで読み、使徒の働きの教会の教会観を挙げると以下の44項目が浮かび上がった。

- 1) 祈り (1章) 集まり、聖霊を求めて祈る
- 2) 聖霊 (2章) 聖霊の力に押し出されて主を証する
- 3) 愛の実践 (2章) イエスの教えを守り、愛を実践。持ち物も共有。分配。
- 4) 交わり (2章) 毎日食事を通してパンを裂き、祈り、賛美。
- 5) 教え (2章) 使徒たちの教えを守る。

- 6) イエスの御名～癒しと権威～ (3章)
- 7) 迫害 (4章)必ず迫害がある
- 8) 福音宣教～十字架につけられ蘇られたイエス～ (4章)
- 9) みことばを大胆に語る (4章)
- 10) 神への恐れ. (5章)アナニアとサッピラ
  
- 11) 不思議としるし (5章)
- 12) 悪霊追い出し (5章)
- 13) 神への従順 (5章)人に従うより神に従うべき
- 14) 神の言葉が最優先 (6章)祈りとみことばに専念するのがリーダーの務め
- 15) 牧会チーム (6章)規模が大きくなるにつれ組織化が必要
- 16) 聖霊のバプテスマ (8章,19章) 聖霊の満たしを祈る必要性  
洗礼を受けたクリスチャンにペテロとヨハネが手を置いて祈ると聖霊を受けた 8章  
洗礼を受けたクリスチャンにパウロが手を置くと聖霊が臨み異言と預言を受けた19章
- 17) 幻 (9章)
- 18) 大胆さ (9章)
- 19) 死人の蘇り (9章)
  
- 20) 世界宣教が神の御心 (10章)幻を通して示された異邦人宣教。世界宣教の幕開け。
- 21) 弟子訓練 (11章) パウロを探し育てるバルナバ
- 22) とりなしの力 (12章) 教会の祈り、ペテロの救出
- 23) 聖霊と教会による派遣 (13章)祈りと断食の中で聖霊の導きに従う
- 24) 語るのは、イエスの福音(13章)
- 25) 宣教報告の重要性 (14章)パウロは教会への宣教報告を欠かさなかった
- 26) 問題はリーダーが話し合う(15章)割礼問題に向き合う会議
- 27) 救いは恵みによる (15章)割礼問題から福音の真髄
- 28) 預言者の目的 (15章)ユダとシラスは預言者であり、兄弟たちを励ました
- 29) 聖霊による宣教 (16章)聖霊に聞きながら宣教は進められる
- 30) 全世界が宣教区 (16章)周辺へ宣教し教え、教会は強められ人数も増えていく
  
- 31) 賛美の力 (16章)牢獄で賛美する中で牢の鎖は解き放たれ救いが起こる
- 32) 熱心な聖書の学び (17章)熱心に聖書を調べ学び受け入れる
- 33) テントメーカー (18章)一般の仕事をするシーズンがある
- 34) 神の言葉を語り続ける (18章)幻で主がパウロを励ます
- 35) 弟子を励まし巡回する (20章)パウロは地方を回り弟子を励ました
- 36) リーダーを教育する (20章)リーダーを集め、教育し、自分と群れ全体ケアをさせた
- 37) 受けるより与える (20章)パウロの生き方
- 38) 教会は愛し合う (20章)夜中まで語り合う
- 39) 熟練した宣教者 (21章)超一流の宣教者パウロの流儀  
神に捧げ、宣教報告をし、言語を使いこなして人々を獲得する。仕事を持ち、  
社会ルールを熟知し、神を恐れて真理を語る
  
- 40) 主の啓示の証を分かち合う (22章)証を大胆に語る
- 41) 主と歩む者は人々に元気を与える (27章)パウロが励ます
- 42) 信仰は実現する (27章)嵐の船から救出
- 43) 手を置いて祈る (28章)癒しが起こる
- 44) 家に招き、神の国とイエスを伝える(28章)

この 44 項目を、以下の 7 項目にまとめることができる。

### ①聖霊を求める祈りと聖霊の働き

- 1) 祈り (1章) 集まり、聖霊を求めて祈る
- 2) 聖霊 (2章) 聖霊の力に押し出されて主を証する
- 16) 聖霊のバプテスマ (8章,19章) 聖霊の満たしを祈る必要性  
洗礼を受けたクリスチャンにペテロとヨハネが手を置いて祈ると聖霊を受けた 8章  
洗礼を受けたクリスチャンにパウロが手を置くと聖霊が臨み異言と預言を受けた 19章

使徒の働きに記されている初代教会は、キリストを信じるものたちが「聖霊」を求めて祈ることから始まった。120人ほどが集まり、イエスが語られた「父の約束」である「聖霊」を求めて祈る中で、「聖霊」が注がれ、聖霊の満たしを受けて、使徒たちは大胆にキリストを証した。そのキリストの証言によって教会は誕生していく。さらにペテロとヨハネは使徒の働き 8章 15節で、「彼らが聖霊を受けるように祈った。」使徒の働き 19章 2節でパウロは「信じたとき、聖霊を受けましたか」と尋ね、「いいえ」と応える彼らに手を置いて「主イエスの名によってバプテスマを受けた。」19章 5節。すると。「聖霊が彼らに臨み、彼らは異言を語ったり、預言したりした。」(6節)のである。使徒の働きは「聖霊行伝」と言われることもあるが、それほどまでに、聖霊を求める祈りは教会において重要な位置を占めていることを聖書は教えている。

### ②互いの愛と弟子訓練

- 3) 愛の実践 (2章) イエスの教えを守り、愛を実践。持ち物も共有。分配。
- 4) 交わり (2章) 毎日食事を通してパンを裂き、祈り、賛美。
- 5) 教え (2章) 使徒たちの教えを守る。
- 21) 弟子訓練 (11章) パウロを探し育てるバルナバ
- 36) リーダーを教育する (20章) リーダーを集め、教育し、自分と群れ全体ケアをさせた
- 35) 弟子を励まし巡回する (20章) パウロは地方を回り弟子を励ました

使徒の働き 2章では、「互いに愛し合いなさい」というイエスの戒めを守り、持ち物を共有していた。さらに毎日集まって食事を共にし、パンを裂き、祈り、賛美していた。教会において土台となるような箇所が、使徒の働き 2章である。互いに交わり、愛し合うことが教会形成において非常に重要になる。「家々でパンを裂き」という言葉は、セルグループや家庭礼拝、家庭集会の根拠にもなる。「宮に集まり、家々でパンを裂き」という言葉から、教会での礼拝と家庭での交わりの両方が大切であることを読み取ることができる。

また、使徒たちの教えを守っていたことから、イエスの教えを守っていたとも言い換えることができるだろう。それは、イエスが教えたことであり、神と人を愛することであった。

使徒 11章 25,26節から大伝道者となったパウロでさえも、バルナバの熱心な諦めない弟子訓練によって成長していったことがわかる。その愛を受けたパウロはのちに、地方を回り弟子を励ますようになる。(使徒 20:2)互いに愛し合うこと。そして、弟子訓練が教会の基盤となって、強固な愛に満ちた教会を形成するのだ。

### ③超自然的な奇跡の神への賛美と祈りの力

- 6) イエスの御名～癒しと権威～ (3章)
  - 11) 不思議としるし (5章)
  - 22) とりなしの力 (12章) 教会の祈り、ペテロの救出
  - 31) 賛美の力 (16章) 牢獄で賛美する中で牢の鎖は解き放たれ救いが起こる
  - 43) 手を置いて祈る (28章) 癒しが起こる
- 12) 悪霊追い出し (5章)
- 17) 幻 (9章)

## 19) 死人の蘇り (9章)

使徒の働きの教会では、癒しと奇跡とするしが顕著に行われていたことを発見する。

その超自然的な神のわざは、「イエスの御名」による祈り(使徒3章6節)、「手を置いて祈る」(使徒28章8節)ことによって行われた。21世紀の現代においても神は変わることがない。信仰によって「イエスの御名で」「手を置いて」祈る時、癒しと奇跡とするしが行われていく。

神に不可能はなく、神にはどんなことでもできるという信仰は、教会形成において非常に重要な観点である。世界で一番大きな会衆を擁する「純福音教会」では「神様は良い方である」という信仰が浸透している。信じている対象がどのような神であるのか、それを悟るなら私たちの祈りは変わる。そして、超自然的な神のみわざが、私たちの人生に、教会に溢れるようになるのである。

使徒12章5-18節には、「教会の熱心なとりなしの祈り」によって御使いがペテロを牢獄から救出するという奇跡が記されている。

使徒16章25-24節には「賛美によって」牢獄の鎖が解き放たれ、看守の家族が救われていく奇跡が記されている。

教会の熱心なとりなしの祈りと賛美には、測り知れない力がある。そこには、悪魔の策略を打ち壊し、神の支配を広げ、神の奇跡の力を巻き起こす。

教会形成において、とりなしの祈りと賛美は非常に重要である。

### ④みことば

#### 9) みことばを大胆に語る (4章)

14) 神の言葉が最優先 (6章) 祈りとみことばに専念するのがリーダーの務め

27) 救いは恵みによる (15章) 割礼問題から福音の真髄

32) 熱心な聖書の学び (17章) 熱心に聖書を調べ学び受け入れる

34) 神の言葉を語り続ける (18章) 幻で主がパウロを励ます

みことばこそ、人の人生を造り変え、永遠の命を与えるものである。神はパウロを励まし、神のみことばを語るように導いた。みことばを熱心に学び受け入れた人々は、救われ、自由へと導かれていく。初代教会は急速な人数の増加に伴い、「神の言葉が後回し」(6章2節)になりそうな転換期において7人のリーダーを立てて奉仕を任せた。このことによって12弟子たちは「祈りと、みことばの奉仕に専念」(使徒6章4節)する体制を築いたのであった。神のみことばが教会において最優先であることをこの箇所は私たちに教えてくれている。

使徒15章における割礼問題は、福音の真髄が行いによるのではなく「神の恵みによる」ということを明らかにしている。神のみことばを教会から取り除いてはいけないし、教会の中で最優先にすべきことが、神のことばである。

### ⑤宣教と宣教師

20) 世界宣教が神の御心 (10章) 幻を通して示された異邦人宣教。世界宣教の幕開け。

29) 聖霊による宣教 (16章) 聖霊に聞きながら宣教は進められる

30) 全世界が宣教区 (16章) 周辺へ宣教し教え、教会は強められ人数も増えていく

23) 聖霊と教会による派遣 (13章) 祈りと断食の中で聖霊の導きに従う

25) 宣教報告の重要性 (14章) パウロは教会への宣教報告を欠かさなかった

39) 熟練した宣教師 (21章) 超一流の宣教師パウロの流儀

神に捧げ、宣教報告をし、言語を使いこなして人々を獲得する。仕事を持ち、社会ルールを熟知し、神を恐れて真理を語る

教会と宣教は切り離すことができない。使徒10章35,36節においてペテロに示された幻は、コルネリオへの幻によって確証された。「どこの国の人であっても、神を恐れ、正義を行う人

は、神に受け入れられます。神は、イスラエルの子らにみことばを送り、イエス・キリストによって平和の福音を宣べ伝えられました。このイエス・キリストはすべての人の主です。」

イスラエル民族だけではなく、世界宣教こそが神の御心であることが示されている。イエスが語られた「あらゆる国の人々を弟子としなさい。」(マタイ 28 章)「すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい」(マルコ 16 章)という大宣教命令は、まさに「世界宣教」を指し示すものである。

これは、弟子たちに委ねられた使命であると同時に、教会に与えられた使命でもある。

教会形成において、世界宣教は最優先事項である。それは神の御心そのものであり、「すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられ」(第一テモテ 2:4)という、神の情熱と願いを表している。

パウロはこの宣教を体現し、聖霊に聞きながら宣教は進められていった。さらにパウロは、教会から遣わされ、宣教旅行で神が働かれたみわざを実にまめに教会に「報告」している。(使徒 14 章 26-28 節)宣教報告は、宣教師にとって重要であり、教会全体にとっても重要な役割をになっている。さらにパウロは言語を使いこなし、仕事をもって人と関わり、人をキリストに獲得していった。ここから超一流宣教師としてのモデルを見ることができる。教会は宣教師を派遣することを追い求め、宣教師を積極的に支援していく教会を建て上げることは、神の御心に叶うといえる。

#### ⑥牧会体制と様々な奉仕

- 1 4) 神の言葉が最優先 (6 章)祈りとみことばに専念するのがリーダーの務め
- 1 5) 牧会チーム (6 章)規模が大きくなるにつれ組織化が必要
- 2 6) 問題はリーダーが話し合う(15 章)割礼問題に向き合う会議
- 2 8) 預言者の目的 (15 章)ユダとシラスは預言者であり、兄弟たちを励ました

牧会体制について使徒の働きは多くを教えてくれている。まず、祈りとみことばに専念することが、リーダーの務めであり、教会の規模が大きくなるにつれて牧会チームが必要となる。初代教会には、12 人の使徒と 7 人の御霊と知恵に満ちた評判の良いリーダーたちがいた。

使徒 2 章 41 節では 3000 人が救われ、毎日救いが起こっていった。

使徒 4 章 4 節の地点では男だけで 5000 人になっていることから、女や子どもも含めると少なく見積もっても 1 万人の信徒がいたと想像できる。多くの会衆を抱え、メガチャーチとして成長していった初代教会には、明確な牧会チームが形成された。(6 章 1-7 節)この牧会チームによって、「神のことばはますます広まっていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。」(6 章 7 節)のである。メガチャーチを建てようと思うなら、牧会チームが必要になる。

使徒の働き 15 章 32 節にはユダとシラスという預言者が教会にいたことがわかる。「預言者であったので、多くの言葉をもって兄弟たちを励まし、力づけた。」教会成長において、「預言」の役割は大きい。パウロがコリント人への手紙の中で「預言は教会の徳を高める」と語っているように、教会において預言の文化を築き上げていくことが教会成長においては重要である。パウロは、第一コリント 12 章 28 節の中で、教会の中で多くの役割をもつ人々がいることを語っている。「神は教会の中に、使徒たち、預言者たち、教師たち、力あるわざ、癒しの賜物、援助、管理、種々の異言を備えてくださいました。」様々な奉仕が教会にあり、キリストのからだの部分として働く中で、教会は建て上げられていくのである。

#### ⑦神を愛し、人を愛する ～キリスト者の価値観～

- 7) 迫害 (4 章)必ず迫害がある
- 8) 福音宣教～十字架につけられ蘇られたイエス～ (4 章)
- 1 0) 神への恐れ (5 章)アナニアとサツピラ
- 1 3) 神への従順 (5 章)人に従うより神に従うべき
- 1 8) 大胆さ (9 章)

- 2 4) 語るの、イエスの福音(13章)
- 3 3) テントメーカー (18章)一般の仕事をするシーズンがある
- 3 7) 受けるより与える (20章)パウロの生き方
- 3 8) 教会は愛し合う (20章)夜中まで語り合う
- 4 0) 主の啓示の証を分かち合う (22章)証を大胆に語る
- 4 1) 主と歩む者は人々に元気を与える (27章)パウロが励ます
- 4 2) 信仰は実現する (27章)嵐の船から救出
- 4 4) 家に招き、神の国とイエスを伝える(28章)

キリスト者の価値観について使徒の働きから多くを学ぶことができる。キリスト者には迫害があること、福音と証を伝えていく重要性。神を畏れる大切さ、神への従順の重要性。仕事をしながら宣教する者、人々を家に受け入れ、愛し、受けるより与える幸い。主と歩み、信仰によって歩み、神の国とイエス様を伝えていくこと等がある。「神を愛し、信頼し、従う。」こと。

「人を愛し、与え、キリストを証する」こと。さらに簡潔にするなら、「神を愛し、人を愛する」こと。このように生きるとき、キリストの素晴らしさは私たちのうちから溢れ、伝播していくのである。

以上のことから、使徒の働きが教える教会観とは、以下の7つに要約できる。

- ①聖霊を求める祈りと聖霊の働き
- ②互いの愛と弟子訓練
- ③超自然的な奇跡の神への賛美と祈りの力
- ④みことば
- ⑤宣教と宣教師
- ⑥牧会体制と様々な奉仕
- ⑦神を愛し、人を愛する

聖霊を求めて祈り、愛し合い、キリストの弟子を育てること。とりなしの祈りと賛美、イエスの御名をもって神の偉大なみわざを体験していくこと。みことばを土台とし、宣教に生き、宣教師を派遣すること。教会の規模に合わせた牧会チームを形成し、様々な奉仕を委ねてキリストのからだを建て上げ、神と人を愛して生きること。このように歩むことこそ、使徒の働きが教える教会成長の鍵である。

将来、教会を開拓する際は、使徒の働きの聖書観に基づいて、以下を教会のコアバリュー（価値観）として掲げたい。

- 「聖霊様を求める」
- 「弟子訓練と愛の実践」
- 「賛美と祈りと素晴らしい神への信仰」
- 「みことばに生きる」
- 「宣教への情熱」
- 「牧会チームと様々な奉仕者」
- 「神を愛し人を愛する」

## 章結

この章では、教会の定義、目的、聖書（イエス様とパウロ、使徒の働き）が語る教会観について考察した。聖書的な教会を建て上げるためにはみことばを土台として考えて見る中で以下の点が浮かび上がってきた。

教会を言語から定義すると、

「キリストを礼拝するために呼び集められた者たちの集まり」であり、

教会の目的とは、

「キリストを体現し、愛なる神の救いの御心を成し遂げること」である。

聖書（イエス様、パウロ）が教える教会観、神が教会に抱いている夢と期待とは、

- 1) 聖なる栄光の花嫁なる教会
- 2) すべてを満たす王の王なるキリストが満ちている教会
- 3) 人知を越える神の愛とキリストご自身に満ち溢れて、神に栄光を捧げる教会
- 4) リーダーたちが聖徒たちを整え、奉仕の働きをさせてキリストの身丈まで成熟する教会
- 5) ハデスの門を打ち壊し、神の御国の支配を解き放つ教会

であり、

使徒の働きが教える教会観とは、

- ①聖霊を求める祈りと聖霊の働き
- ②互いの愛と弟子訓練
- ③超自然的な奇跡の神への賛美と祈りの力
- ④みことば
- ⑤宣教と宣教師
- ⑥牧会体制と様々な奉仕
- ⑦神を愛し、人を愛する

ことである。

このような目的、ビジョン、価値観を土台として教会を形成していく者でありたいと願う。

### 第3章 日本においてメガチャーチを開拓する戦略（教会成長論）

世界には多くのメガチャーチが存在するが、日本においては2000人を超えるメガチャーチは非常に限られている。この章では、海外で用いられているメガチャーチの文献やインタビューを通して学んだことからどのようにして3万人を超えるのかという鍵を探っていく。また、日本という土壌においてどのようにすれば霊的にも質的にも力強い教会を建て上げられるのかを考察する。具体的な目標と計画を提示しつつ、主が将来、日本においてメガチャーチを開拓させてくださることを期待して、幻を記していきたい。

まず、3万人の教会を日本で開拓することは不可能ではなく可能であることを以下のみことばを根拠に宣言したい。

「主を自らの喜びとせよ。主はあなたの心の願いを叶えてくださる。」<sup>18</sup>詩篇 37:4

「神はみこころのままにあなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。すべてのことを、不平を言わずに、疑わずに行いなさい。」<sup>19</sup>ピリピ 2:14

<sup>18</sup> 詩篇 37:4 新改訳 2017

<sup>19</sup> ピリピ 2:14 新改訳 2017

「幻のない民は滅びる。」<sup>20</sup>箴言 29:18

「神にとって不可能なことは何もありません。」<sup>21</sup>ルカ 1:37

「見よ。わたしはすべての肉なる者の神、主である。

わたしにとって不可能なことが一つでもあろうか。」<sup>22</sup>エレミヤ 32:27

「信じる者には、どんなことでもできるのです。」<sup>23</sup>マルコ 9:23

「あなたが事を決めると、それは成り、あなたの道の上には光が輝く。」<sup>24</sup>ヨブ 22:28

神が与えられた志であるなら、疑わずに行う中で導かれていく。神を喜びとする中で、心の願いは叶えられることが詩篇には記されていることから、このメガチャーチ開拓に向けてまず自分自身が主を喜び、心から願い続ける者でありたいと思う。神に不可能なことはなく、信じる者にはどんなことでもできる。ヨブ記には「事を決めるとそれは成り」と記されているので、将来私はこのような教会を建て上げることを心に決めて、実現する前提でこの論文を書き進めていく。馬鹿にされても良い。主が建てた計画が実現するので、もしこのビジョンが実現しないのが主の御心であれば、それはそれで良い。主の御心になる事がベストである。この夢も主に委ねて、主に期待して、主の来られる道を備えるために用いられる事を祈りつつ、この章以降も筆を走らせていきたい。

## 第1節 どのように3万人を越えるのか

### メガチャーチの特徴

海外で大きな教会がなぜ3万人を超えるほどの教会に成長したのだろうか。さまざまな要因があるが、各教会を一言で表すなら以下の特徴が浮かび上がってくる。

#### ①アメリカ サドルバック教会

「教会の本質に従い、目的が主導する教会。量的と質的な成長を求める教会。」

#### ②韓国 オンヌリ教会

「福音と世界宣教の情熱、使徒の働きの教会を目指す明確なビジョンを持つ教会。」

「聖書的で明確な教会論と牧会哲学、方法論、チーム、リーダーシップを持つ教会」

#### ③韓国 水宮路教会

「祈りとみことばと神の恵みを求める教会」

#### ④韓国 ヨイド純福音教会

「信仰と祈り、区域礼拝の教会」

教会ごとに特徴は異なるが、共通していることがある。

それは、明確な方向性が聖書を土台として築き上げられていることである。

<sup>20</sup> 箴言 29:18 口語訳聖書 1995

<sup>21</sup> ルカ 1:37 新改訳 2017

<sup>22</sup> エレミヤ 32:27 新改訳 2017

<sup>23</sup> マルコ 9:23 新改訳 2017

<sup>24</sup> ヨブ 22:28 新改訳 2017

## 第2節 メガチャーチの理念

各教会には、様々な理念がある。成長している教会に見られる特徴の一つは、明確な「教会論」である。

関西聖書学院で「教会指導者論」で教えておられる道本先生が稲盛和夫<sup>25</sup>の言葉を引用してこのように話しておられた。

「リーダーには3つの要素が必要だ。

- 1) 情熱
- 2) 才能
- 3) 考え方 (センス)

(この中で) リーダーに大切なのは、考え方。列車は才能。情熱がエネルギー。レールが考え方 (センス)。センス (考え方) がものすごい大事。実績あるリーダーは生き方、考え方にセンスがある。」

まさに、リーダーがどのような「考え」を持っているかが教会全体を左右する。聖書的な「教会論」「牧会論」をもっている教会こそ、揺るがない土台の上に建てられた教会であるといえるだろう。この聖書的な「教会論」「牧会論」が信徒レベルにまで深く浸透し、実践されることを通して、教会は力強く成長するのである。

各教会の「教会論」「牧会論」を一言でまとめると以下のようになる。

### ①アメリカ サドルバック教会

サドルバック教会のリック・ウォレン牧師は、教会を始める前に、6ヶ月の教会について綿密な聖書研究を行い、開拓してからの数ヶ月は会衆と共に教会についての聖書箇所をすべて学んだ。<sup>26</sup>

そこから導き出されてきたのが、以下のモットーであり、目的である。

サドルバック教会のモットーは、

「大いなる戒めと大いなる委託 (大宣教命令) への大いなる献身が、大いなる教会を生み出す」<sup>27</sup> ということである。

教会の5つの目的として、以下が挙げられている。

- 1、心を尽くして主を愛すること
- 2、自分のように隣人を愛すること
- 3、行って弟子を作ること
- 4、バプテスマを授けること
- 5、従うように教えること<sup>28</sup>

---

<sup>25</sup> (日本の実業家、技術者。KDDI : au ブランドを中心とした大手通信キャリア などの創業者) 稲森和夫 ウィキペディア、KDDI ウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%B2%E7%9B%9B%E5%92%8C%E5%A4%AB>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/KDDI> 2016.1.30 閲覧

<sup>26</sup> 5つの目的が教会を動かす 90p,91p 参照

<sup>27</sup> 5つの目的が教会を動かす 97p

<sup>28</sup> 同上 91-101p

このようにキリストの言葉を土台に目的を明確化することによって、聖書的な土台に基づいた働きが展開されていくのである。

## ②韓国 オンヌリ教会

韓国オンヌリ教会のハ・ヨンジョ牧師はこのように語っている。

「教会論はどここの教会の場合でも根本は同じでなければならない。教会に対する一番重要な根拠は主イエスが教会に対してどのように語ったかにある。」<sup>29</sup>

ハ・ヨンジョ牧師は、著書の中で以下のようにも述べている。

「教会は主イエスの教会である。ある教派や神学思想が、主イエスの考えより優先されることはありえない。マタイ 16 章 13 節から 20 節を見れば、主イエスが最初に教会という言葉を使用したことがわかる。このみことばの中で主イエスが夢見ていた教会の 4 つの特徴を発見することができる。」<sup>30</sup>

- 1、信仰告白がはっきりしている人々の共同体
- 2、主イエスが主人である共同体
- 3、ハデスの門が打ち勝つことのできない共同体
- 4、天国の鍵をもっている共同体

主は生ける神の子キリストであると告白する者たち、主イエスを感じる教会、主イエスがくださる偉大な力を持つ教会、天の鍵という想像できないほどの特権を持つ教会。これこそ、オンヌリ教会の教会哲学であり、イエス様ご自身が語られた教会論でもある。

さて、ピリポ・カイサリアの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに「人々は人の子をだれだと言っていますか」とお尋ねになった。彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人たちも、エリヤだと言う人たちもいます。またほかの人たちはエレミヤだとか、預言者の一人だとか言っています。」イエスは彼らに言われた。

「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」シモン・ペテロが答えた。

「あなたは生ける神の子キリストです。」すると、イエスは彼に答えられた。「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです。このことをあなたに明らかにしたのは血肉ではなく、天におられるわたしの父です。そこで、わたしもあなたに言います。あなたはペテロです。

わたしはこの岩の上に、わたしの教会を建てます。よみの門もそれに打ち勝つことはできません。わたしはあなたに天の御国の鍵を与えます。あなたが地上でつなぐことは天においてもつなぐれ、あなたが地上で解くことは天においても解かれます。」

そのときイエスは弟子たちに、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と命じられた。<sup>31</sup>マタイの福音書 16:13-20

オンヌリ教会は全世界で 1000 人以上の宣教師を派遣している。(2011 年時)

さらに国内外に多くの教会を設立し、CGNTV などの衛星を用いた福音放送、ラブソナタという大規模な大衆伝道を行ってきた。ソウルにある本部のオンヌリ教会は、多い時には 7、8 万もの会衆がいた。これほどの大きな働きをしている教会ではあるが、この教会が成長したのは今(2025 年現在)から 37 年前という短期間での急成長であった。なぜオンヌリ教会がここまで成長したのかを考える時、明確な「牧会論」が浸透していたことが挙げられる。

ハ・ヨンジョ師の著書、「使徒の働きの教会をめざして」の中ではその「牧会哲学と牧会哲学方法論」が明確に記されている。

<sup>29</sup> 使徒の働きの教会をめざして 100p

<sup>30</sup> 同上 101-107p

<sup>31</sup> 新改訳聖書 2017 マタイ 16:13-20

「牧会哲学の基準は『使徒の働き』の教会論である」<sup>32</sup>

ハ・ヨンジョ師は使徒の働きの教会には 10 の特徴があることを記している。

- 1、聖霊に満たされた共同体である（二章）
- 2、イエスのように生活する共同体（二章）
- 3、毎日奇跡が起きる共同体教会である（三章）
- 4、苦難の中でも福音を伝える共同体である（四章）
- 5、聖さと聖潔と正直さを追い求める共同体である（五章）
- 6、信徒リーダーを立てる共同体である（六章）
- 7、殉教により生まれる共同体である（七章）
- 8、異邦人を受け入れる共同体である（十章）
- 9、地の果てまで宣教する教会（十三-二八章）
- 10、使徒の働き二九章を書いていく共同体である（二八章以後）

使徒の働きを牧会の土台として、オンヌリ教会の牧会哲学は形成されている。

さらに、この牧会哲学を実践する方法として取り組まれているのが「牧会哲学方法論」である。オンヌリ教会は使徒の働きから抽出した牧会論を、以下のような方法を通して実践している。

「オンヌリ教会は使徒の働きの共同体をなすための方法論として、礼拝と働き、みことばの分かち合い、みことばの宣言がある。そして QT と一対一養育訓練、小グループと共同体、伝道と宣教があり、奉仕と救済がある。これらは互いにひとつの組になっている。

教会論と牧会哲学がしっかり建てられると、聖霊に満ちた生きている礼拝が始まる。礼拝が生けると働きが満ちあふれ、みことばの分かち合いとみことばの宣言が現れる。そうすれば聖餐と養育が起き、まことの共同体がなされる。そしてこのすべての最終目的は宣教に向かうのである。」<sup>33</sup>

### ③韓国 水営路教会

韓国釜山で牧会している水営路教会（信徒数約 3 万人）の創立牧師、ジョン・ピルド師は非常に明確で単純な牧会論をもっている。

「牧会のすべては神様がなさることであって、人は神様に用いられる器にすぎない。神様に目を向け、神様の導きにただ従うだけである。そうすれば、牧会をする中で神様の尊い実が必ず結ばれると私は信じている。」<sup>34</sup>

彼は、牧会は神の働きであり、人は神に目を向け、神の導きにただ従うだけだ、と語る。彼の考え方はシンプルでありながら、真理であり、神の恵みにより頼む牧会であると思う。私もピルド師のようにシンプルに神に目を向け、神の導きにただ従う者でありたい。

彼の教会論も非常にシンプルである。

「誰がなんと言おうと、教会はこの世の希望である。」

<sup>32</sup> 使徒の働きの教会をめざして 131p

<sup>33</sup> 同上 156p

<sup>34</sup> 教会は祈りで建てられる 8p

この希望があるから、この国とこの世に未来がある。」<sup>35</sup>

「教会は私たちの希望である。私たちは教会を建てなければならない。教会を通して完全に一つのからだをなして、かしらであられる主を宣べ伝えなければならない。それが水営路教会が建てられた目的である。主と一つのからだをなして主の使命を果たすため、三十年前に水営路教会が建てられた。釜山と韓国と全世界に主の福音を伝えるために、1975年6月1日に水営路教会が建てられたのである。」<sup>36</sup>

教会は希望であり、キリストの体であり、主を全世界に伝えることが目的なのだ。

彼の牧会論の中で、特に特徴的なことが「祈り」である。彼の著書、「教会は祈りで建てられる」にはこのように記されている。

「ある日、その執事はこう言われた。

『伝道師先生、礼拝堂が教会員でいっぱいになることを望めますか。』私は目を大きく開き、答えた。『どうして、わざわざそのようなことを聞くのですか。当然いっぱいになることを望みますよ』すると、その方はこう言われた。『涙が、祈りの涙がここに満たされれば、礼拝堂は満たされるでしょう。教会員で満たすことは、それだけ大変なことです』<sup>37</sup>

ジョン・ピルド師はこの言葉が頭から離れず、主からのメッセージだと思い、その日から徹夜の祈りを始めた。

「私の祈りの涙が礼拝堂をすべて満たすことはできないが、小さな講壇一つくらいは、なんとか満たすことができるはずだ」と思い、講壇の前で泣き始めた。「できるだけいっぱい泣きながら、祈ろう」と決心した私は、鼻水、涙、流すことのできる水という水をすべて流しながら祈った。死んでいくたましいを救ってくださいと祈り、羊の群れを送ってくださいと祈り、みことばを与えてくださいと祈り、すでに教会に訪れた羊の群れに祝福を与えてくださいと祈った。そうしてしばらく泣きながら祈ったあと、体の角度を変えて座り直し、また泣きながら祈った。講壇を私の祈りの涙ですべて満たしたかったからだ。窓側にも向かって徹夜で祈った。「神様、この礼拝堂を満たしてください」。そう祈りながら礼拝堂をひとまわりし、徹夜で祈った。執事の言葉通りに、祈りの涙で満たされれば礼拝堂が満たされるなら、私の祈りの涙が足りなくて礼拝堂の席が空いては大変だ。涙を出して祈らなければと決心した通り、祈るたびに不思議にも涙が流れ出た。そして本当に驚くべきことが起こった。開拓教会を初めて3ヶ月目に百五十人が集まったため、その礼拝堂で礼拝をささげることができなくなったのだ。仕方なく、もう少し大きい場所に移転した。広い場所に移ればそこは狭くなり、そのためまた引っ越すということが一年に三回も続いた。

卒業を前に、主日の出席者を数えてみると約百七十名にもなっていた。その時私は、その執事という言葉が間違いではなかったことに気づいた。また、牧会者の姿を少しは知ることができたようであった。牧会者はどのような人だろうか。牧会者はたましいを思い、泣く人である。礼拝堂を涙で満たす人である。」<sup>38</sup>

「開拓教会に仕えていた期間、主は不完全で弱い私に、勝利の秘訣が何よりも祈りだと教えてくださった。『私が祈れば、神様がすべてのものをかなえてくださる』という信仰で臨む時、神様はその信仰をきよく見てくださることを、示してくださいました。

<sup>35</sup> 同上 236p

<sup>36</sup> 同上 238p

<sup>37</sup> 98p 「教会は祈りで建てられる」

<sup>38</sup> 98,99p 同上

私は幼い頃から、祈りのなかで主の大きな恵みを体験してきた。そして日が経つにつれ、そのような恵みはさらに加えられることはあっても、減ることはなかった。私が主に求めて、答えられなかったことはほとんどなかった。祈りは本当に神様の恵みを得る宝だった。」<sup>39</sup>

「神様に私たちは、祈りによってすべてを求めなければならない。そのように生きる道だけが、この世で勝利しながら生きる秘訣だ。イエス・キリストを信じながらも、幸せでないだろうか。祈りの答えのサインがある時まで、十分に祈らなければならない。祈る人には必ず恵みがあり、恵みを受ければ信仰が生まれ、信仰が生まれれば喜びと平安が溢れるようになる。この時初めて、私たちは幸せなクリスチャンになれるのだ。」<sup>40</sup>

水宮路教会の教会は執事の言葉を通して成長に導かれた。それは、「祈り」であり、涙の祈りであった。たましいを思い泣くことが、水宮路教会の成長の鍵であった。勝利の秘訣、恵みを得る宝、幸せなクリスチャンになる鍵は、「祈り」なのだ。

#### ④韓国 ヨイド純福音教会

世界最大の教会であるヨイド純福音教会は信徒数約 70 万人である。<sup>41</sup>この教会の牧師であるチャー・ヨンギ師の教会論は、彼の牧会生活の中で聖霊様に教えられたものであった。しかしそれは、使徒の働き 2 章に書いている初代教会の姿をヨイド純福音教会で採用したことにあった。

彼は教会成長の理由をこのように述べている。

「ヨイド純福音教会がこのように成長することができたのは、区域組織を通しての親交と福音伝道のためです。」<sup>42</sup>

彼は当時を振り返りその時の苦悩をこのように綴っている。

「その当時私は大変忙しく、疲労が積もり積もって疲れ果てていました。肉体的にも精神的にもあまりに無理をしすぎた結果でした。あらゆるメッセージをしなければならなかったし、どんなに遅くまで仕事があっても、翌日の早天祈祷のため朝早く起きなければなりません。家庭訪問の予定もぎっちり入っていましたし、また教会の管理と行政も任されていました。ある日もうこれ以上耐えられないという気がした夕方、私はメッセージをしながら意識を失って倒れてしまいました。」<sup>43</sup>

病院に運ばれた彼は、「メッセージだけはしなければならぬ」と言って講壇に戻り、再度意識を失い倒れました。次の週もメッセージを始めて 5 分後には倒れました。

「そして私はこのままでは牧会を続けることが不可能であると悟りました。…(中略)

私は主に泣き叫びました。…(中略)『天のお父様どうしたらいいのでしょうか。』私は聖書を読み始めました。…(中略)聖書を読んでいくうちに私は初代教会には二種類の牧会があったことに気がつきました。彼らは聖殿で集まって祈り、各家に集まって祈りました。彼らの主な働きは教えることと家に行き交わることでした。彼らは聖殿の集会で集まり共に祈り賛美し、家庭の集まりでもこのようにしました。…(中略)『家々の教会とは一体どういうものなのだろうか。』そんな疑問をもって読んで行くと、プリスカとアクラヤルデヤの家に教会があったという事実を見つけました。『家の中に教会?』『私もこの方法で牧会してはどうか。今の私には一軒一軒まわるとは到底不可能だから、男女の執事さんを立てて父なる神の御言葉を分かち合うように

<sup>39</sup> 105p 同上

<sup>40</sup> 107,108p 同上

<sup>41</sup> 13p 「山を移す信仰、火のくだる祈り」

<sup>42</sup> 72p 同上

<sup>43</sup> 72p 同上

し、使徒の教えを教えて共にパンを裂き、父なる神の愛を分け合い、そうして主日には教会に来て父なる神を賛美するというのはどうだろうか。」<sup>44</sup>

彼は、執事を呼び集め、出エジプト記 18:13-24 を分かち合い、家の教会を採用していったのであった。しかし、執事の反応は悪かった。主に祈る中で彼に示されたことは、「なぜ女性の執事には話さないのか」という言葉であった。神様は彼に女性にも分かち合うように語られ、そのようにすると、協力的に動いてくれたのであった。しかし男性は反対したので、そのことを神に祈ると、女性の執事に権限を与え、訓練をすることを示され、そのように行う中で純福音教会は拡大していったのであった。<sup>45</sup>

「そこで私は教材を作り、彼女たちを訓練させ、権限を与えました。…(中略)すると徐々に教会は安定を取り戻し、未信者が多く集まり始めました。男性たちも少しづつ、警戒を解いて、区域組織の良いところを理解してきました。現在の私の教会では無報酬で奉仕する区域長だけで 5 万人にもものぼります。」<sup>46</sup>

純福音の成長の理由は、使徒の働き 2 章に書いてある「家の教会」を取り入れたことにあった。信徒を訓練し、彼らに牧会を委ねていくこと。まさにこれは、モーセがイテロから受けた助言通りの聖書的な考えであり、新約聖書の使徒の働きにも見られる家の教会の姿である。聖書的な教会運営こそ、教会が健全に成長する鍵である。

チャー・ヨンギの牧会論は、3つに集約可能だ。

- 1、聖霊様との同伴
- 2、祈りの生活
- 3、家庭（夫婦関係）の優先順位である。

#### 1、聖霊様との同伴

「私は聖霊様を人格的に迎え歓迎し信頼しながら、聖霊様と同伴しています。聖霊様は多くの先輩の同労者となってくださり、主の御用をなすことができるよう助けておられます。」<sup>47</sup>

「私は意識的に聖霊様との交わりを発展させていきました。聖霊様は肉眼では見えませんが人格的であられるので聖霊様に人格的に対応しました。私は聖霊様に「力ある祈りができるよう私に油を注いでください。共にメッセージをしに一緒に行ってください。」と申し上げることにより、そのお方が私と共におられるのを切に感じ始めました。私は大能の力と、靈感において新しい次元に入るようになりました。すると当時三千名であった教会が、また成長し始めました。六千名になり、一万二千名になりました。そして 1969 年に 1 万八千名になったとき、父なる神はこう言われました。『今この教会はこの地から出て行って、世界最大の教会を建てなさい』1973 年父なる神が言われた通りヨイドに教会を建て、それ以来そこで 25 年以上牧会しています。…(中略) 私たちは何もない状態の中から始まって、七十万名の聖徒を持つ教会を建てるようになりました。聖霊様との交わりを通して私の教会は突然飛躍し始め、韓国のみならず世界的に強力な影響力を持ち始めたのでした。私は今この瞬間も必死で聖霊様に抛り頼んでいます。…(中略)このようにして私は人生の大部分を聖霊様に信頼して生きてきました。聖霊様の助けにより、私はこの巨大な教会をリードしていくことができました。このように聖霊様との交わりがいつも私を勝利に導いてくださいます。」<sup>48</sup>

<sup>44</sup> 74p 同上

<sup>45</sup> 76,77p 「山を移す信仰、火のくだる祈り」

<sup>46</sup> 77p 同上

<sup>47</sup> 122p 同上

<sup>48</sup> 134,135p 同上

チャー・ヨンギ師は、メッセージや祈り、本の執筆、英語に関すること、どんなことまで聖霊様を歓迎し、聖霊様を求め、聖霊様と交わることで、神の助けと大能の力を受けていった。

聖霊様との交わりによって、純福音教会は爆発的に成長したのである。

「そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。」<sup>49</sup>ヨハネ 14:16

「わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行い、さらに大きなわざを行います。わたしが父の元に行くからです。またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。あなたがたが、わたしの名によって何かをわたしに求めるなら、わたしがそれをしてあげます。」<sup>50</sup>ヨハネ 14:12-14

聖霊様は私たちの助け主であり、人格的なお方でもあり、私たちのうちに共に住んでくださっておられる。このお方との関係を深め、イエスの御名で求めるとき、驚くような神のみわざが起こされていくのである。ますます、聖霊様との交わりを愛し楽しみ、聖霊様によって歩む者でありたいと願う。

## 2、祈りの生活

彼の牧会で何よりも大切にしていたのは祈りであった。

「多くの方が私を訪ねてきます。『何が牧師の使役において最も重要ですか。』すると私はこう答えます。『私にとって最優先されるものは祈りです。』私は通常朝1時間か2時間祈ります。祈りは私の第二の天性になりました。今は祈らないと自分自身に対して怒りが込み上げてくるほどです。私は祈らずに1日を始めることはできません。私はまた昼食の時間、休みの時間に30分以上祈ります。そして夕方にはいつも1時間以上祈ります。そのような祈りの支えがなかったならば私は牧会の使役を決して十分に果たすことができません。」<sup>51</sup>

祈りこそ、牧会において欠かせない要素なのである。

「私が牧会の使役を始めていつの間にか四十年の月日が流れました。年若く天幕教会でご用を始めたのがまさに昨日のことのようです。リンゴ箱の上で説教をしたことを生々しく思い出します。時たま過ぎし日を思い返しながらかのように自ら問いかけてみます。『このように多くの欠点がある私がなぜこのように多くの群に仕えるようになったのか。』これに対する答はいつも同じです。『それは祈りのためでしょう。祈りが私を父なる神の道具として用いられるようにしてくれたのだ。』そうです。私の人生と働きにおいて最も大きな原動力はまさに祈りです。これまでの間、私は喜ばしいときも悲しいときも、苦難の時も、病めるときも、寂しいときも、常に祈りにだけすがりつき、その結果祈りを通して父なる神の大能の力を現すことができました。祈りが弱い私と教会を支えてくれる丈夫な支えになってくれたのです。もはや祈りは私の呼吸と同じです。勿論すべてのクリスチャンたちにとっても祈りは呼吸であるばかりか、父なる神の御前に進んで行く道になります。またすべてのクリスチャンに生命力の溢れる信仰、父なる神と交わる信仰を維持するようにさせます。ですから偉大な事は祈る人によって成就されるのです。」<sup>52</sup>

世界最大の教会が生まれた理由、それは、彼の祈りにあったと言っても過言ではないだろう。神は欠けがある私たちを用いて、その祈りを聞かれ、全能の御力を持って働かれるのである。

<sup>49</sup> ヨハネ 14:16 新改訳聖書 2017

<sup>50</sup> ヨハネ 14:12-14 新改訳聖書 2017

<sup>51</sup> 102p 「山を移す信仰、火のくだる祈り」

<sup>52</sup> 142p 同上

彼は著書の中で祈ることによって、悔い改めに導かれ、神の前に正しく立つことができるようになる。さらに、人々がついてくるようになる。そして、祈りによって、イエスの御名によってサタンを退けることができる、ということ述べている。

「韓国では一千万のクリスチャンたちが祈っています。早天祈祷会、徹夜祈祷、区域礼拝などで熱心に祈っています。私たちがあまりにも多く祈るので聖霊様のみわざが特別に強力に現れ、空中の権力を握っている悪魔の勢力が破壊されるので福音の働きが活発に展開できるのです。」<sup>53</sup>

教会の熱心な祈りによって、神の救いのみわざが力強く行われていくのである。

「体系的な祈りのプログラムを利用するならば、皆さんは隣人と町に影響力を与えるようになるでしょう。父なる神の権威が皆さんに臨むようになります。素晴らしい、驚くべき事が聖霊様によって起こることでしょう。祈る時聖霊様の約束の御言葉が皆さんの中で新しい活力で溢れ出るようになるのです。」<sup>54</sup>

ますます、祈りと大切にする歩みへ導かれ、そのような祈りを大切にす教会を築いていきたいと願う。

彼は国によって悪霊の力が違うことを述べている。そして、日本で靈的に勝利する秘訣についてこのように述べている。

「日本に行くなら八百万の雑神がいます。そのためにそこで福音を伝えようとしたなら、私は息が詰まって即座に死んでしまいそうになりました。私はそういう自分が厭でした。日本では教会に五十名信徒がいるなら、その牧師は有名人のようにふるまいます。そこでは五十名の徒が集まっても大きな事を成し遂げたことになります。そして伝道集會に五百名があつまったら最高水準です。難しいところです。ですから日本で靈的に勝利するには五時間の祈りが必要です。ホテルの部屋でひざまずいて五時間祈らずにはメッセージしようとは思わない方がいいです。そのようにした時はじめて彼らの心に届くメッセージをすることができるのです。」

日本で靈的に勝利するには五時間の祈りが必要である。

これは、どれほど靈的な戦いが激しい国なのかを示唆している。もし日本で3万人のメガチャーチを建てることを願うなら、まずは祈りによって敵の要塞を打ち破っていく必要がある。

### 3、家庭優先

夫婦関係の優先順位については、第5章で述べる。

#### 章結

この章では、メガチャーチが成長してきた理由について考察してきた。サドルバック教会、オンヌリ教会、水宮路教会、純福音に共通していることは何であろうか。これらの3万人を超える海外のメガチャーチが成長している要因を挙げるなら、以下の4つにまとめることが可能だ。

- 1、祈り
- 2、セルグループ（家の教会、教区礼拝とも言われる、使徒2章）
- 3、宣教の使命（大宣教命令、マタイ16章、マルコ28章）
- 4、神への従順と聖霊様との同伴

である。明確な世界宣教の使命を持ち、祈りと神への従順を持って歩む牧会者と使徒の働き2章にある家の教会（セルグループ）システムを取り入れている教会は力強く成長している。

---

<sup>53</sup> 112p 同上

<sup>54</sup> 140p 同上

日本において3万人のメガチャーチを建てるために必要なのは、まず第一に熱烈な祈りである。第二にセルグループを組織し、セルリーダーを育てること。この際、女性にも権限を委ねることが大切だ。第三に、大宣教命令を使命として、第四に神への従順と聖霊様との親しい歩みによって、日本の教会は拡大し、成長していくのである。

## 第4章 日本という文化の土壌で教会成長するために

海外の3万人を超えるメガチャーチが成長してきた要因を考察する中で、祈り、セルグループ、宣教の使命、神への従順と聖霊様との同伴という4つの共通点が浮かび上がってきた。

しかし、日本国においては万を超えるようなメガチャーチは存在していない。どのようにしたら日本という文化の土壌で教会が成長するのかをこの章では考察する。

方法としては、実際に国内外で豊かな実を結んでいる教会をインタビューし、その中から教えられたことを考察しつつ具体的な目標と計画を提示していきたい。

### 第1節 日本で成長している教会のインタビューから見えてくるもの ～実を結んでいる教会のインタビューから学ぶ～

今回、4つの日本で用いられている教会にインタビューを行った。どの教会も、明確なビジョンを持ち、牧師が良きリーダーシップを発揮していることが印象的であった。インタビューを行った教会で学んだ大切な3ポイントを記していく。

#### (1) 本郷台キリスト教会 池田恵賜先生

私が東京基督教大学に在籍した時、超教派の賛美集会「House of the Lord」を聖霊様に導かれて始める運びとなった。多くの人が入れる会場を祈り求める中で、第4回目の開催が、本郷台キリスト教会で行われることになった。大学4年の1月18日、本郷台キリスト教会に足を踏み入れた時に、衝撃を受けた。それは、その教会の方々との交わりを通して、温かい神様の愛を感じたからであった。多くの信徒から神様の愛と喜びが溢れていた。さらに、教会の方々の中で多くの祈り手がおられ、この集会のために祈ってくださっていた。館内を回ると、祈りの部屋があり、感動した。地域でもお祭りをを行い、大胆に地域に伝道している姿に励まされた。この出来事以来、私の心には疑問があった。それは、本郷台キリスト教会の人はなぜ、これほどまでに愛と喜び溢れているのか。どのような教会形成をすればこのような教会が生まれるのだろうか、ということであった。KBIのカイロスコースに本郷台キリスト教会のスタッフ方が来られ、連絡先を交換し、池田恵賜先生に繋げていただいてインタビューをさせていただく機会を得ることができた。そのインタビューの中で、この教会がここまで成長した理由はこの3点であると感じた。

- 1、地域に仕えるという明確なビジョン
- 2、聖霊への従順と祈り
- 3、チーム牧会とセルグループ

この3点である。

### 1、地域に仕えるという明確なビジョン

明確なビジョンを池田博師（池田恵賜師の父）は掲げた。

「①地域に仕える。②世界に宣教師を送り出す」の2つ。

このビジョンをもとに、廃品回収の仕事をしながらかつて18年間教会と両立していった。教会員の反発もあり、人数は半分になった。「もう(牧会を)やめます」と言った博師に対して、老婦人が励ましてくれて、継続することになった。自分が捨て石となり、地域に仕える中で50人の壁を突破し、80人に成長した。本郷台は、NPO、サッカースクール、チャーチスクール、デイサービス、保育園などの多くの働きを展開しているが、そのすべては、ビジョンに基づいている。

### 2、聖霊への従順と祈り

100人の壁は、役員との対立であった。役員会が勝手に開かれており、牧師が呼び出されダメ出しされた。メッセージスタイルや、さまざまなことに対する批判を受けた。しかし聖霊が、「言われたことを聞きなさい」と語られ、博師はその言葉を聞いて祈った。韓国の祁答院にもいき、断食し、講壇の所で1週間祈り続けた。すると、役員の方から悔い改めます、という話が来た。この難しい牧師批判の局面で、牧師が聖霊の声に聞き従い、謙って祈る中で、教会は100人を超えるまでに成長していった。

### 3、チーム牧会とセルグループと計画

池田恵賜師がアメリカに6年留学に行かれた。行く前の教会員は120人であったが、帰国すると250人になっていた。教会は活発になっていた。

その時期に、池田博師はアジアアクセスが主催する教会成長セミナーに行き学びを積まれた。そこで学んだことは、複数牧会とセルグループを取り入れ、5ヵ年計画を立てることであった。複数人で牧会を行うチーム牧会、セルグループの導入と、具体的な計画を建てることによつて、200人の壁は突破されていった。ビジョンの力と複数牧会、セルグループが200人の壁を越える鍵となった。さらにビジョンに基づき、地域に根ざして仕えていく中で、人々が救われていき、300人を超えていったのである。

## (2) 加古川バプテスト教会 梅谷悟先生

私はホームスクーリングという教育で育ったのだが、年に数回、ホームスクーリングとチャーチスクーリングをしている人たちが合流して、「主の教育と訓戒」をテーマに学び、交流する機会が与えられていた。私が中高生だった時、チャーチ&ホームスクーリングコンベンションに参加した。そこで友達になった何人かが、加古川バプテスト教会出身であった。この教会にはチャーチスクールが付属されており、多くの神を愛する青年や子どもたちがいた。友達になった彼らの気さくさや明るい雰囲気にも励まされていた。彼らからは大きな教会だと聞き、気になっていた。宣教師も輩出しており、KBIの先輩からは加古川バプテスト教会の良い噂を聞いた。教会成長に関心がある私にとって、良い噂がある大きな教会は、とても興味深かった。ちょうど兵庫県を車で走らせていると、近くに加古川バプテスト教会があることがわかり、電話して訪問しても良いか確認すると快く了承して下さった。スタッフの方に教会を案内していただき、その施設の規模感に圧倒された。後日、その方に連絡を取り、以前主任牧師であった梅谷悟師にインタビューを伺う機会が与えられた。この教会がここまで成長した理由は、以下の3つであると思う。

#### 1、次世代、次の人を育てる

#### 2、「ゆりかごから墓場まで全世代で主を礼拝する」というビジョンと使命と価値観

#### 3、戦略的な成長戦略～セルグループと弟子訓練、チーム牧会～

この3つである。

## 1、次世代、次の人を育てる

チャーチスクールを持つ加古川バプテスト教会は、1970年にアメリカ人宣教師が加古川で宣教を始められた。1973年に梅谷悟師が伝道師に就任し、1975年からは牧師となった。初期は30人ほどの群れであった。その中で、部活で中学生から教会に来なくなっていった。頑張っただけで教会に来て、「なんで先週来なかったの？」と冷たい視線を送る教会員。それを3回ほどすると、教会に来なくなった。家庭に何を伝えるかが大切だと考え、その子達が礼拝できるようにするため、チャーチスクールを始めた。子供の責任ではなく大人の責任であると受け止め、子どもたちを祝福するため、この子達が「礼拝できるようになるため」に始まったのがチャーチスクールであった。「次の世代を祝福させる」ことを大切にして、

大事な集会でも若い人に賛美リードやPPを任せていった。牧会者は、中高生たちを、次の人を育てることを今でも変わらず大切にしているのが加古川バプテスト教会であり、のびのび生き生きと子どもたちが過ごしていた。チャーチスクールではビジョンを分かち合い、チャーチスクールを卒業した子どもたちが、教会の保育園で働きたい！と志願していくことを聞き感銘を受けた。教会学校には、65-70名の子どもたちが毎週集っている。「子どもたちを祝福すること」がこの教会の成長の鍵だと感じた。

弟子訓練で教えられたことは、「子供たちを育てていく」ということであった。特に、宣教ツアーへ連れていく。イスラエル、様々なツアーに連れて行き、そこで宣教の思いが与えられていく。海外の奉仕に呼ばれても、子どもたちを連れていき、食事を払うそうだ。

教会学校のビジョンは、「チームジーザス(受けるより与える者となる)」

70名の子どもたち。現在65名ほど。70名来てくださるとみんなで祈るとくる。みんな喜ぶ。

- ・スタッフは20名。成長の本からメッセージをして教えている。

- ・宣教師を目指して育てる。

宣教師はどこでも活路を見出し、どんな状況でも与える姿が必要なので、どんな職場、状況でも地の塩、世の光となることができる。

みんな奉仕大好き。チームとなる。

- ・そのために意識していることは、

CSは子供をお世話する場所ではなく、子どもたち(0歳～)が

イエス様の協力者になりチームとなる

大人は上から目線ではなく、一緒に子どもたちと同労者(チームメンバー)として役に立つ

- ・正しい自己評価をする。

被害者意識で生きない。父母に感謝する。

自分を低く見積もらない。

神の子、王子、王女として生きる。非常に良かった。神の子。

その結果、与えることができる、役に立つ人として生きる。

- ・エンカウンターキャンプ

傷から解放され、そのまま受け入れられる神の愛を全員が経験する2泊3日

特に次世代を育てる。次の人を育てることが加古川バプテスト教会成長の基盤にある。

## 2、明確なビジョンと明確な使命「全世代で主を礼拝する」「礼拝、宣教、交わり」

「生まれたばかりの赤ちゃんから天に召されるまで、ともに礼拝する教会」をビジョンに掲げ、教会内にはこども園、チャーチスクール、介護施設、訪問看護ステーションがある。車椅子でも礼拝に参加することができ、全世代が集って約400名主を礼拝する姿は圧巻であった。主の

臨在と喜びが溢れていた。何よりも教会が大切にしているのは、「全世代が主を礼拝すること」であった。その明確なビジョンのために、すべての働きが動いている。

さらに、教会の使命が明確に打ち出されていた。それは、「礼拝、宣教、交わり」である。子どもでさえも、この使命を語るができる。簡単にわかりやすく教会の使命を、教会員全員が理解しているゆえに、教会の働きは明快である。教会員が何かをする時にこの働きに当てはまるのであれば、実践していけるそうだ。文字化された明確なテーマがあるからこそ、教会が教会としてブレずに機能するのだと教えられた。

### 3、戦略的な成長戦略 ～セルグループと牧会体制、組織を変える時～

牧師が教会成長に対する戦略をもっていることを肌で感じるインタビューであった。

牧師の書斎は、まるで図書館のように多くの本が陳列されていた。悟師のお話を聞く中で、印象的だったのは、非常に戦略家であるということであった。圧倒的な学びの量と的を得たアウトプットが行われていた。特にセルグループが、加古川バプテスト教会の生き生きとしたエネルギーの源となっていると感じた。

セルは教会の体質であり細胞であると捉えておられた。セルで行うことは、ビジョンの共有をすることである、と明確な方向性が定まっていた。人数は10人。神の基準。セルには、リーダーがいて、ヘルパーがいた。ヘルパーはセルリーダーを育てる責任がある。セルリーダーがいないとセルは増やせない。セルリーダーとヘルパーがいるのは、人々を育てるためであった。教会のビジョンがないと人々は見えないが、セルによって教会のすべての人にビジョンが共有され、動いていく。「ビジョンは血液のよう。」と語っておられた。

牧会体制は、チーム牧会であった。10人もの牧師がいる。役員会は今はない。

宗教法人法に基づく名前だけは存在する。この規模になると役員は400人を見れないと話されていた。

教会が成長した要因について質問する中で、「壁は教会の組織が変わるときだ」と話されていた。「バプテストなので会衆性であったが、民主主義を聖書は教えている訳ではない。その数が集まるときに変わる組織体制がある。」

悟師は、バーンアウトを機に、「お世話教会から脱皮します」と教会員に言った。その際にお世話して欲しい教会員の1割が去ったそうだ。モーセがイテロの助言を受けて頭を立てていったように、役員会で決めるのではなく、教会のリーダーが決めていくように方向性を変えられた。日本において大きな教会を建てようとするなら、ある人数まで来た時には役員で決めるのではなく、チーム牧会に切り替えていくことが必要になると教えられた。

### (3) Be One 大阪 フォーセット先生

関西圏でこれまでの教会の固定概念に全く縛られず、自由に生き生きと教会形成されているのがBe One 大阪である。この教会は3人の牧師のチーム牧会で3拠点で教会を開拓中だ。(2025年現在) 勢いがあり、どんどんと教会が成長している。この教会から多くの人がKBIでも学んでおり、牧師の1人である佐伯淳平師は関西聖書学院でも教えている。私はこの教会が多くの実を急速に結んでいる話を聞き、聖霊の働きが豊かにあることを聞く中でさらにこの教会を知りたいと思った。1度オンライン礼拝に参加したが、オンライン越しにも神の大きな恵みと感動が伝わってきた。牧師の1人であるフォーセット師にインタビューする機会を得た。このインタビューは、私の教会観を覆してしまうほど、衝撃的な内容であった。私は思った。「本当にメガチャーチを日本で建てることを目指すべきだろうか？」と。Be One大阪の成長の秘訣を3つにまとめた。

## 1、大切なのはぶどう酒である本質。

Visionは、「主を愛し、主の愛に満たされ、主の愛を広げたい」ということ。

「フォーカスは、主の愛。」神の愛、神を、互いに愛し神の愛を広げたい。

互いに愛し合うことに焦点を置くと変になるので、第一に主を愛する。何よりも大切にしていることは、神を愛することであった。人を愛する以前に、まず、神を愛する。それが第一なのだ。この教訓を分裂を通して学んだということを佐伯淳平師がCPRCという講義の中で話しておられた。「大事なものは主を愛するという本質。数が目標ではない。」この言葉は、人数を気にしがちな私の心に突き刺さった。

「ビジョンに昔は縛られてたが、今は柔軟性がある。ビジョンはぶどう酒（本質）にフォーカスする。皮袋（何人）とかにフォーカスしない！主を愛することがビジョンなら縛られない。

『何人目指しましょう！』と言うなら、皮袋がビジョンになってしまう。そう言う話はしない。リーダーでも人数のことは話さない。

「ぶどう酒（本質）にフォーカスしたら人が集まってくると思う。」フォーセット師の語る言葉には説得力があった。

この話を聞いて、人数をビジョンにしていくなら縛られていくことを学んだ。人数を求めるのではなく、主を愛することをビジョンにしていきたいと思った。これはとても大事な学びであった。本質をビジョンにし、本質にフォーカスしていこうと思う。

このインタビューは、この卒論で、衝撃的な学びだった。

Be One は日本の文化適応に成功していた。日本人の関係性を大事にする文化を逆手に取り、大きさを目指すのではなく、本質を追求していた。これが、大事だと思った。

本質にフォーカスして人が集まっている先生の言葉には説得力があった。

私は人数にフォーカスし、人数を求めて祈っている教会に行ったが、人が減っているという話を聞いた。3万人教会を目指したいなら、人数を求めて祈るのではなく、本質をとことん追求していくことが必要なのかもしれないと考えさせられた。聖書は、使徒の働きは、何を語るのだろうか。神が教えている姿を追い求めていきたい。

## 2、愛し、励まし、歓迎する。弟子作り。

「教会に来ているのはすごいことだと思う。くる人を奉仕させるマインドじゃなく、その人が、本当に励まされますように！と言うマインド。教会に行ったら本当に養われる。励まされる。そういう教会でありたい。それをよく考えてる。」

本当に励ましを与えることを考え、励ますことを求めている牧会。これは、非常に大事な考え方だと思わされた。

「敷居が低い教会でありたい。そういう教会でありたい。入ってくる人を歓迎し、アットホームで。わかりやすく、聖霊の働きを望んでいるが躓かないように、日曜の礼拝は異言とかを求めない。人が求めているのは、愛され、歓迎され、大切にされること。初めての人は気を配って行く。初めての人にライン交換しない。情報をもろうためとか言ってやらない。入りやすい教会。矯正してない。多くの人がめっちゃ熱心になっていく。みんな熱心。当番とかない。賛美の当番はじゅんぺい（佐伯淳平師）が作ってる。毎週毎週。掃除も毎週作るから、人が縛られない。登板はしんどくなる。無理やり役員に入り、ハードな仕事させられしんどくなる。しんどくなったらいつって一って。いつもいう。無理で一すといったらOK!と変わる。」

初めて来られる方に視線を合わせ、歓迎する雰囲気作り。奉仕も、無理にさせないこと。奉仕は、恵みによって押し出されて喜んで捧げていくものであるという意識に感動した。私も神の恵みによって教会を牧会していく器でありたい。

## 弟子作り

「行って弟子を作りなさい、フォローイングジーザスの学びをいつもやっている。徹底的に。長年のクリスチャンであっても、恵みの福音を抑えたい。2-3人、4人のグループでやっている。同時進行で十何個のグループがある。「自由にやり〜」と言っている。まだやっていない人を見つける。自分であった時間帯で、本に縛られない。フォローイングを行っていく。祈りなさい。与えること。一生取り組んでいくこと。いつもの課題。人が弟子になることを目指している。イエスがどう弟子を作ったのか。イエスが教会を開いたわけじゃない。人を育てることには、必死。コロサイ1:27-奥義はうちにおられるキリスト、栄光の望み。コロサイ1:28-キリスト位あって、成熟したものとして立たせるためです。これがテーマ。」

Be One大阪が大事にしていることは、弟子作りであった。これはまさに、イエス様が教えられたことであり、非常に聖書的であると思った。教会の教職者だけではなく、万人祭司としてすべてのクリスチャンが弟子作りという大宣教命令を実践するように育てることができれば、それは測り知れない力を持った教会になると思った。私も弟子訓練を全ての信徒が喜んで実践できるように励ましていく牧会者になりたいと思った。

### 3、恵みの福音と聖霊による神との出会いを求める

#### 「恵みの福音」

「1) 十字架、復活、恵みの中に応答し、2) 恵みの中に歩む。これを中心に、この1と2のメッセージばかり。日曜はこれに似たメッセージばかり。初めての人にもわかるメッセージ。簡単で単純。パリサイ主義、～主義を置いてパフォーマンスでなく、人を養うことに目を留めていく。」

教会の説教は非常に大事だと思う。そして、一貫して十字架と復活と恵みを強調し、恵みに生きることを励ます礼拝スタイルはとても良いなと思った。

#### 「聖霊による出会い」

「聖霊により満たされ、主に会おう。そのためにいつも祈る。

メッセージ、賛美を通して一人ひとりが主に会おう、カタリスト（物事の変化や進展を引き起こし、加速させる存在、きっかけ）になりたい。初めての人も礼拝の中で泣いている、理屈はなくても心触れられ、応答する人がたくさん起こされていく。主に会おうことが不可欠。主の愛が神の恵み語りつつ聖霊が働く。礼拝のメイン。訓練というより、「すべての人が迎えられる礼拝を目指してる」よいWebサイト。イエスについて何も知らない人がくる。どうイエスを信じるか。みんななんか出会いを求めている。モザンビークで真理を求めている。日本人はイエスはわからないが、神の愛に触れられると心開く。その後真理をかたる。followingジーザスしてもわからない。聖書開けたことない。どうやって本質を伝えるか。主にあって心を開き、聖霊のバプテスマを受ける。」

何より、牧師たちが聖霊の満たしと主との出会いを求めて祈っていくことが非常に大切なのだと学ばさせられた。

### (4) 京都シオンの丘キリスト教会

KBI覚える日で訪問した京都シオンの丘キリスト教会は、大きな広い敷地に建てられていた。施設も大きいのだが、そこに集っている教会の方々の信仰に大きな励ましを受けた。約100人以上が礼拝に集い、全身全霊で主を礼拝している姿は美しかった。教会の成長は人数だけではなく、信徒一人一人の信仰によっても見ることができる。私は京都シオンの丘キリスト教会の方々と交

わる中で、一人一人に与えられた信仰に、大きな恵みと励ましを受けた。一人一人が、真剣に神を求め、神に繋がり、神に従っている様子であった。

## 1、祈りとビジョン

牧師である後藤利昭師のビジョンは、非常に壮大なものであった。

「プロ野球の場所で、24時間ずっと継続されているんです。来る人、帰る人がいて、スペシャルの歌もあるが、賛美があり、自然に祈り、メッセージがあり、祈りの霊が注がれ、癒され、解放され、繰り返し、繰り返されていた。信徒も教会のリーダーも、いろいろな教派があるとか考えていなかった。どこに属していても、そこにきた魂は新たにされて、満たされて、ずっと続く聖会が、関西、関東の地域で、その地域の教会の人が集っていた。この本を出すと、アッセンブリーの天野先生も同じことを言っていた。」

彼のビジョンを聞く中で大きな感動を覚えた。私もいつかそのような光景を見たいと願っていたからだ。主は大きなビジョンを下さるお方。その景色を見るためにこの人生を主に捧げていきたいと心燃やされた。

さらに教会では、毎朝早天祈祷会が行われていた。日曜の朝早く、教会の廊下から後藤先生が異言で祈り主に求めて歩く祈り声が聞こえてきて、肌で聖霊の息吹を感じた。

さらに礼拝40分前から、多くの信徒たちが異言で祈りつつ主を求める姿に感動を覚えた。賛美では圧倒的な臨在が注がれていた。祈りが、教会の働きの核をなし、聖霊の注ぎが溢れていた。祈りを何よりも大切にする教会を建て上げていく者でありたい。

## 2、教会学校と弟子訓練とセル

### 「教会学校」

ある青年と過ごしていると彼は言った。「この教会は、魅力的な教会だと思います」この言葉を聞いて、素晴らしいなと思った。自分の通っている母教会が心から魅力的、と思えない自分がいたからだ。しかし私も心から魅力的な教会だ！と思える教会を建て上げていきたいと思った。それで、この魅力的な教会を建て上げる秘訣を知りたくて、後藤先生に質問した。

「教会で大切にしていることはありますか？」

「教会学校を続けてきた。それだと思います。」

子供も大人の礼拝に出る赤ちゃんも。大人よりも子供の方が礼拝で受けている。礼拝で流れているものを与えること。霊の流れを大人以上に受け止める。たとえ礼拝中子供がうるさくても受け止める。ずっとは続かないから。」

大切にしていたのは、教会学校を続けていたこと。教会学校の中高科で奉仕させていただいたが、本当にこの教会の教会学校には命が流れてるなと思わされていた。子供を大切にしていた。

私の母教会では教会学校が現在休止している。この働きを回復させ、復興させていきたいと思わされた。また開拓する際には、子どもを大切にする教会でありたいと思う。

### 「弟子訓練」

さらに伝道師である井上先生が高校生や青年と一対一で向き合い、好きなお店に行き交わり、祈り、性についても教える時間をとっておられた。この時間こそ、弟子訓練であり彼らが生き生きと成長していく鉤なのだと思わされた。このように一人の魂を心から愛し、愛に満ちたコミュニティを築いていきたいと思わされた。

### 「セルグループ」

セルグループも実践しておられた。やはり、100人規模を超える教会はセルを導入している。また、愛の交わりを深めるためにも人数的な規模感を上げるなら、セルグループの導入は欠かせないものなのだと再認識させられた。

「小グループのリーダーは信徒の人。初代教会を考えたら、家の教会のリーダーがしていた。パンを裂き、交わり、初代教会のやり方そのものだった。第一礼拝以外は小グループで、教派の中でも牧師が信徒に委ね、任せることが可能。セルは7,8人まで。それ以上になると難しい。セルのリーダーはどう育てるのですか？と聞いたら、メインリーダーとサブリーダーを立ててやる。セルを分けたら、サブの人がリーダーに立ってもらおう。セルで集まる頻度は、月1,2回」

セル（小グループ）のリーダーを立てて、聖餐式も任せていた。多くの教団教派は聖餐式を行えるのは牧師に限定されている。しかし聖書には、牧師が行うなどとは記されていない。信徒に聖餐式を任せることで、益々、十字架の愛を確認していくことができる。Be One大阪も聖餐式を信徒に委ねていた。私が大学生の時に奉仕教会で仕えていた播義也師（アジアアクセスジャパン代表）が牧会する埼玉のぞみチャペルでも、教会開拓を行い、神学生に聖餐式を委ねていた。私も教会を開拓する際は、信徒リーダーに聖餐式を教え、委ねていくものでありたいと思った。

また、インタビューさせていただいた多くの教会は、セルの人数は8人以下がベストであるという意見が多かったのも印象的であった。

### 3、使徒の働きモデル 聖霊の働き、5職

京都シオンの丘キリスト教会が霊的に成熟していると感じた理由は、使徒の働きが教会論のモデルとして実践されていることであると思わされた。特に聖霊の働きについての理解と飢え渴き、5職に対する見解は現代の日本における保守的なキリスト教会の流れからは受け入れられないかもしれない。しかし、まさに聖書的、使徒的であった。

#### 「聖霊の働き」

「聖霊に満たされ、神と共に働く。

みことばが開かれてく。みわざと共に働く。謙り求めてく。やったことではなく、御霊の声に聞いていける。油を受けから待ち望む。神の働きには、技術はない。資格もない。御霊の声を従順に従うか。油注ぎを求め、従順に従えるか。言葉のうまさではない。私だけども、神と共に生きることを学びつつ、受けたことを流し出していく。ただそれだけだと思う。初代教会は、謙り、御霊の声に聞き従い、その油に満たされ、御用をした。その一点だと思う。聖霊の声に聞き従いつつ、開かれていく、従順な器を主は求めておられる。主はとんでもない働きを日本の教会にされると思う。」「油注ぎで人生を導く」

聖霊の働きに飢え渴き、聖霊の油注ぎを求め、聖霊の声に従うなら、まさに使徒の働きのようなダイナミックな主の働きが起こされていく。初代教会のように「謙り、御霊の声に聞き従い、その油に満たされ、御用をした」そんな教会を追い求めていきたい。聖霊の声に聞き従う従順な器として用いられたいと願わされた。

#### 「5職」

「世界には、5職の働きが出てきている。日本は新使徒運動と言って拒否している。失敗している。（日本の多くの教会は）霊的なものを強調していない。神学を強調している。初代教会の人は、霊的なものの上にみことばを置いていった。しかし、必ず日本の教会はそうなる。」

エペソ4章11,12節に、

「こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになりました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。」と記されている。

牧師だけではなく、使徒、預言者、伝道者、教師がいたことが明確に聖書には記されている。使徒時代に見られたような5職の働きはキリスト教の歴史の経過と共に過ぎ去っていった。原点回帰を訴える後藤師の発言、書籍、そしてその賜物を認め、活用しておられる教会の姿に、神の栄光を見たように感じた。初代教会の姿を追い求め、文化や伝統を壊しても、聖書に立ち、実践することこそ教会の本質的な成長の秘訣であるのだと教えられた。

## 第2節 まとめ ～自分に合っているモデルとは～

日本において実を結んでいる4教会をインタビューし研究する中で、日本での開拓において浮かび上がってきた成功の秘訣は以下である。

- 1、明確なビジョンがある
- 2、明確な使命がある
- 3、祈りが土台
- 4、セルグループ（小グループ）が機能している
- 5、教会学校、次世代育成に力を入れている
- 6、聖霊に従順し、聖霊の働きを追い求めている
- 7、関係性重視の弟子訓練に力を入れている
- 8、未信者へ配慮した礼拝であり、神の臨在を求める礼拝
- 9、恵みの福音を語る
- 10、本質を重要視する
- 11、チーム牧会
- 12、地域に仕える

特に印象的だったことは、300人を超える本郷台キリスト教会、加古川バプテスト教会に共通していた「5カ年計画」であった。これは、これから5年間の間にどれほどの人数まで成長するかという人数が増えていくための具体的なビジョンと計画を掲げて教会運営がなされていたことであった。

教会によって様々なモデルが存在する。どの教会も非常に魅力的だと感じたが、自分に合っている教会のモデルはどのようなモデルだろうか？と考えると、計画を立てていくモデルは私に合っていると思われた。計画を立てて行動することが好きな私は、本郷台キリスト教会、加古川バプテスト教会のように具体的な数字を掲げて成長していきたいと思われた。しかし、Be One 大阪のフォーセット師が語るように、人数を掲げることをビジョンとするなら教会員のプレッシャーとなる可能性も十分あり、教会内の交わりが薄れる可能性も大いにある。教会のビジョンとして人数を掲げるのではなく、ビジョンや使命として神を愛するという本質を追求しつつ教会形成をしていきたいと思われた。また、信徒の数が増えるだけでなく一人一人の信徒がキリストの身丈にまで達していくために、新約聖書に記されている牧会論を私の牧会論として、使徒の働きのようなダイナミックで力強い栄光の花嫁なる教会を建て上げていきたい。量的な成長を求めつつも、霊的な成長をそれ以上に追い求めていく教会を建て上げていきたいと思う。

日本において成長する教会の鍵

また、日本で実を結んでいる教会の多くは「地域に仕える」ことを通して地域住民と良好な関係を築き、地域から高い評価を受けていることが印象的で合った。特に、本郷台キリスト教会は「地域に仕える」ことを実践しており感動を覚えた。

加古川バプテスト教会も「地域に仕える」ことを実践している教会であり、教会成長は子どもたちを育てることからきていると思われた。

また、成長している教会は、人々を救いに導くために「関係性を重視する」ことを気付かされた。特に、加古川バプテスト教会では、家族との関係、職場、学校での人間関係で地の塩、世の光として一人一人が証人となるようにセルグループによって訓練されていることが伝わってきて感銘を受けた。

Be one大阪も「フォロワーイングジーザス」という弟子訓練テキストを使用し、小さなグループで人間関係を深めてキリストの弟子を育てていた。その育った人々が次の人々を訓練しているのだ。

京都シオンの丘キリスト教会においても、伝道師が1対1で学びを行うことを通して、青年たちが神様をまっすぐ求めるように変えられていた。

まさに、日本人が求めているのは「人間関係」であり目の前の一人一人を心から愛し、時間とお金を使っていくことに、人間関係を重視していくことに、日本人の救いの鍵があるのだと気付かされた。

日本において豊かな実を結ぶ成長する教会を形成する鍵は、目の前の一人一人をイエス様の愛で愛し、キリストの弟子としていくことである。教会全体で弟子訓練に取り組むことである。

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」マタイ 28:19,20

イエス様のこの大宣教命令に本気で取り組む教会こそ、日本で成長している教会の鍵である。

### 第3節 世界で実を結んでいる教会のインタビューから3ポイント

日本で実を結ぶ教会を建て上げるために「人間関係」と「弟子訓練」が重要であることを日本で用いられている教会の先生とのインタビューを通して学んだ。ただ、インタビューした教会は500人以下の教会であった。神の恵みと憐れみをいただいて500人まで成長したとしたら、次に目標となるのは、1000人であり、3000人であり、1万人であり、3万人である。

筆者のビジョンである3万人の教会を建て上げるには、どうすれば良いのだろうか？文献を通して3章では、メガチャーチが成長してきた理由について考察し、要因を以下の4つにまとめた。

- 1、祈り
- 2、セルグループ（家の教会、教区礼拝とも言われる、使徒2章）
- 3、宣教の使命（大宣教命令、マタイ16章,マルコ28章）
- 4、神への従順と聖霊様との同伴

この節では実際に3万人を超える教会の先生方にインタビューを行い、文献で考察した要因をさらに深掘りして、成長の秘訣を明らかにしていきたい。そして、日本の教会成長に適用する方法を検討する。

## (6) オンヌリ教会 高見澤栄子先生

オンヌリ教会で牧会されてこられた高見澤栄子先生にインタビューを行う中で、オンヌリ教会が成長してきた秘訣を聞いた。その中で、成長のポイントとなったことは以下の点であった。成長のポイントとともに日本での適応例も記す。

オンヌリ教会成長の秘訣 / 成長の秘訣を日本での適用例として考えると、

### ①みことばを学ぶ / バイブルスタディー

(韓国のプロテスタント教会が成長した大きな要因は、「みことばを学ぶ」ことにあった。みことばを学ぶグループがたくさん起こっていった。成長要因は、「みことばの土台」)

### ②家族と親族への伝道を徹底 / 伝道の学びと訓練

(家族と親族への伝道を徹底した。

女性を教会の中に取り入れ奉仕の機会、活躍の場を与えた)

### ③宣教師に頼らず社会と文化の中で神を証 / 証の学びと訓練

(宣教師に頼らず、社会と文化の中で神を証した)

### ④救いを神の救済史としてみる(ワールドビュー) / ワールドビューな弟子訓練

(大きい教会に共通するのは、人間の孤独、不安、恐れ、経済、病、などの悩みの解決だけを教会がするのではなく、まず、その人の根本的な罪をキリストが贖ってくれたことを知る。そして、この地上に対して神がどのように思っているのか、というワールドビューな視点を信徒に教えている。救われた私たちは、この壊れた世界の中でどのように歩いていくか、という使命を明確に伝えている。この世界で世の光、地の塩として生きていくこと。そして、十字架の福音がここまで広がり、これから世の終わりに向かって、未伝の部族に福音が伝えられていく必要があること、その壮大な神のストーリーを語り、その神のストーリーの中に生きていく。神の御心の計画に参加していく。そのために、神を愛し、隣人を愛していくこと。それを実践するために焦点を当てていくこと。そのようにして、教会のビジョンは明確にされていく。)

### ⑤セルチャーチ、セルグループ / 教会で方針として打ち出し実践する

(日曜日以外に集まる。20-30人は多すぎる。もし20人集まることのあるなら、3人のグループに分けて分かち合いをさせる。3人グループでは、プライバシーを守ること、励まし合うことを伝える。セルの強みは、ありのままをシェアできることにある。セルは3-4人がおすすめ。or 7-8人が家に来て、途中から2つに分かれる。3人だったら、本当の話をするようになる。)

### ⑥1対1の弟子訓練 / 1対1で弟子訓練をする

(弟子訓練では、みことばの深みを一緒に味わう。サーバントリーダーシップで仕えていく。みことばの素晴らしさを分かち合っていく。今週どうだった〜?と聞く。今週嬉しかったことはなに〜?今、ぶつかっている問題はなに〜?とか聞いていく。価値観を互いに高め合う弟子訓練。そのこの主の臨在がある。オンヌリ教会もサラン教会も1対1で弟子訓練をしている。)

### ⑦食事で心を注ぎ出す人格的交わり / 信徒を家に招き、深く交わる

(一緒にご飯食べたり、心を注ぎ出すような人格的な交わりがあるか。ご飯を一緒に食べるのが特に大切。ミニストーリーで食事するのが大切。イエス様も魚を焼いて弟子たちを待っていた。一緒に弟子たちと寝泊まりして寝食を共にした。)

### ⑧神に焦点、福音の価値を伝えていく / 神に焦点を当て神に栄光を帰す

(成長している教会の特徴は、神様に焦点があっている。神様に焦点があると、パッションがある。パッションがあると献身度が上がる。これが、成長している教会。神に焦点を当てていくことが大事。それによって、パッションと、献身が溢れていく。福音の価値を知るなら、リバイバルが起こっていく。福音の価値を伝えていく。神の御心に生き、伝えていく。)

⑨明確なターゲット伝道 / 対象を明確にし、届く形に工夫して福音を届ける

(オンヌリ教会では、伝道を洋服の仕立てのように捉えていた。工夫し、特別に用意する。イジエフン先生は、教会での伝道集会で、明確にターゲットを絞っていた。30代の女性には、「プロポーズ」という名前の集会。30代の男性には、「チャンピオン」という伝道集会をし、ボクサーグローブを最後にプレゼントしていた。60,70代の家においてもう人生終わるのかなと思っている人が多い男性には、「アンコール」という集会。60,70代の女性は近所と比べている人が多い。そのような人々に向けて「ひまわり」という集会。太陽だけ見ていこう、と。ターゲットをはっきりする)

⑩財政管理

(神に喜ばれるミニストリーにするために、経済を透明にする。栄子先生のモンゴルキッズミニストリーで実践中)

(7) ヨイド純福音教会 スンボク先生

純福音で育ち、日本に宣教師として来られているスンボク先生にインタビューを行った。その中で純福音の成長の秘訣をまとめると以下のようになる。

純福音成長の秘訣/ 成長の秘訣を日本での適用例として考えると、

- ①聖霊運動による聖霊充満と癒し、回復の恵み、平安の幸せ / 聖霊による満たしと回復の働き
- ②牧会者達の血と汗の祈りと献身 / 祈りと献身
- ③明確な教え / 弟子訓練で聖書の以下の内容を明確に教える
  - 1) 神の救済史が盛り込まれた7大信仰 (明確な信仰の指針)  
十字架、聖霊、宣教、神の良さ、癒し主、再臨、与える信仰
  - 2) 小さなイエスの靈性  
(救われた者が恵みに感謝し謙り、奉仕、犠牲に倣い、イエス様のように生きる)
  - 3) 5重の福音 (救い、聖霊充満、癒し、祝福、天国と再臨)
  - 4) 3重祝福 (御心通りに生きる靈的な豊かさ/全ての点での幸い/  
体、心、魂の病の苦しみから解放される祝福)

④区域組織 / 家庭礼拝を推進し、家庭礼拝のリーダーを育てることを打ち出し、実践する

(出エジプト記(18:18)と使徒の働き(2:46-47)の内容を根拠に初代教会の時代、聖徒たちが家庭で礼拝を捧げたことを牧会に適用し、女性の執事を中心にソウルを20個の教区に分ける区域組織を誕生させた。教会は各区域長に聖徒たちを養育し、ともに祈ることを教え、隣人に福音を伝えることを任せた。黙禱と使徒信条、賛美をし、一緒に祈った後に御言葉を分かち合う時間として構成。15人くらいになると、新しい区域に分離。その結果67年には数百個の区域に拡大され、68年には区域組織によって力強められ、聖徒数も8000名を超えた。女性の執事を用いていた。栄子先生の言われていた通り。セルリーダーが区域長ともいえる。教会はセルリーダー (区域長) を育てた。セル組織を育てること。セルリーダーを育てることが、世界最大の教会に成長する原動力となった)

⑤世界中に神学校を建てて教職者を育てた / 神学校を勧める、教会でも神学教育を準備する (様々な地域に純福音神学校を建て、教役者の靈性に力を注いだ)

⑥明確な教育指針 / 神の救済史的視点を弟子訓練で教える。説教でも語る。

(十字架による罪からの赦し、聖霊とみことばによる成長、救いの喜びの知らせを世の終わりまで伝えることに目的がある。栄子先生が語られていた通り、神の救済史的視点が明確になっている)

⑦絶対的な肯定の信仰 / 神は良いお方であること、その信仰によって生きることを教える (神様は良い神様なので、私たちが全てのことを肯定的に考えて進むとき、神様が私たちを用い

て下さるという信仰。)

⑧謙遜についての学び /人々に気を配り、謙遜について教え、神が用いてくださる事を教える (メガチャーチだからこそ人々からの視線をもっとたくさん浴びせられる。そのため、気を付けて説教し、気を使って行動する。そのため純福音ではいつも謙遜について話している。私がするのはなく、私たちがするのはなく、神様がただ私たちを道具として用いて下さることに感謝することを学ばせている。)

## (8) サラン教会 三中先生

韓国にあるサラン教会で6年間日本語礼拝部の牧師をしておられた三中先生にインタビューを行った。サラン教会が成長してきた理由としては以下のポイントが挙げられる。(以下の内容は、主任牧師ではなく、所属した牧師の見解であり、あくまでも、サラン教会副牧師として、第三者的な側面である。その内容が事実と異なる場合があるため、ご注意ください。)

### ①ビッググループとスモールグループ

サラン教会は、①ビッググループ(礼拝、祈祷会)と②スモールグループの2つを重要視している。スモールグループでは、語られたみことばを一緒に分かち合っている。帰納法的聖書研究という方法が土台となっている。

内容としては、

- 1、 黙想
- 2、 観察(聖書に何が書いてあるか)
- 3、 解釈(それは何を意味するのか)
- 4、 適用(私たちの生活にどう適応されるか)を共に考えていくことである。

これにより、信徒でも聖書を自分で読めるようになり、リーダーや説教に依存せず、スモールグループで相互の学びができるようになっていく。信徒に細かく質問をしていくことで、信徒の悩み、考えていることをみことばを中心に吐き出させている。できるだけ少人数で行い、多くても12人以下である。

### ② スモールグループによる弟子訓練

サラン教会といえば「弟子訓練」と言われるほど、弟子訓練に力を入れている。

さらに、スモールグループを重要視している。

創立牧師のオク先生の時代から、カルセミナー(弟子訓練セミナー)を行なっていた。

月曜昼～金曜昼まで行われ、講義を聞き、信徒のリーダーが多く生み出されていった。

この訓練は、信徒リーダーがセルグループを導くための学びである。

火曜の朝にスモールグループの導き方と大切な事柄を演繹法的に語り、スモールグループに分かれてリーダーが導いていく。

また、創立牧師のオク牧師からオー牧師に主任がバトンタッチしてからは、サラン教会内だけにとどまらず、超教派的に開かれた「弟子訓練セミナー」を行なうようになった。月～金は様々な教会の牧会者に対する弟子訓練セミナーを行い、弟子訓練は教会成長のためだけでなく、宣教のために行うように方向性が新しくなった。これは、弟子訓練した人が、教会の中はもちろん、外にその弟子訓練した人々が出ていくという考えである。

サラン教会の弟子訓練の方向性は、

「Disciple making church から Disciple making church for mission」に変えられたのだ。

弟子訓練のテキストも使用しており、サラン教会独自で生み出されたものである。

### ③ 1人の魂を大切にする

三中先生がサラン教会の牧師として仕えておられた頃は、140人の教職者がいた。毎週火曜と土曜の朝に牧師会があり、火曜の朝は先生がシェアリングをしてくれていたそうだ。

先生がいつもいう言葉が、

「牧会者の心をもってやりなさい。メガチャーチだけれども、1人の魂を大切にしなさい。開拓教会をするような心持ちでありなさい。」ということであった。

どれほど大きくなっても、「1人の魂を大切にしなさい」それをずっと言われていたそうだ。

教会が大きくなっても1人1人が神様の愛を体験するため、弟子として成長するために、1人の魂を大切にしていけることが非常に重要である。

### ④ 明確な使命は世界宣教 ～宣教師を派遣し支える～

サラン教会は2024年2月の時点で、52カ国214家庭に宣教師を派遣している。宣教師を派遣することを大切に、教会内でも宣教師を訓練するプログラムが用意されているのだ。サラン教会から宣教師として派遣されるには、様々な過程を通る必要がある。ETC(宣教について学ぶ基礎過程で3日間)、ITC(宣教について学ぶ深化過程で3ヶ月)の訓練を通して派遣される。

またETC修了生は、短期宣教に行く際20%の飛行機代か何かの費用を教会が負担してくれる。派遣先に関しては、教会からの指定ではなく、自分に示された地に行く。

宣教団体を通して、宣教団体と教会から送り出される形になる。

サラン教会には「宣教館」という宿舎が7館あり、宣教師が帰国した際に寝泊まりできる場所がある。1日約1500円(2026年1月現在)という格安価格で泊まることができ、ホテルよりもはるかに切な施設で静かである。交わりができる小さなカフェのようなオープンスペースもある。

宣教師は、様々な形で派遣されている。派遣宣教師、協力宣教師、海外ボランティア、現地の牧師、協力牧師などの約6つのカテゴリーがあり、派遣体制によって教会からの経済的なサポート額は異なる。三中先生は教会で教職として6年仕え、日本語礼拝部の副牧師として仕えていたため、派遣宣教師という形で遣わされ、毎月一定のサポートがある。

### まとめ

～海外メガチャーチからどう日本の土壌で適応し500人を超えることができるのか～

実際に韓国のメガチャーチにインタビューを行う中で見えてきたことがあった。日本の500人以下の教会では実践されていない、3万人を超えるメガチャーチで実践されていることは、以下のことである。

- 1、みことばから学ぶセルグループとセルリーダーの訓練
- 2、家族と親族への伝道の徹底
- 3、教職者に頼らず、信徒1人1人が社会と文化の中で証できるように訓練される
- 4、救いを神の救済史としてワールドビューな視点で教えている、神の救済史的視点
- 5、1対1の弟子訓練、1人の魂を大切にする
- 6、食事で心を注ぎ出す人格的交わり
- 7、福音の価値を伝えている
- 8、明確なターゲット伝道と工夫
- 9、透明性のある経済管理
- 10、聖霊による満たしと回復の働き
- 11、明確な教え

(救い、聖霊、宣教、神の良さ、癒し、再臨、与える、イエスの霊性、福音、祝福)

- 1 2、家庭礼拝を推進し、家庭礼拝のリーダーを育成と実践
- 1 3、神学校を建て、教職者を育てる
- 1 4、神は良いお方という肯定信仰
- 1 5、謙遜の教え
- 1 6、明確な使命は世界宣教 ～宣教師を派遣し支える～

インタビューを通して考察したことは、以下の4つの要素が日本において、500人を超える教会になるためには必要な要素であるということであった。また以下の実践によって、量だけでなく信仰的な成長も期待できると思わされている。

### ①教育

みことばを明確な聖書の教え、神の救済史的な視点、神は良いお方という信仰、謙遜福音の価値を語り神へ焦点、人格的な食事の交わり、神学教育  
家庭礼拝（区域、セル、小グループ）の信徒リーダーの育成に力を入れる

### ②交わり

一人ひとりの1対1の弟子訓練、家庭（区域、セル、小グループ）礼拝、  
みことばを学ぶグループ、1人の魂を大切に

### ③宣教

明確なターゲット、  
明確な使命は世界宣教 ～宣教師を派遣し支えることに人材経済を投資する～

KBIで伝道牧会学を教えておられた峰町キリスト教会牧師の安食弘幸師が講義の中で5つの要素を話しておられた。それは、

「①礼拝 ②奉仕 ③宣教 ④交わり ⑤教育」であった。

韓国のメガチャーチにおいて、この「宣教」「交わり」「教育」が特出していることが窺える。

日本において成長する教会を建て上げていくためには、「宣教、交わり、教育」にいかにか力を入れるかが鍵となる。この中でも特に「教育と交わり」は純福音、オンヌリ教会、サラン教会、サドルバック教会においても特出しており、日本人が求める「人間関係」のニーズを満たすものである。さらに、「弟子としなさい」というイエス様の大宣教命令に叶う神の御心でもある。

まさに、3万人教会を超えるメガチャーチが実践する教会成長の秘訣は、  
「大宣教命令と弟子訓練、使徒2章にある家の教会へのコミット」とも言えるだろう。

みことばをとことん実践することこそ、教会成長の秘訣であると教えられた。

日本において500人を超えて3万人を目指すためには、牧会者の熱心な祈りと献身、聖霊への従順が欠かせない。100人を超えるためには牧会チームが必要になる。初期段階から、1対1弟子訓練を導入し、1人の魂を大切に、キリストの弟子を育てることである。一人ひとりが聖霊によって癒やされ、満たされ、祝福されること。家々で集まる家庭礼拝を持ち、家の礼拝の信徒リーダーを育てていくことである。さらに、神の福音の価値を伝え、知り、感動し、救済史的な世界大のビジョンを抱いて、大宣教命令という神のビジョンに聖霊の力と恵みを受けて前進することである。世界宣教を明確な教会の使命として掲げ、人材、経済を投資する。また、教会成長の明確な目標を立て、ターゲットを明確にした工夫を凝らした伝道に励むことで教会は量的にも霊的にも成長していくのである。

#### 第4節 メガチャーチに対する問い

(1) 日本では本当に3万人教会が宣教前進に効果的なのだろうか

ここまで書きインタビューをしつつも、私のうちには1つの疑問がある。

それは、「本当に3万人教会が日本宣教の前進に効果的なのだろうか」という問いである。

Be one 大阪のフォーセット師とのインタビューを通して、私のこの問いはますます強くなったように思う。フォーセット師は「70名を超えると交わりが希薄になる」と話されていた。

それゆえに70人を超えると分裂させて拠点を増やしておられた。確かに日本宣教にはこのサイズ感がフィットするようにも思う。しかし交わりの希薄さは、セルグループ（家庭礼拝、区域礼拝）によって解消できるのではないかとも考える。

高見澤栄子師がこのように話しておられた。

「初代教会がメガチャーチだった。毎日3000人救われる人を起こされた。その後神様は、散らした。散らして、ヒソヒソ話で、実はイエス様はこうだったんだと伝道して散っていった。その後リバイバルの火種の元となった。メガチャーチの役割を意識して。日本に1個くらいあってもいいが、メガチャーチの役割を意識すること。大事なのはセルチャーチ、セルグループ。こういうところがしっかりしなければ、本当に表面的になってしまう。日本に1個くらいはあってもいいと思う。散らされてそっちが大きくなったらそれがビブリカルなことじゃないかなと思う。」

この言葉を聞いて、聖書的な教会は、散らされることなのだと思った。そして、もし日本でメガチャーチを作るなら、何よりも大切なことは、「セルを意識すること」なのだと教えられた。

教会が教会であるためには、使徒2:42-47にあるように「家々」という単位なのだ。

「食事」の交わり、「十字架を覚える恵みの聖餐」が教会にとって大切なことなのだ。

「そして、毎日 心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、  
喜びと真心をもって食事をともにし、」使徒2:46

もし主が私に、日本で3万人のメガチャーチを開拓する恵みと油注ぎをくださるなら、何よりもこの使徒2:42-47を土台として教会を形成していきたいと思う。

(2) 教会増殖の可能性はあるのか？

大いにある。セルを展開させていきたい。これはまさに教会増殖である。

「そして、毎日 心を一つにして宮に集まり」

使徒2:46において、宮に集まったことも記されているので家庭礼拝と並行して教会に多くの人々が集まり、礼拝を捧げたい。さらに主が示されるなら、3万人を超えた時に、新たなメガチャーチを建てるのも良いと思う。日本の人口が集中する都市、大阪、東京、名古屋、福岡、仙台などにも大きな拠点となる教会が立てばさらにそこから周辺地域にまで広がることも可能だ。いつか日本中のスタジアムに人が溢れてイエス様を礼拝する光景を見たいと願う。

(3) 経済的リスクはどうか？

「メガチャーチはものすごいお金がかかりますよ」とある先生が語ってくれた。

確かにそう思う。しかし私たちの信じている神様は、宇宙を創造された、世界で一番お金持ちの神様だ。そのため、神の御心なら経済的な必要は豊かに満たされる。

「また私の神は、キリストイエスのうちにあるご自分の豊かさにしたがって、あなたがたの必

要を全て満たしてください。」ピリピ4:19

#### (4) 量的成長と質的成長の2刀流は可能か？

量的な成長だけを求めるのではなく、質的な成長を求めていく2刀流は可能だ。

なぜなら、神の御心は「全ての人の救い」（第一テモテ2:4）であり、多くの人々が救われることが神の望んでいることだからである。さらに「キリストの身丈にまで満たされる」（エペソ3:19）ことも神の御心であり、「あらゆる国の人々を弟子とする」（マタイ28:19）ことをキリストが命じておられる。神の御心に叶う願いをするなら、神は聞いてくださる方（第一ヨハネ5:14,15）であるゆえに、量と質を実現することは十分可能である。

### 第5節 具体的な目標と計画 ～どのように3万人へ導くのか～

本郷台キリスト教会、加古川バプテスト教会に行ってインタビューをした際、「具体的な目標と計画」が立てられていることが印象的であった。「5ヵ年計画」を教会全体で打ち出しており、明確な目標の教会員数が明らかにされていた。Be One大阪では、具体的な人数を目標とはしていない教会形成をしていたが、200人、300人を超えていくためには具体的な目標と計画が必要になる。

本郷台キリスト教会の主任牧師、池田恵賜師は、本郷台キリスト教会が100人を超える大きな要因となった出来事として、アジアアクセスジャパンでの「教会成長研修」があったと話しておられた。恵賜師先生が、アメリカに行く前の教会員は120人であったが、帰国すると250人になっていた。その時期に、父であり当時、主任牧師であった池田博師はアジアアクセスが主催する教会成長セミナーに行き学びを積まれた。そこで学んだことは、

「複数牧会とセルグループを取り入れること、5ヵ年計画を立てることであった。」

複数人で牧会を行うチーム牧会、セルグループの導入と、具体的な計画を建てることによって、200人の壁は突破されていった。

目標を達成するためには、計画を立てることが重要だ。聖霊様の働きによって、1日で3000人が救われるような出来事が起こる可能性もあるが、計画を立てることは有益であることが聖書には記されている。

「勤勉な者の計画は、利益をもたらし、すべて慌てる者は損失を招くだけだ。」箴言 21:5<sup>55</sup>

この節では、3万人の教会を日本で建て上げることを目標として、具体的な計画を明示する。

この説の教会成長計画は、これまでのインタビューや文献調査を通して学んだ教会成長の方策を組み込んでいる。さらに、「サイズ別に分析する教会形成の方策」という著書の「教会が成長するために必要なこと」も大いに参考にして計画した。この本を通して、加古川バプテスト教会が次に何を取り組めばよいか明確になってきたことを梅谷悟師が紹介して下さった。300人以上の成長戦略についてはメガチャーチの著書を読む中で筆者が感じている現段階の戦略を記しているため、今後、計画が変わる可能性は十分にあることを承知いただきたい。その時その時に、主から受け取った御霊の計画を主に導かれ取り組んでいきたいと願う。

<sup>55</sup> 新改訳聖書 2017

マッキントッシュの教会の規模による分類表  
 教会が成長するために必要なこと 特徴を知っておく

	小規模教会 (セル・ゾーン)	中規模教会 (ゾーン・教会)	大規模教会 (教会全体)
礼拝出席者 (日本)	15人~70人	70~200人	300人~
志向性	人間関係 セル 横とのつながり	プログラム 良いプログラムをする	組織有機的なつながり 同時に複数のイベント リーダーが全体を知っておく
構造	単一細胞	伸縮細胞 リーダーによって人数変化	多細胞 10人のセルがたくさんある
リーダーシップ	鍵を握る家族 鍵を握る人がいる	管理運営者 委員会制	選ばれたリーダー=スタッフ リーダーの資質が重要 すべての年代がいる=将来
牧師	愛の人 お世話型	管理運営者	リーダーシップ 管理運営=スタッフ
決断の主体	会衆 会衆の希望	委員会(弱点) 信徒がすべてを知っているのではない基準がない	スタッフとリーダー
スタッフ	牧師	牧師と少数のスタッフ	多数のスタッフ 各役割が決まり、献身している
変化	鍵を握る人を通して 中心的家族の父 下から上へ	鍵を握る委員会を通して 変化が難しくなる 内から外へ	鍵を握るリーダー牧師を通して 鍵を握るスタッフを通して 上から下へ(トップダウン) 牧師と同じビジョンを同じ熱さ思い で伝える
成長パターン	魅力型 人間関係	鍵となるプログラム	ロコミ クリスマス、地域の中で 教会に対する自慢
成長障害物	小教会イメージ 効率の悪い伝道 →誰も来ない伝道集会 不適切なプログラム →習慣・変化がない →リーダーは吟味 下方への重力 内向きの交わり	小から中に行くとき 設備・スタッフ・会計 <不適切な設備> 会堂建築、会計的負担 維持のための献金 (打開策) 複数礼拝 <不適切なスタッフ> 人を使う利用する よく考えないで指示する 感動がなくなる <不適切な財政> 会堂と人件費のための会計 宣教のために使えない  鍵に	新来会者を定着させられない セルにおける“愛の人”の必要 段階に応じた導きの必要性 どう成長に導くか 成長は早い(モデルがいる) 組織の官僚化 縦割り、自分の担当だけ興味、守るた めのマイナスの戦い チームではなくなる 教会としての視点が必要 コミュニケーションの機会が乏しい 会員を配慮できない 一次にすることが中心 配慮ができなくなる 人が変化しやすい時を逃さない ① 家族の死 ② 本人・家族の病気 ③ 子供が変化の年齢を迎えた(幼稚園→小学) (中学→高校、高校→大学) ④ 結婚式次の価値観を伝える ⑤ 牧会的カウンセリングを必要と しているとき →専門分野の必要性 一人一人の存在の大きさ
成長戦略	目的意識の明確化 新しいミニストリー 伝道の機運をあげる 良いことを評価 新しいグループを始める 新しい人を登用する 次の人を探す 成長のチャンスを作る  牧師の育成	教会のアイデンティティの確立 礼拝・宣教・交わり→神の国 新しいスタッフの登用 宣教師、開拓伝道、神の国広がり 開拓伝道 施設の使用頻度を増やす 礼拝回数を増やす 長期計画を立てる ミニストリーの質の向上 (スタッフの成長・奉仕者の成長)	ビジョンの刷新 新来会者の受け皿を考案する 手続きの流れ(簡素化・単純化) 必要にあうイベントを考案する リーダーシップの役割を変換する 小グループを増やす(増殖) セルが増えなければ教会の成長はな い 大きくなればなるほど一人一人の存 在が大きくなる

1000円  
 1000円・1000円

## 1) ～ビジョン準備の10年～ 28-38歳

### ① 同じビジョンの働き人を求める、人脈作り

私と妻は神学校卒業後、日本で数年備えた後に東アジアのA国に遣わされるという召しを受け取っていると信じている。そのため、A国での宣教活動を終えた後に、日本で開拓することを想定している。それまでの期間は10年。ビジョンのために準備する準備期間となる。

ここで大切なことは、人脈作りである。正直、大きな教会を建て上げるためには、同じビジョンを持つ働き人が必要だ。同じビジョンを持つ働き人を祈り求め、主が導かれる人々にビジョンを分かち合っていく。その中で、共感し、賛同してくれる人の中で、主が導かれる方とともにこの開拓を初めていけたらと思う。

10年後までに同じ志を持つ3組の献身者家族が与えられ、開拓をスタートできるのが理想であり、それを祈り求めていく。

### ② 母教会の理解

母教会で仕えているがビジョンを分かち合い、祝福して送り出してもらい形で教会を開拓することができれば理想だと考える。生まれ育ったメノナイト・ブレザレン教団から多くの恵みを受けてきたが、単立教会として開拓する形が良いのではないかと考えている。その理由として、教団に関わることで多くの教団の働きが増えることが挙げられる。教団を維持するために様々な奉仕にエネルギーを割くことを召しとして受け取っていないため、単立で開拓できればと考えている。また、母教団の神学校を卒業していないため、教団内の教会で教職者として仕えるという選択肢は今のところ考えてはいない。また、決定的に単立教会が良いと考える理由が、聖霊理解である。母教団は保守的な福音派の流れに位置している。異言や預言についても存在は認められていても、教えられることはない。私は高校生の時、異言を伴う聖霊の満たしの体験をした。それ以来、私の内には聖霊の働きへの強い飢え渴きと宣教の情熱が湧き上がるようになっていった。主がこれまで私を東京基督教大学、関西聖書学院という神学校で学ぶ恵みを与えてくださった。その中で、聖霊の賜物、聖霊の働きに対する教えは絶対に除くことはできない核のようなものとなっている。将来、教会を開拓する際は聖霊の賜物や聖霊の働きを認めた教会を形成したいと思う。そのため、私の信仰のまま教団で仕えるのは分裂をもたらす原因ともなり得るとも考える。平和を保つことが大切であり、開拓者という賜物が委ねられていると感じているため、海外での宣教師の働きから帰国後は、単立教会を日本で始めたいと思う。そのために、私の考えや思いを母教会にも伝え、快く祈られて送り出される形が理想だと考えている。

### ③ 祈りのネットワーク強化

大きな教会を建て上げるのは、すべて神の恵みによる。人の努力や賜物をも神は用いられるが、結局のところすべては神の恵みによって、全てが可能となる。3万人のメガチャーチを立てることも素晴らしいが、それよりも神を愛する生き方が素晴らしい。大切なのは何をしたかではなく、神の御心を行ったかであり、全てしたことは神の哀れみであり、栄光は神のものである。神の恵みがなければ教会の人数増加も信徒の霊的な成熟も起こることはない。そのために祈りが非常に重要となる。神の恵みは祈る者に注がれる。

「主よ、まことにあなたはいつくしみ深く、赦しに富み、あなたを呼び求める者全てに恵み豊かであられます。」詩篇86:5<sup>57</sup>

神の恵みは、神を呼び求める者に豊かに注がれる。そのため、日本において3万人の教会を建て上げるためには神を呼び求める者たちが必要である。心をつにして神の御心を祈り求めるとりなしの祈り手が多ければ多いほど、神の恵みは溢れていく。

<sup>56</sup> 「サイズ別に分析する教会形成の方策」

<sup>57</sup> 新改訳2017

祈りのネットワークを強化するためには、様々な媒体を通して情報を発信し、「ファン」を作っていく必要がある。現在私は、公式ラインを通して定期的にニュースレターを発行しているが、継続していく必要がある。また、より多くの祈り手を集め、祈り手たちとより深い信頼関係を築いていくことが重要になる。

50人から30000人までの成長戦略を記す。「」で囲われているところは、マッキントッシュの教会規模による分類表から記している。その他のところは、筆者の戦略である。

1) 50人までどう導くのか 39歳

「・目的意識の明確化

- ・新しいミニストリー
- ・伝道の機運を上げる
- ・良いことを評価する
- ・新しいグループを始める
- ・新しい人を登用する
- ・次の人を探す
- ・成長のチャンスを作る」<sup>58</sup>

- ・福音の価値を伝える。神に焦点を当て、神に栄光を返す。
- ・明確な主からのビジョンを主任牧師が受け取り、牧会チームとリーダー達に共有し、吟味する。  
全員に主からの確信が与えられれば、毎日祈り求める。
- ・主任牧師は明確なコアバリュー、ミッションステートメントを打ち出し、牧会チームに共有する。全員に主からの確信が与えられれば、毎日祈り求める。  
ウェブサイトにもビジョン、コアバリュー、ミッションステートメントを打ち出す。
- ・教会の考え方として、5職の働きを肯定し、推進する。  
初期の段階においても牧会チーム内で5職の働きについて学び、共通理解を持つ。
- ・見やすくオシャレで使いやすく魅力的なウェブサイトを作成。  
SNSも担当つけ、活発に運用する。最新の技術を駆使していく。
- ・家々での交わりを大切にする。
- ・牧会チームが神と自分のケア、家庭の優先順位を大切にする価値観を共有する。
- ・会堂は家→人数が入らなくなれば借りる
- ・同じビジョンを持つ働き人、スタッフ12人を求めて祈る
- ・祈りと主の知恵、主からの戦略
- ・主に導かれる伝道を実践  
伝道に力をいれる。
- ・世界宣教に力を入れる。宣教師を7000の民族に派遣することを祈り求めていく。
- ・教会は毎月、最低収入の10%以上を海外宣教師に捧げる。
- ・弟子訓練に力を入れる。  
1対1の弟子訓練に取り組む。救われたら、牧会チームが分担して、1対1で訓練をする。
- ・1対1弟子訓練  
ワールドビューな弟子訓練をする。救いを神の救済史として見ていく。  
1対1弟子訓練をすべての信徒に行う。実施はセルリーダー、もしくは1対1弟子訓練修了者によって行われる。  
目安として、毎週1回程度、3-4ヶ月単位で行う。  
1対1弟子訓練を導く者はサーバントリーダーシップで仕え、

<sup>58</sup> 「サイズ別に分析する教会形成の方策」 マッキントッシュの教会規模による分類表

みことばの深みを味わう。みことばの素晴らしさを分かち合っていく。  
今週どうだった～？と聞く。今週嬉しかったことはなに～？  
今、ぶつかっている問題はなに～？とか聞いていく。価値観を互いに高め合う  
弟子訓練。そこの主の臨在がある。  
3万人を超えるオンヌリ教会もサラン教会も1対1で弟子訓練している。

・子どもを導く

教会学校に力を入れる。牧会チームから子どもの働き担当の牧会リーダーを立てる。  
・チーム牧会。初期の段階から、チーム牧会を取り入れ、教会成長の方向性を明確化する  
牧師は4-6人(配偶者を含む)。3家族の献身者パスターが理想。  
・この段階から、家々での家庭礼拝(セル)の礼拝をする。  
7-8人が目安。途中から3人に分かれて本当の話をするようにする。  
セルリーダーは牧会チームが担う。  
・土曜礼拝を開始し、日曜に教会に来れない人を歓迎する。  
・日曜礼拝は、初めて教会に来られた人が安心感を感じ、また来たくくなるような礼拝を  
目指す。神への純粋な霊とまことによる最高の礼拝と聖霊の臨在を求め、  
集う皆が人知を超える神の愛を体験するように牧会チーム、スタッフ、  
セルリーダー、奉仕者は祈り求める。

・教会内で礼拝音楽に力を入れる。ワーシップパスターを立てる。

Hillsong, Bethel Church, Elevation Worship, Gateway Churchのように教会音楽を通して

神に栄光を帰し、最高の主に最高の礼拝を捧げていく。  
楽器、音響、映像、配信、機材の領域においても宇宙一素晴らしい主にふさわしい  
私たちの最高のものを捧げていく。栄光は主のもの。

・教会内で祈りの文化を建て上げる。祈りのパスターもしくはリーダーを立てる。  
祈り会を導く。

・聖霊を求める集会を毎週開く。聖霊の賜物も求めて祈る。

・財政の透明化。神の喜ばれる財政管理を求めて祈り実施する。

・毎朝、早天祈祷会。

・毎晩、祈り会。

祈りと断食、神への魂の救いを祈り求めて毎日泣く。聖霊の圧倒的な注ぎを祈り求める。

・牧師、牧会チーム、スタッフは人格的に聖霊様を歓迎し、求め、交わり祈る。

・毎週火曜は牧会チームとスタッフは、主ご自身を求めて祈る祈りの日。

朝から昼まで主と交わり過ごす。祈りとみことばで各自。

昼から夜までは5時間、牧会チームとスタッフは、日本で霊的に勝利するために  
日本の宣教のために祈る。霊的な戦いが激しい日本で、祈りによって  
敵の要塞を打ち破っていく。

・明確なゴール

大宣教命令を使命として、明確な宣教のビジョンを打ち出す。

宣教師を派遣するビジョンを打ち出し、多くの宣教師を送り出す。

特に、7000の未伝部族に宣教師を派遣する。WUPMの情報によると<sup>59</sup>、

<sup>59</sup> 未伝部族とは何か - WUPM Japan 2025.7.8閲覧

10年で未伝の約500部族を達成できたことが記されている。このペースを維持し続ければあと140年で残された未伝の7000部族に福音が到達する計算になる。2025年現在から、この教会が10年後の2035年に開拓されるなら、残り6500部族になっている。この6500の部族の宣教師をできるだけ多く宣教師を派遣し、主の来られる道を備えることを祈り求めていく。そこからさらに約20年後の私が60歳になった時には、もしこの教会がこの未伝宣教の働きに関与しない場合、1000部族には達し、5500部族になっている。この教会は、この残りの5500部族にどうしても届けたい。そのために、5500部族に宣教師を派遣したい。1部族あたり最低2人の宣教師を派遣するなら、11000人の宣教師を送り出したい。正直、3万人の教会で11000人の宣教師を派遣することは、不可能な数字に思える。1人宣教師の必要が毎月30万だとするなら、毎月1万円を30人の信徒がサポートする必要がある。しかし、今、未伝とされる民族は宣教師ビザを持って入れる国ではなく、宣教が表向きでは禁止され、宣教師ビザでは入れない国がほとんどなのだ。そのため、宣教師は自ら「職業ビザ」を持って入国することが最も効果的な方法だと考える。職業はテントメーカーとして宣教師が自活するなら、経済的なサポートに心を悩ませることはない。3万人の信徒から1万1000人が宣教師として遣わされれば良いと考えている。そのため、初期の段階からこの「全ての民族に福音を！」というビジョンを伝えていく。さらに、宣教師志願者には入国するための「職業」訓練スキルを取得するように教え導く。

- ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。

## 2) 100人までどう導くのか 40歳

「・会堂建築はせず、会計的負担を減らす

- ・複数礼拝を導入
- ・人を使う、利用する不適切なスタッフ、考えないで指示をするスタッフを教育または解雇する
- ・会堂維持と人件費のための会計を削減し、宣教のために財政を使う」<sup>60</sup>

- ・チーム牧会。牧師は6-8人（配偶者を含む）。
- ・セルグループ  
セルグループでは、みことばを学ぶ。バイブルスタディーする。みことばが土台。セルグループは神の愛を体験する小さな教会。使徒2章44-47をモデルにして、食事の交わりを毎週持つ。主への愛と互いへの愛と尊敬、仕え、与える文化を築く。一人一人が社会と文化の中で主の証人として歩めるように訓練する。

- ・家族と親族への伝道を徹底する。  
セルグループで家族、親族の救いを毎回祈る時間を持つ。  
家族、親族が参加できる集まりをセル単位で企画する。  
セルグループでは、セルリーダーを通して個人伝道のやり方を教える。
- ・女性のセルリーダーも積極的に立てていく。
- ・女性に奉仕の機会。活躍の場を積極的に与えていく。
- ・セルグループでは、それぞれで証を書き、証の仕方を教える。
- ・地域に仕える
- ・ターゲットを明確にした効果的な伝道
- ・習慣の変化
- ・若者たちに奉仕を委ねる
- ・24時間祈りの家始める。ローテーションを組み、JESUS IMAGEのような主の臨在に満ちる場所を備える。スタッフを雇う。祈り手
- ・毎晩、祈り会。

<sup>60</sup> 「サイズ別に分析する教会形成の方策」 マッキントッシュの教会規模による分類表

- 祈りと断食、神への魂の救いを祈り求めて毎日泣く。聖霊の圧倒的な注ぎを祈り求める。
- ・牧師、牧会チーム、スタッフは人格的に聖霊様を歓迎し、求め、交わり祈る。
  - ・毎週火曜は牧会チームとスタッフは、主ご自身を求めて祈る祈りの日。朝から昼まで主と交わり過ごす。祈りとみことばで各自。昼から夜までは5時間、牧会チームとスタッフは、日本で霊的に勝利するために日本の宣教のために祈る。霊的な戦いが激しい日本で、祈りによって敵の要塞を打ち破っていく。
- ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。

### 3) 300人までどう導くのか 45歳

#### 「教会のアイデンティティの確立

- ・礼拝、宣教、交わり
- ・新しいスタッフを登用
- ・開拓伝道
- ・施設の使用頻度の増加
- ・礼拝回数を増やす
- ・長期計画を立てる
- ・ミニストリーの質の向上（スタッフの成長、奉仕者の成長）
- ・新来会者が定着できるような歓迎文化
- ・セル内での愛の人を育てる。セルリーダーを愛し育てる。セルリーダーと食事する。
- ・セル内でメンバーが段階に応じてそれぞれの成長をサポートする
- ・自分の担当だけでなく、人々に仕え、与える文化
- ・チームを大切にし、コミュニケーションの場を増やす。セル内で食事する。
- ・教会としての視点を教える。互いを配慮する愛の文化の形成
- ・人の変化する時を逃さない。  
 家族の死、本人家族の病気、子供が変化の年を迎えた(幼稚園→小学)  
 (中学→高校、高校→大学)、  
 結婚式次に聖書の結婚の価値観を伝える(結婚カウンセリング)、  
 牧会的カウンセリングを必要としている時→専門分野の必要性」<sup>61</sup>

- ・牧師、スタッフは結婚カウンセリング、葬儀、病気の訪問と祈り、癒しの働き  
 牧会的カウンセリングを分担し、優先的に行う。
- ・鍵を握るリーダー牧師と鍵を握るスタッフが変化を与えるため、  
 牧師と同じビジョンを同じ熱さ、思いで伝えられるような工夫をする。
- ・主任牧師は家族と牧会チームを特に優先的に愛し、祈り、主のビジョンを分かち合う。
- ・牧会チームは理想は10人(夫婦を含めて)。主任牧師1人、(牧師5人+献身者の妻5人)  
 1人の牧師がセルリーダー4-5人を特に愛し育てる。
- ・主任牧師は、  
 牧会チームを愛し、毎月一人一人と食事をして話を聞き本音で交わり祈り合う。  
 牧会チームは毎日昼食を共にし、分かち合い、祈り合う。  
 牧会チームはスタッフを愛する。  
 スタッフは、毎月牧会チームの牧師と食事やカフェに行き、愛の交わり、  
 メンタリングを受ける。
- ・セルリーダーは40人。40グループ。セルに所属してるのは320人。  
 セルリーダーは毎週、セル会での学びがある。ここで励まされ教えられ、養われる。

<sup>61</sup> 「サイズ別に分析する教会形成の方策」 マッキントッシュの教会規模による分類表

アカウントビリティーの時間をスタッフ持つ。

スタッフは丁寧にセルリーダーを愛する。

- ・セルリーダーが鍵。  
セルリーダーの役割はセルメンバーのために祈り、関わり、愛すること。
- ・セルリーダーを育てる。セルリーダーの学び、アカウントビリティーを行う。  
セルリーダーはセルメンバーが家族、学校、会社の人々を大切にし、愛し、  
主の証人として用いられていくように励まし、愛し、みことばを分かち合い育てる。  
セルメンバーは家族を大切にし、家族を愛する。また、会社、学校の人々を愛する。  
セルリーダーはセルメンバーを大切にし、セルメンバーを愛する。  
スタッフ達は、セルリーダーを大切にし、セルリーダーを愛する。  
牧会チーム、牧師達は、スタッフを大切にし、スタッフを愛する。  
主任牧師はコアの牧師、牧会チームを大切にし、愛する。
- ・7-8人のセルがたくさんある。セルグループはMAX8人が目安。  
必ず最後に、3人-4人くらいに分けて本音で分かち合い、祈り合う時を持つ。  
1つのセルにはセルリーダーとサブリーダーがいる。  
サブリーダーはリーダーが推薦し、サブリーダー候補者が承認したら正式に  
サブリーダーとなる。サブリーダーはセルリーダーを見てセル牧会について学ぶ。  
(8人までが心を開いて分かち合える人数。3人だったら本当の話をするようになる。  
ただし、そのセルの特性によって12人までは増えてもOK。  
12人以上になるとセルを分ける)
- ・毎晩、祈り会。  
祈りと断食、神への魂の救いを祈り求めて毎日泣く。聖霊の圧倒的な注ぎを祈り求める。
- ・牧師、牧会チーム、スタッフは人格的に聖霊様を歓迎し、求め、交わり祈る。
  - ・毎週火曜は牧会チームとスタッフは、主ご自身を求めて祈る祈りの日。  
朝から昼まで主と交わり過ごす。祈りとみことばで各自。  
昼から夜までは5時間、牧会チームとスタッフは、日本で霊的に勝利するために  
日本の宣教のために祈る。霊的な戦いが激しい日本で、祈りによって  
敵の要塞を打ち破っていく。
  - ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。

#### 4) 1000人までどう導くのか 50歳

「ビジョンの刷新

- ・新来者の受け皿を考案する
- ・手続きの流れ（簡素化・単純化）
- ・必要に合うイベントを考案する
- ・リーダーシップの役割を変換する
- ・小グループを増やす（増殖）  
セルが増えなければ教会の成長はない。
- ・大きくなればなるほど一人一人の存在が大きくなる」<sup>62</sup>
- ・成長している海外の教会に足を運び、成長戦略について学ぶ
- ・主に成長のビジョンを求めて祈り、牧会チームに共有する。  
牧会チームと共に教会戦略について祈り求め、主からの確信が来たら、  
スタッフ、セルリーダーに共有し、すべてのセルグループにも共有する。

<sup>62</sup> 同上

- ・働き人を求めてセル単位で毎回祈る。
- ・教会内に神学校を設立する。卒業した希望者は、教会スタッフに就職可能。
- ・献身希望者はKBIの進学も勧める。KBIを卒業した希望者は教会スタッフに就職可能。
- ・スタッフを育て、スタッフの中で牧師への召命を持つ人がいれば、牧師に昇進させる。
- ・主任牧師は後継者を育てる。65歳になったら、牧師の中で祈りつつ主任を交代する。  
元主任牧師は後任の主任牧師の牧会に指示や口出しをしない。  
顧問牧師となり、助言を求められる時にのみ牧会的な助言をする。
- ・毎晩、祈り会。  
祈りと断食、神への魂の救いを祈り求めて毎日泣く。聖霊の圧倒的な注ぎを祈り求める。
- ・牧師、牧会チーム、スタッフは人格的に聖霊様を歓迎し、求め、交わり祈る。
- ・毎週火曜は牧会チームとスタッフは、主ご自身を求めて祈る祈りの日。  
朝から昼まで主と交わり過ごす。祈りとみことばで各自。  
昼から夜までは5時間、牧会チームとスタッフは、日本で霊的に勝利するために日本の宣教のために祈る。霊的な戦いが激しい日本で、祈りによって敵の要塞を打ち破っていく。
- ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。

#### 5) 3000人までどう導くのか 55歳

- ・セルグループの増加。セルリーダーとスタッフの増加を求めて祈る。
- ・明確なターゲット伝道で対象を明確にし、届く形に工夫し福音を届ける。
- ・財政の透明化を強化し、神に喜ばれる財政管理をより一層求めて祈る。
- ・祈りと断食、神への魂の救いを祈り求め、  
信仰を持って宣教のために大胆に経済を、時間を、資源を捧げていく。
- ・毎晩、祈り会。  
祈りと断食、神への魂の救いを祈り求めて毎日泣く。
- ・牧師、牧会チーム、スタッフは人格的に聖霊様を歓迎し、求め、交わり祈る。
- ・毎週火曜は牧会チームとスタッフは、主ご自身を求めて祈る祈りの日。  
朝から昼まで主と交わり過ごす。祈りとみことばで各自。  
昼から夜までは5時間、牧会チームとスタッフは、日本で霊的に勝利するために日本の宣教のために祈る。霊的な戦いが激しい日本で、祈りによって敵の要塞を打ち破っていく。
- ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。

#### 6) 30000人までどう導くのか 60歳

- ・熱烈な祈り。徹夜の祈り会を毎週金曜の夜に始める。
- ・聖霊に聞き、聖霊の戦略に従う。神への従順と聖霊との親しい交わり。
- ・信仰を持って3万人の主の弟子と11000人の未伝地宣教師を祈り求めていく。
- ・セルグループを組織し、セルリーダーを更に多く育てる。  
この際、女性にも権限を委ねる。  
セルが正しく機能し神の愛が満ち溢れるセルとして歩めるように励まし、  
神と互いへの愛を益々祈る。

・大宣教命令を使命として、明確な宣教のビジョンを打ち出す。  
宣教師を派遣するビジョンを打ち出し、多くの宣教師を送り出す。  
特に、7000の未伝部族に宣教師を派遣する。WUPMの情報によると<sup>63</sup>、  
10年で未伝の約500部族を達成できたことが記されている。このペースを維持し  
続ければあと140年で残された未伝の7000部族に福音が到達する計算になる。  
2025年現在から、この教会が10年後の2035年に開拓されるなら、残り6500部族になっ  
ている。そこからさらに約20年後の私が60歳になった時には、この教会がこの宣教の働きに関  
与しない場合、1000部族には達し、5500部族になっている。この教会は、この5500部族に  
どうしても届けたい。そのために、5500部族に宣教師を派遣したい。1部族あたり最低2人の  
宣教師を派遣するなら、11000人の宣教師を送り出したい。正直、3万人の教会で11000人の  
宣教師を派遣することは、不可能な数字に思える。1人宣教師の必要が毎月30万だとするな  
ら、毎月1万円を30人の信徒がサポートする必要がある。しかし、今、未伝とされる民族は宣  
教師ビザを持って入れる国ではなく、宣教が表向きでは禁止され、宣教師ビザでは入れない  
国がほとんどなのだ。そのため、宣教師は自ら「職業ビザ」を持って入国することが最も効  
果的な方法だと考える。職業はテントメーカーとして宣教師が自活するなら、経済的なサポ  
ートに心を悩ませることはない。3万人の信徒から1万1000人が宣教師として遣わされれば良  
いと考えている。そのため、初期の段階からこの「全ての民族に福音を！」というビジョン  
を教えていく。

## 第6節 夢の教会

私の夢は、すべての民族がイエス様を賛美することだ。

私の夢は、日本国民みんながイエス様を礼拝することだ。

私の夢は、この地上にいる間に、全ての民族に福音が宣べ伝えられて、イエス様がこの地に来  
る時、喜びつつ王の王なる愛する主イエスを迎えることだ。

教会成長は3万人で留まらない。主が願われているのは、「全ての人の救い」である。

そのために、1人でも多くの魂を獲得したい。日本の約1億2279万人<sup>64</sup>の人口のうち、キリスト教  
人口1%(約122万8000人)を引くと、1億2156万人がイエスを知らないという計算になる。この、1  
億2156万人全ての人に福音が伝えられ、イエスの弟子とされることを願う。神学的には、全ての  
人が救われることは万人救済論(Universalism)であり、永遠の滅びに入れられる人がいる<sup>65</sup>と記  
されている聖書と矛盾するため、聖書的な考え方ではない。しかし、神の愛と憐れみの心は、日  
本の全ての人々が注がれている。この日本が福音化するために、3万人のメガチャーチが日本の東  
京、大阪、名古屋、福岡、札幌、沖縄など主要な都市に立ち上がればと願う。

この教会の本当のゴールは、3万人のメガチャーチではない。日本の全ての人々の救いであり、  
日本の福音化である。さらには、世界に福音が伝えられ、主の来られる道を備えることである。  
そのために、日本中にこのメガチャーチが広がることを願う。日本中に3万人規模のメガチャーチ  
が10個立ち上がり、日本人がプロ野球観戦のために何時間も熱中しているがイエス様をひたすら  
何万人もの人々が全国中で熱狂的に賛美し、祈り、礼拝している姿をみたい。

### 宣教神学校の設立

聖書学校も立ち上げたい。日本中に益々多くの神学校が生み出され、神の宣教のビジョンに心  
を合わされて、宣教のために遣わされていくことを願う。また、未伝地域で用いられる職業的ス  
キルを身につける訓練も備えたプログラムも備えていきたい。宣教師を送り出すプログラムを充

<sup>63</sup> 未伝道部族とは何か - WUPM Japan 2025.7.8閲覧

<sup>64</sup> [https://www.worldometers.info/ja/世界人口/日本-人口/#google\\_vignette](https://www.worldometers.info/ja/世界人口/日本-人口/#google_vignette) 2025.12.20 閲覧

<sup>65</sup> 第二テサロニケ 1:8-9 新改訳 2017

実させ、日本での宣教教会にも特化した学びにも力をいれていきたい。KBIとも深い信頼関係を築いていきたい。初期の頃はKBIにどんどん神学生を送りたいが、リバイバルが日本に訪れ何百人もの人々を訓練する神学校も必要になる。何百人もの神学生を訓練できる宣教学校を立ち上げた。また、訓練期間は2年にし、3年目は現場で訓練されるのが良いと考える。

### 教会の構造

- ・教会の中には、おしゃれで素敵なカフェを立てる。  
スターバックスよりおしゃれにする。賛美BGMを流す。  
来る全ての人が神の愛を体験する空間。ノンクリスチャンも来たくなる空間。  
最高の接客とともに美味しいドリンクが安く飲める。Wi-Fiも完備。
  - ・中高大学生、社会人も使える勉強スペースがある。おしゃれな机にWi-Fiもある。  
希望者には大学生達がボランティアで勉強を見てくれる。
  - ・日本最大級のキリスト教書店も設立する。
  - ・教会内に温泉施設もつける。神の愛でリラックスできる最高の温泉施設がある。  
風呂上がりはくつろげるスペースがあり、漫画スペースの代わりにキリスト教書物が並ぶ。  
食事できる場所もあり、スタッフは皆クリスチャン。
  - ・子ども向けの障害者のデイサービスがある。クリスチャンが経営している。  
障害を持った子ども達が楽しく神の国の価値観の中で伸び伸び過ごすことが可能。
  - ・大きな公園を設置して近所の子育て世代のパパ、ママ、子ども達が来れるようにする。  
楽しい遊具を設置する。小さな遊園地のようなアトラクションも作る。  
それによって休日も多く子ども達が教会に足を運べるように敷居を広くする。
  - ・ジムを作る。最先端の最高のトレーニング機材を導入し充実させる。  
それによって大学生や社会人の男性が教会の敷地に足を運び、  
教会に自然と来たくなるようにする。
  - ・ボルダリング施設を作る。それによって子ども達が沢山来るようにする。  
教会は本当に楽しい場所という意識を植え付け、教会学校に来たくなるようにする。
  - ・保育園を作る。仕事で忙しいパパ、ママの味方になる。神の国の価値観で保育を行い、  
主の弟子となる子ども達を育てる。保育士の給与は、公務員並みに高い給与にする。
  - ・チャーチスクールを設立する。  
主の教育と訓戒によって子供を育てたいと願う両親をサポートする。  
小、中、高まで受け入れる。
  - ・母子室を充実させ子どもが小さくても、メッセージを聞いて恵まれるように  
母子室にベビーシッターを配置する。
  - ・高齢者施設を置く。
  - ・体育館を作り、さまざまなスポーツに取り組めるようにする。
  - ・野球クラブ、サッカークラブを作る。球場、サッカーコートも作る。  
元プロクリスチャンが教える。
  - ・様々な取り組みを通して地域を愛し、仕える。
  - ・地域カフェ、教会カフェ、
  - ・多世代サロン 高齢者と子ども、孤立者の居場所、不登校、引きこもりの居場所
- 
- ・生活・人生相談（予約制）、傾聴ボランティア、グリーフケア（死別・流産・離別）
  - ・子育ての悩み相談、介護疲れの傾聴、
  - ・フードパントリー、炊き出し・お弁当配布、買い物同行、家事の手伝い（単発）
  - ・冬の防寒支援／夏の熱中症対策
  - ・無料学習支援（教会学校+α）、親の休息タイム（子ども預かり）、絵本の時間
  - ・思春期カフェ、若者の居場所
  - ・日本語教室、多文化食事会、留学生サポート
  - ・病院、スーパー、図書館、納骨堂、畑、ミニ動物園、  
マクドミみたいなファストフード(かなり安い)、駄菓子屋、学童、親子ひろば、子ども食堂、

- ・不登校支援、認知症カフェ、就労継続支援、自殺予防ホットライン、病院、日本語教室
- ・美容院、結婚式場、AIプログラミング会社、コワーキングスペース、自治会活動
- ・地域サロン、交流イベント、多世代交流、地域新聞、映画スタジオ、日本語学習支援、
- ・英語教室、英会話、留学生支援、炊き出し、グリーンケア、無料カウンセリング、
- ・地域清掃サポート、町おこし、まち祭り、オンライン相談、祈り、
- ・全てのサービスは教会員メンバーのみ半額になる。

## 第5章 神の願われるリーダーシップ像とは（リーダーシップ論）

### 第1節 メガチャーチスキャンダルからの聖書的な脱却

この章では、神の願われる聖書的なリーダーシップ像とはどのようなものであるのかを考察する。

お金と名誉を人が得た時、多くの人はそのお金と名誉のゆえに、道を踏み外し、神の御心ではない道にそれて行ってしまう。まさに、メガチャーチの牧師がスキャンダルを起こすニュースは、非常に多い。

多くのメガチャーチや用いられているミニストリーであっても、リーダーのリーダーシップの問題によって良き働きや実が一気に崩れてしまうのだ。特にスキャンダルによって、用いられてきたメガチャーチが社会からの信用を失っていくニュースをよく耳にする。

神に用いられ、お金や名誉を得た時に神を愛した人であっても一つの事柄で失敗する可能性は十分にある。

#### Hillsong

私は中学生の頃、親からクリスマスプレゼントでもらったCDの中に、1曲、毎回聞くたびに感動する賛美があった。その賛美を YouTube で調べると、Hillsong church が出てきた。何万もの人々が、涙を流し、喜びに溢れながらイエス様を礼拝している姿に衝撃を受けた。そして、私も、このようなメガチャーチを牧会する牧師になりたいと夢見るようになった。

しかしある時期にオーストラリア人の知り合いから、Hillsong church の悪い評判を聞いた。話を聞くと牧師のスキャンダルの問題によって、オーストラリアの中でも評判が悪くなっているということであった。私はその話を聞いて、ネット記事も調べ、スキャンダルがあった事実を知り、とても悲しくなった。以下の引用がニュース記事の日本語訳である。<sup>66</sup>

「1件目は、10年前にヒューストンが職員に対してテキストメッセージで軽薄な言動をしたという告発で、理事会はこれを、彼が睡眠薬の影響下にあったためだと説明した。その薬には「依存が生じていた」という。声明によると、ヒューストンはその職員に謝罪し、その職員はこの出来事を理由に辞職したという。「また、ブライアン牧師がこの薬物依存を解消するため専門的な支援を受けるよう、密接に取り組み、その結果は成功した」としている。

2件目の出来事は、2019年にニューサウスウェールズ州ホームブッシュのクドス・バンク・アリーナで開催されたヒルソングの年次大会中に起きたとされている。

理事会の声明によれば、ヒューストンは抗不安薬を処方量以上に服用し、さらにアルコールを摂取したことで「混乱状態」に陥った。「その結果、自分の部屋ではないホテルの部屋のドアをノックし、その部屋に入り、そこにいた女性と時間を過ごした」と述べている。」

「ヒューストンは2021年8月、他人が犯した重大な犯罪を隠蔽した罪で起訴された。警察によると、彼の父フランク・ヒューストン（故人）も牧師で、1970年に少年に対するわいせつ行為を行ったとされている。裁判資料では、ヒューストンが1999年には父の虐待行為を知っていたにもかかわらず、「正当な理由なく」警察に通報しなかったとされている。」

彼は、薬を服用する生活を送っていた。大会の中で、自分の部屋ではないホテルで過ごす言動をとってしまった。

彼の父親も性的な虐待行為を行い、それを知っていたが通報しなかったと記されていた。

<sup>66</sup> <https://religionnews.com/2022/03/23/senior-pastor-brian-houston-resigns-from-hillsong-after-revelations-of-indiscretions-with-women/> 2025.12.24 閲覧

聖霊様に導かれ、豊かに用いられてきた教会であり、牧師であるのに、なぜこのようなことになってしまったのだろうか。大きなストレスの中で眠れなくなり、睡眠薬と抗不安薬を使用していた様子をこの記事から伺うことができる。また、両親からの傷があった可能性も十分あり得る。敵は、彼自身の弱さに付け込んで攻撃していることを見ることができる。敵は私たちの弱さに付け込んで攻めてくるのである。

## IHOP

この出来事以降、私は「祈りの家」について関心を持つようになった。特に、アメリカで祈りの家を継続されている IHOP の YouTube 配信や、創設者の著書によって私は恵みを受けてきた。しかし、ある時期、IHOP の創始者がスキャンダルによって一気に評判を落とし、働きの影響力は低下していくニュースを知った。以下は、ニュースサイトからの抜粋を翻訳したものである。<sup>67</sup>

「カンザスシティ国際祈りの家 (IHOPKC) は、性的非行スキャンダルを受け、創設者であるマイク・ビックルとのあらゆる関係を断つたと発表した。この発表は、ビックルが約 20 年前に起きた「不適切な行為」について認める声明を出した後になされたものである。ビックルは、複数の女性に対する性的虐待を行ったとする告発が浮上して以降、約 2 か月間にわたり厳しい調査の対象となっていた。IHOPKC はその後、これらの性的非行疑惑を調査するため、独立した調査員を雇用した。」

「「ビックルはクリスマス前に X (旧 Twitter) に投稿した書簡の中で、次のように告白していた。「悲しいことに、20 年以上前、私は不適切な行為に及ぶという罪を犯しました。私の道徳的な失敗は事実です。(一部で示唆されているような、より深刻な性的行為について認めているわけではありません。)」さらに彼はこう続けている。

「私はすべての罪を重大なものとして受け止めています。そのため、当時は速やかに、そして心から悔い改め、神からの赦しの確信を受け、その後は日々、あらゆる面で聖く生きる決意をしました。神は恵みによって、砕かれ悔いた心、神にかなった悲しみに満ちた態度で対応できるよう助けてくださいました。今日に至るまで、私は過去のこれらの失敗について深い悲しみを抱き続けています。

CBN ニュースが 10 月下旬に報じたところによると、IHOPKC の元指導者たちは、「マイク・ビックルによる聖職者としての性的虐待」が「複数の被害者」に対して行われたと主張する書簡を公表した。その後、IHOPKC は報告書を発表し、元指導者たちがビックルに関わる「不道德な関係」について「申し立て」を行ったとする 8 人の女性のうち、5 人を特定した。」

主を愛し、主に用いられていた彼が、過去に何人もの女性と不道德な関係を持っていたことを知り、悲しかった。彼はこの働きから永久に決別させられることとなった。罪を告白し、神の赦しを得ていることは良いことである。また、私たちが彼を罪に裁くことはできない。しかし、どれだけ神に用いられていても、私たちは常に心を引き締め、いつも主の前に抱いている罪を告白しつつ歩む必要がある。

## ウィロークリーク

KBI に入学してから、図書室にある本でリーダーシップについて非常に多くを学ばさせられたのがビルハイベルツという方の本であった。非常に恵みを受け、リーダーシップについて多くの

---

<sup>67</sup> <https://cbn.com/news/us/ihopkc-announces-permanent-split-founder-mike-bickle-after-sexual-misconduct-scandal> CBN 2025.12.24 閲覧

学びと示唆を受けた。しかし、彼は異性問題によって牧師を退任したことを知り、<sup>68</sup>「またしても私は悲しみを覚えた。以下もニュース記事を抜粋し、翻訳している。<sup>69</sup>

「40年以上前にウィロー・クリーク教会を創設したハイベルズは、自身に対する告発をめぐる論争を受け、昨年4月に辞任した。トリビューン紙が報じた不適切行為の内容には、長時間のハグ、望まれないキス、性的な含みを持つ発言、ホテルの部屋への招待などが含まれていた。また、既婚女性がハイベルズとの不倫関係を主張したが、後にその主張を撤回している。報告書は、「数十年にわたり、ウィロー・クリーク・コミュニティ教会の理事会は、ビル・ハイベルズに対する有効な監督を提供することができなかった」と指摘している。教会指導部は、これまでの内部調査において、繰り返しハイベルズに不正行為はなかったと結論づけてきた。今回の最新報告書はまた、ハイベルズが牧師在任中に「男女双方の職員に対して、言葉や感情面で威圧的な態度を取っていた」と結論づけている。報告書は、調査担当者がハイベルズ本人と面会したこと、そして彼が性的非行の告発について公的にも私的にも否定していることも明記している。独立報告書の公表にあたり、ウィロー・クリーク教会の新しい長老会は声明を発表した。「私たちは過去の出来事を変えることはできませんが、起きたことを深く悲しみ、赦しを求め、癒やしと和解を追い求めることに献身することを約束します」と、教会は公式サイトに掲載した。「この時期における、教会の歩みとミニストリーへの皆さまの祈りと誠実な関わりに感謝します。」

ハイベルズを訴えた女性はその主張を撤回し、教会の理事会でさえハイベルズを監督することはできなかった。威圧的な態度であったハイベルズによって、問題は水面下にありつつも表に出てこなかった。これは彼の権威主義の模様を伺うことができる。

「被害者支援活動家でキリストの教会の牧師であるジミー・ヒントンは、ハイベルズが性的非行を認めず、謝罪していないことが最大の懸念だと語った。「被害者と向き合う私のすべての活動の中で、共通して浮かび上がるテーマがあります。それは、被害者たちは加害者が自らの罪や犯罪を認め、悔い改め、与えた傷について謝罪することを望んでいるということです。」

児童性的虐待の元検察官で、教会が虐待にどう対応すべきかを助言する団体「GRACE」の創設者ボズ・チビディジャンは、告発の信ぴょう性が認められた点は評価しつつも、報告書は十分に踏み込んでいないと指摘した。「この報告書の中で、勇気をもって多くの女性が訴えた具体的な告発内容に割かれているのは、1ページにも満たない」と彼は述べた。

「被害者の中には、このグループに対し、ビル・ハイベルズによる虐待について5時間以上かけて詳細に語った人もいますが、その内容は報告書ではほとんど触れられていません。」チビディジャンはさらに、調査団がウィロー・クリークにおける文化的・統制的な問題をもっと取り上げるべきだったとも述べ、「ビル・ハイベルズを生み出し、力を与え、守り、擁護してきた、長年にわたる人の人生を破壊するような組織文化への言及が、ほぼ欠落している」と批判した。新しい長老会は、今回の調査結果を踏まえ、教会文化、方針、そしてウィロー・クリークの統治モデルを見直すことを約束しており、その対応を検討する過程で、継続的に情報を発信していくとしている。」

ハイベルズは罪を認めてはおらず、否定している。しかし、この事件によって教会の働きを妨げる要因となっていると彼は判断し、予定より6ヶ月早く退任した。

ハイベルズが本当にこの罪を犯しているかいないかは神にしかわからない。しかし、権威主義的な教会形成によって、リーダーの罪でさえ水面下で揉み消されるような構造であったことがわか

<sup>68</sup> <https://time.com/5236233/bill-hybels-megachurch-sexual-misconduct-resign/> Time 誌 2025.12.24 閲覧

<sup>69</sup> <https://cbn.com/news/us/independent-group-finds-sexual-misconduct-claims-against-bill-hybels-credible> 2026.1.7 閲覧

る。また、多くの証言によって告発された出来事に対する信憑性は高い。リーダーが独裁的にならないための組織構造を構築することが非常に重要であると考えさせられる。

「メガチャーチの牧師は、人から妬まれ、有る事無い事を描いて中傷される」と KBI の先生が話されておられた。確かに、この事件は偽りである可能性もあるが、ハイベルツが罪を告白していない可能性も十分にある。どちらにしても、メガチャーチの牧師が直面する戦いは大きい。神の恵みなしにはこの戦いに打ち勝つことはできない。

#### ヨイド純福音

世界最大の教会であるヨイド純福音の牧師、チョー・ヨンギ師はお金、権力に関する問題で、社会から多くの信用を失った。教会資金を用いて息子の会社の株式を高値で購入したのだ。<sup>70</sup> この事件はメガチャーチに対する不信感を世界中に抱かせた。牧師の権力と経済管理については、メガチャーチの中においては常に注意する必要がある。また、権威濫用の阻止と権力の分散化、経済の透明性と誠実で適切な運用が非常に求められている。

リーダーが倒れるなら、多くの人々が倒れることをサタンは知っているのだ。サタンはリーダーを狙って攻撃するのだ。もし主の恵みと哀れみによってメガチャーチを牧会するようになると主が導いてくださるなら、この領域において勝利しなければ、メガチャーチを通して神の栄光が表されるのではなく、悲しい噂が回ってしまう。失敗した者にも神は恵みを注いでくださり悔い改めるなら赦してくださるお方ではある。しかし、この性的な領域において、神の働き人として清さを追い求め、どんな誘惑にも勝利するリーダーとして歩みたいと願う。

では、どうすればこの問題に勝利できるのだろうか。

この章では、リーダーシップにまともにつき誘惑、異性問題と金銭問題について、どのように勝利していけるかについてを聖書から考察する。主の恵みと憐れみによって、主が来られる日まで主の喜ばれる働きを継続するメガチャーチを建て上げていく土台となることを願う。

また、燃え尽き、家庭崩壊、後継者問題についても触れつつ、神の願われる聖書的なリーダーシップ像とはどのようなものであるのかを考察する。

## 第2節 リーダーシップの直面する課題

### 1) 異性

メガチャーチであれ、どんな教会であれ牧師であれば向き合う問題が「異性」との関わり方である。教会において、牧師が与える影響は測り知れないほど大きいものがある。牧師の霊性は、会衆に伝播する。牧師が異性関係において神のみ心に削ぐわない生活をしているなら、いつかその問題が明るみに出る時がくるだろう。信徒レベルにおいても同様である。キリスト者が清さを追い求めて生活することが、神と共に歩むためには必要不可欠である。特にポルノの誘惑は、男性の99%が受けているとも言われるほど、この世の中においては一般的である。さらに、この世の視点では不倫が横行している。しかし、キリスト者はその基準にとどまって生きるべきではない。キリストが死なれたのは、私たちが罪を離れ、義のために生きるためなのだ。

全ての人には罪人であり、誰も人を裁く権利はない。しかし、罪を妥協し、罪の中に生き続けるなら、神の御心を行う尊い器として用いられることは困難である。

どのようにして清さの中を歩むのか。

<sup>70</sup> [https://www.gospelherald.com/news/david-yonggi-cho-reflects-on-guilty-verdict-hardest-day-of-50-years-of-ministry?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.gospelherald.com/news/david-yonggi-cho-reflects-on-guilty-verdict-hardest-day-of-50-years-of-ministry?utm_source=chatgpt.com) 2025.12.24 閲覧

これは非常に重要な問いであり、クリスチャンの生き方の中心である。

大きなメガチャーチや、用いられているミニストリーであればあるほど、多くの人が入り出すようになる。当然、その人のミニストリーによって恵まれた多くの異性からの好意を受けることも増えてくるだろう。その時にリーダーは、どのような距離感を持って異性と関わるのかが問われてくる。ヒルソングでのスキャンダルの中では、牧師とスタッフとの関係性によるものがあった。大きな教会内でのスタッフ間における異性との距離感の取り方は、非常に重要なポイントとなる。誘惑を避けるため、テキストメッセージですらも、主に祈りつつ、主の清さを求めつつ、距離感について意識しながら取っていく必要がある。

## 2) お金と権力

経済的な祝福は神からの恵みであるが、それは時として「罨」ともなり得る。

お金を正しく管理する者が一方で、お金を自分の益のために用いるならば、教会や社会に悪影響を与えることになる。メガチャーチという規模になるなら、当然、動くお金は巨額になる。

その財政をどのようにして主の前で正しく扱うのかが、問われている。牧師がお金をどのように管理しているのか。また、教会の会計担当者が、教会全体が、財政をどのように捉え、神の国の建設のために用いているのかが非常に重要になる。誠実さと透明性が必要である。

## 3) 燃え尽き

大きな教会であればあるほど、教職者やスタッフ、奉仕者にかかる仕事量は増えてくる。礼拝、交わり、様々な奉仕の数に教職者やスタッフ、奉仕者は、燃え尽きてしまうことがある。

あまりの精神的ストレスと過労のゆえに燃え尽き、働きを引いて休養が必要なケースも多い。

私自身も教会でフルタイムで伝道師として仕えながら、会社でフルタイムで働いていた時はストレスと過労によってバーンアウトを経験した。私の知り合いにも、大きな教会で仕える中で燃え尽きた友人が何人もいる。「メガチャーチほど問題が多い」とKBIのある先生が話しておられた。人の数だけ問題はある。そして、仕事量も増える。その中で、どのように牧師や教職者、スタッフ、奉仕者が休める環境を作るかが非常に重要になる。休みやすい制度や雰囲気、環境と聖書の安息についての教えを伝え、主の前で安息し、必ず週1日は安息を死守する。また、定期的に休暇をもち、主と家族との時間を大切に作る教会を建て上げたいと願う。

## 4) 家庭崩壊

メガチャーチであつたり、働きが大きく成功しているように見えても、家庭は崩壊しているケースがある。どれだけ働きが祝福されていても、家族が傷つき、崩壊している牧会者になりたいとは思わない。むしろ、家族を心から愛し仕え、家庭を良く治める者でありたい。

私の父は12年仕えた教会から問われた。「ホームスクーリングを続けるならこの教会を出て行ってください」と。教会の方は子どもとの時間を割くかわりにもっと多くの時間を、教会に割いて欲しかったのだと思う。

父と母は祈り、主から召しとして受け取っているホームスクーリングを継続する決断をした。その結果、その教会を離れて、別の教会で牧会することとなった。赴任した教会では分裂を経験し、人数は減った。多くの批判と痛みと困難を通過してきている姿を目の当たりにして育ってきた。

そんな父と母は9人の子どもを育て、神を愛する子どもたちを育て続けている。

そんな父はよく言っていた。「優先順位は、神様、家族、教会だ」と。

私はそんな父を心から尊敬している。教会の量的な成長から見ると、成功してはいない。

しかし、家庭においては誰よりも成功している牧会者だと思う。

大きなメガチャーチを牧会しても、家庭が崩壊しているなら何の意味があるだろうか。

愛する家族をまず牧することが最優先事項である。大学4年次に奉仕していた埼玉のぞみチャペルで、牧師の播義也師は言っていた。「家庭が1番の牧会だ、まず妻を牧会すること。家族を牧会できないなら教会を牧することはできない」と。本当にそうだなと思う。

播師は息子の部活の故に日曜の礼拝に出席できない理由から、土曜の夜の礼拝を始めていた。

一人の息子のために、礼拝をする。その姿に、感銘を受けた。  
まず、神様、自分、妻。子ども。そして、教会。  
家族を大切にしたい上で、教会を建て上げていきたいと願う。

「自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができのでしょうか。」第一テモテ 3:4,5

#### 5) 後継者

大きな働きであればあるほど、適任の後継者がいるかないかは、その組織の存続に関わる大きな問題である。主がメガチャーチを立てあげる働きに召してくださるなら、開始と同時に後継者について祈り求め、主の恵みと愛によって育てていく必要がある。

適任の後継者がいないゆえに崩れて行ったミニストリーの話聞いたことがある。しかしそれは、非常にもったいないし、リーダーが不在となった組織には大きな混乱と問題が起こる。

モーセがヨシュアを育てたように、エリヤがエリシャを育てたように、バルナバがパウロを、パウロがテモテを育てたように、常に次の世代を育てていく牧会者になりたいと願う。

#### 6) その他

名誉欲、権威主義、異端問題、分裂などそのほかにも様々な問題が起こり得るだろう。

「問題がない教会はない。大切なのは、その問題にどう向き合うかである」と KBI である先生が話しておられた。3万人のメガチャーチを立てるなら3万人分の問題が起こってくるだろう。

しかし、共におられる主は「不思議な助言者」「力ある神」「平和の君」であり、「助け主」である。どんな問題もこのお方に委ねるなら、主が解決してくださるのだ。

また、モーセがイテロの助言を受けてリーダーたちを立てて行ったように、初代教会が7人のリーダーを立てて行ったように、メガチャーチという大きな規模になればなるほど、リーダーに権威を分散し、委譲していくチームワーク牧会が非常に鍵になってくる。組織のあり方についてもますます祈り、研究し、御心に叶う組織運営についての知恵が必要がある。

### 第3節 聖書的なリーダーシップとは

リーダーシップにまわりつく誘惑、異性問題と金銭問題について、触れてきたが、大切なことは、どのようにして勝利していけるかということである。

神の願われる聖書的なリーダーシップ像とはどのようなものであるのか、聖書と文献を元に探り求めていく。

#### 1) 異性問題に勝利するために

異性問題に勝利するためには、まず、牧師自身の心の状態が問われている。隠れた罪がないか。放置している罪はないか。隠れてポルノを見ていないか。もしそのような罪があるならば、信頼できる兄弟に打ち明け、祈ってもらふ必要がある。また、習慣化するポルノや神に喜ばれない異性関係があるのであれば、その習慣を完全に断ち切ることができるよう、神の恵みを求める必要がある。

#### ポルノからの解放

私は中学生頃からポルノを見るようになった。これは罪だと知りながらも罪を犯し、神に悔い改めることの連続であった。神を愛し、神に従って歩んでいても、疲れや、大きなミニストリーの後にはポルノの誘惑に負けることがあった。罪を犯すたび、神に罪を告白し、パッションの動画を見てイエスが私の罪に死なれたことに感謝し、悔い改めた。もう二度と同じ罪を犯さないようにしてくださいと祈り求め、信頼できる兄弟にも守りを求めて祈ってもらった。しかし、定期

的に来るこの誘惑に勝利する時もあれば負ける時もあった。回数や頻度は減ってきたものの、完全な解放には至っていなかった。結婚したらこの問題は解決されるかと思ったが、そうでもなかった。そんな中でKBI 関西聖書学院に入学し学びを続けた。私は神に渴いた。

それは、この罪の鎖から完全に自由になりたいという激しい飢え渴きであった。私はポルノから解放されたという信頼できる信仰の先輩に、どうすれば完全に解放されることが可能なのか、その秘訣を尋ねた。彼は自分がどのように解放されたか話す中で、「断食はいいかもしれませんが」と提案してくれた。断食をする中で、御霊の実である「自制」が与えられていくという話をしてくれた。また、ちょうどその時期にある信仰の先輩に同じ問題を相談すると、「断食がいいと思う」と話しておられた。信頼する2人の信仰の先輩から断食を勧められ、祈りの中で、神が断食を導いておられると受け取った。ちょうど、2025年の夏、私はポルノを完全に解放されるために神の恵みを求めて断食をすることにした。水だけ断食で始めたため、4食抜いた地点で気持ち悪くなって何度も吐いてしまった。信頼できる先輩に相談すると野菜ジュースを飲むことを勧められ飲んだ。

断食について今後は野菜ジュースを飲んで取り組んでいこうと思った。そのままだと危険な状態でもあったので、そこでこの時の断食は終わったが、それ以降、ポルノに対して全く魅力も、誘惑も感じなくなっていった。まさに主が与えてくださった打ち破りであった。

変わらずに性欲は男性である以上、もっている。しかし、長期間であっても御霊によって自制することができるようになった。妻の妊娠期間中、私は自分が長期間自制していることに気づき、驚いた。ただ、神の恵みでしかない。

この論文を読んでくださる方の中で、ポルノ中毒から抜け出せないままにいるなら、神の恵みを求めて断食して祈ることをおすすめする。野菜ジュースで栄養をとりながら。

神は試練と共に脱出の道を備えてくださるお方であり、求め続ける者には与えてくださる真実なお方である。

#### 異性問題に対する聖書的な解決策

聖書もこの性的な問題に対して明確な脱却方法について述べている。

ヨセフの物語だ。彼は、ポティファルの妻に言い寄られたが、走って逃げた。

逃げるこそ得策である。誘惑に近づかず、誘惑が出てきたら即座に逃げること。

それが聖書的な、解決策だ。

対照的にダビデは、誘惑が来た時逃げなかった。

屋上で見つけてしまったバテシェバ。その瞬間彼は、逃げなかった。

調べ、連れて来させ、寝たのである。誘惑が来た時、どのような心構えでいるのか。

それが非常に重要だ。そのためにはいつも心を主ご自身で満たしている必要がある。

清さの中を歩むことについて、聖書はこのように述べている。

「どのようにして若い人は 自分の道を清く保つことができるでしょうか。

あなたのみことばのとおりに 道を守ることです。」詩篇 119:9

みことばの通りに生きることが、清さの秘訣である。神を愛したダビデも、お金と権力を手にした時、心に隙が生まれた。皆が戦いに行く時、彼は戦わなかった。第二サムエル 11:2 には、ダビデが起き上がった時刻が、夕方であったことが記されている。夕方まで寝ていたのかもしれない。いつも目を覚ましていなければならない。たとえ休みの日であったとしても、いつも主の前に生きること。朝起きて、主の前で過ごし、主と共に生きること。イエスが言われた「気をつけて、目を覚ましていなさい」<sup>71</sup>という言葉に肝に銘じ、霊的に目覚めていることが非常に大切である。

<sup>71</sup> マルコ 13:33 新改訳 2017

イエスは姦淫の現場で捕えられた女性に対して、「わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」<sup>72</sup>と語った。

第一ヨハネ 1:9 には、「もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」<sup>73</sup>と記されている。

イエスは告白するとき、私たちの罪を赦される。しかし神の御心、イエスの御心は、私たちが罪ではなく、清さの中を生きることである。全ての人が罪人であり、神の恵みによって義とされる。しかしクリスチャンは、清さを追い求めて歩む必要がある。清さを求めて歩むなら、主は私たちに尊く用いられるのである。

神のみこころは、あなたがたが聖なる者となることです。あなたがたが淫らな行いを避け、一人ひとりがわきまえて、自分のからだを聖なる尊いものとして保ち、神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、また、そのようなことで、兄弟を踏みつけたり欺いたりしないことです。私たちが前もってあなたがたに話し、厳しく警告しておいたように、主はこれらすべてのことについて罰を与える方だからです。神が私たちを召されたのは、汚れたことを行わせるためではなく、聖さにあずからせるためです。ですから、この警告を拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがたにご自分の聖霊を与えてくださる神を拒むのです。<sup>74</sup>テサロニケ人への手紙 第一 4:3-8

大きな家には、金や銀の器だけでなく、木や土の器もあります。ある物は尊いことに、ある物は卑しいことに用いられます。ですから、だれでもこれらのことから離れて自分自身をきよめるなら、その人は尊いことに用いられる器となります。すなわち、聖なるものとされ、主人にとって役に立つもの、あらゆる良い働きに備えられたものとなるのです。あなたは若いときの情欲を避け、きよい心で主を呼び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。<sup>75</sup>テモテへの手紙 第二 2:20-22

## 2) 金銭、権力問題に勝利するために

金銭や権力を持った時、人はどのように振る舞うのだろうか。多くの人は、お金や権力を手にした瞬間、間違った方向に舵を切る。宝くじが当たった人々の多くは、人生を不幸にするとも言われている。ヨイド純福音教会のチャー・ヨンギ師は、金銭、権力を手にした時、それを神のものとして扱わず自分のものとして扱ってしまった。神を愛し、神のために豊かに用いられていた彼だが、教会の献金を自分のお金のように使ってしまったのだ。

なぜこのようなことになったのだろうか。まず、サタンはリーダーを狙う。そして、弱いポイントをついてくる。特に性的な領域と金銭、権力は男性にとって罠になりやすくウィークポイントである。この領域において、神の恵みをいただき、どのようにしたらこの金銭、権力の問題に勝利できるのだろうか。聖書は次のように語る。

金持ちになりたがる人たちは、誘惑と罠と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは金銭を追い求めために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を差し貫きました。<sup>76</sup>テモテ第一 6:9,10

金持ちになりたがらないこと。金銭を愛さないこと。金銭を追い求めないこと。

<sup>72</sup> ヨハネの福音書 8:11 新改訳 2017

<sup>73</sup> ヨハネの手紙第一 1:9 新改訳 2017

<sup>74</sup> テサロニケ人への手紙 第一 4:3-8 新改訳 2017

<sup>75</sup> テモテへの手紙 第二 2:20-22 新改訳 2017

<sup>76</sup> テモテへの手紙 第一 6:9,10 新改訳 2017

それが非常に大切だ。お金を多く稼ぐのは罪ではない。しかし、お金を多く持ち、お金を愛していきるなら、致命的である。神の働きにおいては、お金を稼ぐなら、その目的は神の栄光であり、神の福音を伝えるために捧げるべきである。

しかし、神の人よ。あなたはこれらのことを避け、義と敬虔と信仰、愛と忍耐と柔和を追い求めなさい。<sup>77</sup>テモテ第一 6:10

お金をどう管理するかが、メガチャーチの牧師には問われている。  
どのような心で管理するのか。お金持ちになりたいのか。  
もしくは、神のために全てを捧げて生きるのか。

興味深いことに、聖書の登場人物の多くはお金持ちである。  
アブラハムは、非常に裕福であった。イサクも非常に栄えていた。  
ダビデも王であったし、ソロモンも王であった。ヨシャパテ、ヒゼキヤ、ヨシヤも王であった。測り知れないほどの富と権力が与えられていた。ヨセフ、ダニエル、ネヘミヤ、ヨブも権力者であった。新約ではアリマタヤのヨセフ、百人隊長コルネリウス、ローマ属州の総督セルギウス・パウルスなど。

彼らはこの世の富、権力を自己のためではなく、神の御心のために用いていった。

メガチャーチに成長する中で、非常に大切なことは、富や権力を、神の御心のために用いていくということである。

富は神のものであり、富を与えるのも神である。富が与えられた時、私たちは神をほめたたえなければならない。申命記 8 章には、神が富を下さると記されている。

あなたの神、主を心に据えなさい、主があなたに富を築き上げる力を与えるのは、あなたの父祖たちに誓った契約を今日のように果たされるためである。<sup>78</sup>申命記 8:18

高ぶり、神を忘れ、自分がこの富を築いたのだと言ってはいけない。

神を心に据え、神を礼拝することを神は私たちに願っておられる。アブラハムは、多くの富を手にしたが、最高の宝物であった息子を神に捧げた。ヨブも多くの苦しみの中で神と出会い、神を崇めた。全ての富、権力は神から与えられる恵みであり、それを委ねられたなら、神をほめたたえ、忠実な神の恵みの管理者として、神の御心のために用いていくものでありたいと願う。

お金の問題に勝利する聖書が教える解決策とは、

全ての富の所有者は主であり、富を稼ぐ力を与えるのも、神である。ということを肝に銘じ、経済を持って神を崇め、礼拝する心を持つことである。

また、私たちは神の管理者である。忠実な管理者としてお金を用いて他者を愛し、祝福し、福音を伝え、弟子を育てるために与え、神の栄光をあらわすことである。

銀はわたしのもの。金もわたしのもの。一万軍の主のことば<sup>79</sup>  
ハガイ 2:8

あなたが食べて満ち足りたとき、主がお与えくださった良い地について、あなたの神、主をほめたたえなければならない。<sup>80</sup>申命記 8:10

<sup>77</sup> テモテへの手紙第一 6:10

<sup>78</sup> 申命記 8:18 新改訳 2017

<sup>79</sup> ハガイ 2:8 新改訳 2017

<sup>80</sup> 申命記 8:10 新改訳 2017

神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることがおできになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ち足りて、すべてのよいわざにあふれるようになるためです。<sup>81</sup>  
第二コリントへの手紙 9:8

与えなさい。そうすれば与えられます。ルカ 6:38

自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。自分のために、天に宝を蓄えなさい。<sup>82</sup>マタイ 6:19,20

### 3) 燃え尽きないために

燃え尽きないために大切なことはなんだろうか。  
聖書ははっきりと、このように語る。

神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。創世記 2:2,3

安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事をしてはならない。

あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。

出エジプト記 20:8-11

神の安息に入る人は、神がご自分のわざを休まれたように、自分のわざを休むのです。  
ヘブル 4:10

安息である。自分のわざをやめて、完全に主との休息の日を毎週設けることが、燃え尽きないためには非常に重要である。

教会の働き人は日曜日に奉仕が詰まっており、忙しい場合が多い。そのため、月曜日か別の日に完全にオフの日を作るべきである。

牧師の多くは月曜日を休みにしているが、その日にも色々な聖会やミーティングが入る場合も多い。これは、良くない。主と祈りつつ、週1日は完全に主と休む日を作るべきである。

メガチャーチなどの大きな組織になればなるほど、休みは大事だ。また、月曜日を休みとするなら、早天祈祷会の奉仕も休みにしてあげたほうが良いと考える。

完全に休み。そして自由に主と家族と過ごすのが、健全なバランスであると思う。

また、メガチャーチを牧会するなら、6年働き、1年の安息年を取り入れたい。

6年働いたスタッフや教職者には、1年間好きな場所で好きな学びやりフレッシュをとっていいよという制度を作りたい。その際の必要は信仰によって主が満たしてくださる。

49年働いた働き人がいるなら、50年目も休みにしたい。ヨベルの年として、主の導かれるように好きなように過ごしてもらいたい。そのような形で、長期的なりフレッシュできる期間を制度として教会での働き人には設けていきたい。また、年間休日も、一般の会社と同様、週休2日は確保する。プライベートと教会の働きは両方で充実してほしい。働き人が喜びに満たされていることが、教会にとっては非常に重要である。

<sup>81</sup> 第二コリントへの手紙 9:8 新改訳 2017

<sup>82</sup> マタイ 6:19,20 新改訳 2017

メガチャーチの牧師は非常に忙しいとは思いますが、牧師自身が休んでいなければ、スタッフには休みにくい土壌を作ってしまう。そのため、牧師も最低週1日は完全オフの日を作って休むように徹底すべきである。この世の文化ではなく、神の国の文化に合わせて教会を建て上げていくなから、神が必要を満たし、祝福し、潤してくださる。

#### 4) 家庭において成功するために

##### 両親との関係

家庭において成功するためには、夫婦関係と子供との関係、親との関係が祝福されていることが鍵となる。神を愛して歩んでいても、親との関係が悪い人も多い。両親から受けた傷は完全に癒やされるためには主からの深い取り扱いが必要であり、適切な教えが必要である。

##### 結婚生活

また、夫婦生活が円満であり、誠実に愛し合っていないければ、子どもに与える悪影響は大きい。男と女は全く別の生き物であるゆえに、結婚しようとする男女は適切で聖書的な学びと先輩のクリスチャンのフォローアップも大切である。結婚においては学び続けることが重要であり、教会が結婚に関する学びを信徒に提供することも非常に大きな価値がある。

##### 子育て

関西聖書学院の舎監である富浦先生は、「夫婦が愛し合っていれば子どもは育つ」と語っておられた。まさに、その通りだと思う。両親が愛し合っている姿を見る時、子どもであった私は大きな安堵感を覚えた。さらに、親が子どもをどのように育てるかが非常に大切である。

学校任せにするのではなく、子どもの責任者は親であり、親が神についてよく教えるようにと聖書は語る。

あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。<sup>83</sup>申命記 6:5-7

神は親に、みことばを子どもに教える使命を与えておられるのだ。それも、家で座っている時も、道を歩く時も、寝る時も起きる時も語るようにと銘じておられるのである。

父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。

むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。エペソ 6:3

親には、主の教育と訓戒で子どもを育てる使命が委ねられている。

神の働きをする上で、まず家庭が神の愛に溢れていなければならない。

夫婦関係が主の愛で満ちていなければならない。まず、メガチャーチの牧師が優先すべき、牧会する羊たちは、家族である。妻であり、子どもたちである。それから教会の羊たちに向かっていく。この優先順位を揺るがしてならない。

家庭において成功するための秘訣を、聖書は明確に語っている。

それは、神を愛し、妻を愛し、(夫に従い) 子どもを主の教育と訓戒で育てることである。

また聖書は明確に、牧会者に必要な資質をこのように述べている。

<sup>83</sup> 申命記 6:5-7 新改訳 2017

自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人でなければなりません。自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会を世話することができるでしょうか。<sup>84</sup>テモテへの手紙第一 3:4,5

メガチャーチが成長していく中で特に重要視すべきことは、家庭の祝福である。家族の祝福を求めて、学び、教え、助け合って成長していく共同体、教会よりも家庭を優先する価値観を、牧会者、奉仕者全員で共有し、認識すること。家庭の祝福を求めて祈り合い、助け合っていくことが、神の御心に叶うリーダーとして歩み、教会を健全に成長させる上で非常に重要である。

#### 5) 次世代を育てるために

次世代を育てなければ、教会の未来はない。

次世代が多ければ、教会の未来は明るい。

子どもは宝である。また、後継者を育てることをイエスは語っている。

次世代育成の解決策について、聖書は明確に語っている。

それは、

「子どもたちをわたしのもとに来させなさい」ということであり、子ども伝道である。

子どもたちがイエス様の元に行き、イエス様に会い、イエス様の弟子として歩めるように育てることを神は私たちに、教会に願っておられる。そのため、メガチャーチを建て上げる上で、教会学校は非常に重要な鍵である。

また、後継者問題についてもイエスは言われる。

「あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい」と。

神は私たちがキリストに従う弟子を育てることを願っておられる。

イエスこそ、後継者づくりの達人であった。12人の弟子を選び、3年間寝食を共にして生き方を通して後継者となる弟子を育てたのであった。

開拓初期から弟子を、いや今からでも弟子を熱心に育てる者でありたい。

#### 6) 様々な問題に勝利し、神の御心を実現させていくために

この章では、聖書的なリーダーシップについて考えてきた。異性、金銭、権力、燃え尽き、家庭、次世代、、、教会で直面するであろう課題を取り上げて聖書に照らし合わせて書いてきた。

もし牧会の現場に出るなら、問題はこれ以外にも山ほど出てくるだろう。

ただここで、イエス様のモデルについて考えてみたい。

イエス様は様々な問題に勝利し、神の御心を実現し、神の栄光を現した。

わたしが行うようにと、あなたが与えてくださったわざを成し遂げて、私は地上であなたの栄光を現しました。<sup>85</sup>ヨハネ 17:4

メガチャーチをリードする牧会者に主が恵みによって導いてくださるならば、手本とすべきリーダーはイエスである。イエス様をモデルにして、聖書的なリーダーシップをとっていきたく願う。イエス様のリーダーシップはどのようなものであろうか。

イエスはまさに、「神を愛し、人を愛する」ことを体現したリーダーであった。

<sup>84</sup> テモテへの手紙第一 3:4,5 新改訳 2017

<sup>85</sup> ヨハネ 17:4 新改訳 2017

### ① 神への愛

イエス様は神を愛して歩まれた。朝早くに、夜遅くにも、イエス様は父なる神の御元に行き、親しく交わり、祈っておられた。そこで神の計画と御心を知り、神の知恵と愛を受けて油注ぎを受けて遣わされていった。どんな時も神を愛し、神に信頼して、神の御心に従って歩まれた。人の顔色を伺うことなく、神の喜ばれることを選択していかれた。聖霊様によって生きられた。

リーダーとして立つ時、イエス様のように神を愛し、神の喜ばれることを選択するものでありたいと願う。

### ② 人への愛

イエス様は人を愛して歩まれた。出会う多くの人々のために、とりなして祈られた。悪霊から解放されるように祈り、病が癒やされるように祈られた。罪の赦しを宣言し、神の愛といつくしみを言動で示された。弟子たちに仕えられた。愛によって癒し、解放し、救われたのだ。忙しい日々であったが、神を第一とし、人を愛された。勤勉であった。全ての動機が、愛であった。

神である主の霊がわたしの上にある。貧しい人に良い知らせを伝えるため、心の傷ついた者を癒やすため、主はわたしに油を注ぎ、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、主の恵みの年、われらの神の復讐の日を告げ、すべての嘆き悲しむ者を慰めるために。<sup>86</sup>イザヤ書 61:1-2

イエス様は人々を愛し、良い知らせを伝え、癒し、解放し、釈放し、慰めた。

私たちがリーダーとして立つ時、人々を愛し、良い知らせを伝え、癒し、解放し、釈放し、慰めていきたい。福音は良い知らせだ。しかしイエスは良い知らせを伝えるだけでなかった。実際に、癒し、解放し、釈放し、慰めたのだ。言い換えるなら、人々が神の愛を体験できるように、神の愛を実践したのである。私たちが教会で神の愛を語るだけではいけない。福音を伝えるだけではいけない。実際にこの世の人々が、イエスの愛を感じるために、行動をもって人々に近づき、人々に触れ、癒し、解放し、釈放し、慰めていくのである。そのように歩む時、私たちはイエスのリーダーシップ、真に聖書的なリーダーシップに立って、人々を神のもとへ導くことができるのだ。

イエスは答えられた。「第一の戒めはこれです。『聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』第二の戒めはこれです。『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。』これらよりも重要な命令は、ほかにありません。」<sup>87</sup>マルコの福音書 12:29-31

この言葉を語ったイエス様は、この言葉を実行した。

まさに、有言実行。正真正銘の世界最高のリーダーである。私たちがこの主の主、王の王なるイエス様の生き方に倣い、イエス様についていく弟子である。

そしてこのお方の生き方に倣う「神を愛し、人を愛する」生き方こそ、様々な問題に勝利し、神の御心を実現する聖書的なリーダーシップなのだ。

<sup>86</sup> イザヤ 61:1-2 新改訳 2017

<sup>87</sup> マルコの福音書 12:29-31 新改訳 2017

## 章結

この章では、リーダーシップにまつく誘惑について取り上げ、神の願われる聖書的な解決策について考えてきた。異性問題と金銭問題、燃え尽き、家庭崩壊、後継者問題についても触れつつ、神の願われる聖書的なリーダーシップ像とはどのようなものであるのかを聖書と、イエスキリストの生き方から考察してきた。

神はどのようなリーダーシップをとって教会を牧会するべきかをすでにみことばの中に示し、その秘訣を教えておられる。すなわち、神の清さを求め、経済や権力を主に捧げ、安息を大切に、家族を大切に、子どもたちを、キリストの弟子を育てていくことである。また、その生き方はイエス様の「神を愛し、人を愛する」生き方に集約される。

この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。<sup>88</sup> マタイ 22:40

「神を愛し、人を愛する。」この生き方を体現したイエス様こそ、私たちが見倣うべき模範であり、聖書が教えるリーダーシップ像である。

## 結論と今後の課題

### 1) 結論

この論文では、イエス様が来られる道を整えるための手段として、「7000の未伝道部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓するにはどうすれば良いか？」ということについて考察してきた。「御国の福音はすべての民族に宣べ伝えられ、それから終わりが来ます」と言われたイエス様の言葉は、必ず成就する。イエスの福音を全ての造られた者に宣べ伝え、あらゆる国の人々を弟子とすることが、私たちに対する神の御心であり、私たちキリスト者の使命でもある。残された未伝部族は約7000であり、その民族に届いていくためには、働き人が遣わされ、宣べ伝える必要がある。筆者は宣教師を7000部族に派遣するためには、大きなメガチャーチを建てて多くの人材を持って未伝地宣教に動員することが効果的であると考えている。

揺るがない聖書的な視点を持って教会形成の揺るがない土台を据えるために、聖書は教会をどのように定義し、どのような目的と使命が神から与えられているのか、使徒の働きが教える教会観についても考察した。

さらに、日本という土壌において万人を超えるメガチャーチは存在していないが、海外で3万人を超えるメガチャーチについての文献調査、実際にメガチャーチで仕えておられた先生方とのインタビューを通して、どのようにしたらメガチャーチを建てることのできるのかを研究した。また、日本という土壌において成長している教会に足を運び、教会成長の秘訣をお聞きすることができた。

このビジョンを実現するため、短期、中期、長期の具体的な目標と計画を立てた。

また、多くのメガチャーチが直面している牧師のスキャンダルについて取り上げ、どのようにしたら様々な誘惑に勝利していけるのか、神の願われるリーダーシップ像とはどのようなリーダーシップであるのかを聖書から考察してきた。

この論文を通して、「7000の未伝道部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓するにはどうすれば良いか？」との問いに対する答えを得ることができた。

それは、

「大宣教命令と弟子訓練、使徒2章にある家の教会とみことばを实践する献身」である。

<sup>88</sup> マタイ 22:40 新改訳 2017

調査結果をもとに導き出された結論のポイントは以下である。

日本において教会成長するために必要なこと

日本で実を結んでいる教会の多くは「地域に仕える」ことを通して地域住民と良好な関係を築き、地域から高い評価を受けていることが印象的で合った。特に、本郷台キリスト教会は「地域に仕える」ことを実践しており感動を覚えた。加古川バプテスト教会も「地域に仕える」ことを実践している教会であり、教会成長は子どもたちを育てることからきていると思われた。

また、成長している教会は、人々を救いに導くために「関係性を重視する」ことを気付かされた。特に、加古川バプテスト教会では、家族との関係、職場、学校での人間関係で地の塩、世の光として一人一人が証人となるようにセルグループによって訓練されていることが伝わってきて感銘を受けた。

Be one大阪も「フォロワーリングジーザス」という弟子訓練テキストを使用し、小さなグループで人間関係を深めてキリストの弟子を育てていた。その育った人々が次の人々を訓練しているのだ。

京都シオンの丘キリスト教会においても、伝道師が1対1で学びを行うことを通して、青年たちが神様をまっすぐ求めるように変えられていた。

まさに、日本人が求めているのは「人間関係」であり目の前の一人を心から愛し、時間とお金を使っていくことに、人間関係を重視していくことに、日本人の救いの鍵があるのだと気付かされた。

日本において豊かな実を結ぶ成長する教会を形成する鍵は、目の前の一人一人をイエス様の愛で愛し、キリストの弟子としていくことである。教会全体で弟子訓練に取り組むことである。

「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」マタイ 28:19,20

イエス様のこの大宣教命令に本気で取り組む教会こそ、日本で成長している教会の鍵である。

日本においてメガチャーチを開拓するために必要なこと

日本において成長するメガチャーチを建て上げていくためには、「宣教、交わり、教育」にいかにか力を入れるかが鍵となる。この中でも特に「教育と交わり」は信徒数約70万人（最大時）のヨイド純福音教会、信徒数約7万人（最大時）オンヌリ教会、信徒数約6万（最大時）サラン教会において特出しており、日本人が求める「人間関係」のニーズを満たすものである。

さらに、「弟子としなさい」というイエス様の大宣教命令に叶う神の御心でもある。

まさに、3万人教会を超えるメガチャーチが実践する教会成長の秘訣は、

「大宣教命令と弟子訓練、使徒2章にある家の教会へのコミット」とも言えるだろう。

みことばをとことん実践することこそ、教会成長の秘訣であると教えられた。

日本において500人を超えて3万人を目指すためには、牧会者の熱心な祈りと献身、聖霊への従順が欠かせない。100人を超えるためには牧会チームが必要になる。初期段階から、1対1弟子訓練を導入し、1人の魂を大切に、キリストの弟子を育てることである。一人ひとりが聖霊によって癒やされ、満たされ、祝福されること。家々で集まる家庭礼拝を持ち、家の礼拝の信徒リーダーを育てていくことである。さらに、神の福音の価値を伝え、知り、感動し、救済史的な世界大のビジョンを抱いて、大宣教命令という神のビジョンに聖霊の力と恵みを受けて前進することである。世界宣教を明確な教会の使命として掲げ、人材、経済を投資する。また、教会成長の明確な目標を立て、ターゲットを明確にした工夫を凝らした伝道に励むことで教会は量的にも霊的にも成長していくのである。

## 聖書が教えるリーダーシップ像

また、神はどのようなリーダーシップをとって教会を牧会するべきかをすでにみことばの中に示し、その秘訣を教えておられる。すなわち、神の清さを求め、経済や権力を主に捧げ、安息を大切にし、家族を大切にし、子どもたちを、キリストの弟子を育てていくことである。また、その生き方はイエス様の「神を愛し、人を愛する」生き方に集約される。

この二つの戒めに律法と預言者の全体がかかっているのです。<sup>89</sup>マタイ 22:40

「神を愛し、人を愛する。」この生き方を体現したイエス様こそ、私たちが見倣うべき模範であり、聖書が教えるリーダーシップ像である。

7000の未伝道部族に宣教師を派遣する3万人のメガチャーチを日本で開拓するためには、「大宣教命令と弟子訓練、使徒2章にある家の教会とみことばを实践する献身」と牧師たちの「神を愛し、人を愛する」聖書的リーダーシップが鍵である。

## 2) 今後の課題

今回、この論文研究に取り組む中で、今後取り組む課題も見えてきた。特に必要なことは、「どのように宣教師を派遣するか」ということである。多くの教会員をどのような動機づけし、どのように訓練すれば良いか、教会成長を宣教にどのようにもっていくのか、という点について詰めていく必要がある。

序章の4節に記した研究方法で、BとCに触れきれなかった。

- B) 未伝地宣教に用いられてきた宣教師にインタビューを行い、未伝部族に効果的に福音を届ける鍵を分析する。
- C) 未伝地宣教に用いられてきた教会の牧師にインタビューを行い、未伝部族に効果的に福音を届ける鍵を分析する。

BとCは時間的に研究が許される場合に取り組む予定でいたが、時間的な余裕がなかった。感謝だったことは、フォーセット先生のインタビューを通して、Cについて聞くことができたことであった。特にそこでは、チームでの派遣と並外れた教会の祈りが鍵であると学んだ。興味ある方は付録を参照。

また、メガチャーチを立てるための計画を立てたが、さらに多くのメガチャーチの成長過程を研究することにより、より優れた計画を立てることができる。

日本についていえば、峰町福音教会(約500人)、アッセンブリーズの天野先生が牧会するリバーサイドチャペル(約4000人)、海外ではアメリカやアフリカ、インドなど世界各国に存在するメガチャーチをさらに研究したいと願う。

また、牧会運営方法についても学びが必要である。どのようにしてリーダーシップチームを形成するのか。教会組織を運営するマネジメント牧師とマネジメントチームも必要となるだろう。また、会計のスペシャリスト集団と透明性をもった神に喜ばれる会計運営を行うチームも必要だ。

教会の牧会チーム、スタッフ、奉仕者が喜びに溢れて奉仕するためにクリアでホワイトな組織運営が欠かせない。特に、大きい教会であればあるほど、スタッフの葛藤や悩み、問題を聞く場面

<sup>89</sup> マタイ 22:40 新改訳 2017

が多い。そのため、クリアでホワイトな教会組織をマネジメントするための学びと研究も必要だ。

大きい教会ほど、疎外感を感じる人がいるという言葉聞くことがある。確かに、メガチャーチの弱点としてその傾向は否めないだろう。しかし、追求したいことは「家族のような」交わりの教会である。メガチャーチでありながらも、自分の「ホーム」、「家族」と感じるような雰囲気の教会を建て上げていきたい。そのために、どのような工夫ができるのか、セル運営や交わりの工夫についてもさらなる祈りと研究を重ね、みことばを基に揺るがない、持続可能なセルの土台を構築していきたいと願う。全ての人がセルに加えられ、セルで神の愛を体験し、互いに仕え愛し合い、キリストの体を建て上げていきたい。

最後に、共に働く牧会チームを祈り求めていく必要がある。この論文を読んで、共にこのビジョンを実現するために、開拓に加わりたいと願い祈り求める者が起こされるならば、ぜひ、会って話し、主の御心を求めていきたいと願う。この論文で主に触れられ、語られている人がいたなら、以下の私のアドレスに連絡くだされば幸いです。u16106@st.tci.ac.jp

今後、ますます主からの召しと志に従って、主に祈り求め、出会い、学び、実践していきたい。全ての民族に福音が伝えられ、主のこられる道を備えるために、この生涯のすべてを捧げ、主に豊かに用いていただきたい。

読んでくださり誠にありがとうございました。

この論文を読んでくださった全ての方に主の格別な祝福と恵みがありますようにお祈りします。すべての栄光が、素晴らしい救い主イエス様にありますように。ハレルヤ！

あとがき

この論文を書き終えるにあたって私の心に一つの疑問が生まれている。

このあとがきを書くか悩んだが、正直に書き記したいと思う。

スキャンダルの事例を多く調べる中で、メガチャーチを建て上げることは多くの誘惑に直面し、大きなリスクを伴うことを感じてきた。そして論文を書き始めた頃に比べて、メガチャーチを建てたいという意欲が減少したように思う。この世的に見た成功の虚しさを知り、神の前から見た神に評価される生き方に対する飢え渴きが芽生えている。正直なところ、今の私はメガチャーチを建てなくてもいいとまで思うようになっている。

ただ、何よりも神を愛し人を愛し、神の御心を行う生涯を歩めたら幸せだと考えている。

主の御心でないなら、メガチャーチを建てなくても良い。もし主がメガチャーチを建てるように私を召しておられるのなら、私のうちに志を再び与えて導かれると信じている。

ただ、今の私が心から願うのは、主が来られる道を備える人生を歩むことであり、主が私に召された道を最後まで勇敢にイエスの跡に従って歩むことである。

「御国のこの福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての民族に証しされ、それから終わりが来ます。」マタイ 24:14

「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意せよ。荒地で私たちの神のために、大路をまっすぐにせよ。』」イザヤ 40:3

すべての民族に福音は宣べ伝えられて、主イエス様がこの地に来られる。

主の再臨を待ち焦がれ、委ねられたタラントを最大限に用いて、

主のご計画が進められるために私の生涯の全てを主に捧げ、用いていただきたい。

どうか、私のためにお祈りいただければ幸いです。

## 参考文献

新改訳聖書2017

口語訳聖書1995

ハドソン・テイラー 『ハドソンテイラー、信仰の生涯を語る』 (いのちのことば社、1991年)

リック・ウォレン 『5つの目的が教会を動かす』 (いのちのことば社、2012年)

ハ・ヨンジョ 『使徒の働きの教会をめざして』 (福澤牧人監修、Duranno書院、2007年)

ジョン・ピルド 『教会は祈りで建てられる』 (Duranno、2008年)

チャー・ヨンギ 『山を動かす信仰、火のくだる祈り』 (純福音出版、2002年)

ゲリー・L. マッキントッシュ 『サイズ別に分析する教会形成の方策』 (いのちのことば社、2015)

リアルタイム世界人口 (国連)

[https://sekai-hub.com/statistics/real-time-population#google\\_vignette](https://sekai-hub.com/statistics/real-time-population#google_vignette) (最終閲覧日2025年12月13日)

Frontier partners LICA.news 「Global Christianity Surges Beyond Projections in 2024」

<https://www.frontierpartners.org/global-christianity-surges> (最終閲覧日2025年12月13日)

[未伝道部族とは何か – WUPM Japan](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

[Definitions | Joshua Project](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

[People Groups of the World | Joshua Project](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

[マニラ宣言 - Lausanne Movement](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

[カバレッジ・プロジェクト Coverage Project – 日本の未伝地へ福音を！](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

[未伝道部族とは何か – WUPM Japan](#) (最終閲覧日2025年7月8日)

ワールドメーター

[https://www.worldometers.info/ja/世界人口/日本-人口/#google\\_vignette](https://www.worldometers.info/ja/世界人口/日本-人口/#google_vignette) (最終閲覧日2025年12月20日)

Religion news Service

<https://religionnews.com/2022/03/23/senior-pastor-brian-houston-resigns-from-hillsong-after-revelations-of-indiscretions-with-women/> (最終閲覧日2025年12月24日)

CBN (The Christian Broadcasting Network)

<https://cbn.com/news/us/ihopkc-announces-permanent-split-founder-mike-bickle-after-sexual-misconduct-scandal> (最終閲覧日2025年12月24日)

<https://cbn.com/news/us/independent-group-finds-sexual-misconduct-claims-against-bill-hybels-credible> 2026.1.7 (最終閲覧日2026年1月7日)

Time誌 <https://time.com/5236233/bill-hybels-megachurch-sexual-misconduct-resign/>  
(最終閲覧日2025年12月24日)

The Gospel Herald

[https://www.gospelherald.com/news/david-yonggi-cho-reflects-on-guilty-verdict-hardest-day-of-50-years-of-ministry?utm\\_source=chatgpt.com](https://www.gospelherald.com/news/david-yonggi-cho-reflects-on-guilty-verdict-hardest-day-of-50-years-of-ministry?utm_source=chatgpt.com) (最終閲覧日2025年12月24日)

稲森和夫 ウィキペディア

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%A8%B2%E7%9B%9B%E5%92%8C%E5%A4%AB>  
(最終閲覧日 2026 年 1 月 30 日)

KDDI ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/KDDI> (最終閲覧日 2026 年 1 月 30 日)

## 謝辞

この論文を導き、書き上げさせてくださったイエス様に心からの感謝と賛美を捧げます。

また、野心的な論文タイトルにも関わらず、愛と期待を持って向き合い、助言し、導いてくださった小山大三先生に心から感謝いたします。この論文を書き進める際、このビジョンは神の夢なのか、自分の夢なのか悩み、どのように見極めたらいいか相談した時、「恐れなくて進んでいけばいい。間違っていたら主が直して下さる。恐れていたなら何もできないから。失敗の中で開かれていく」と励ましてくださいました。この論文タイトルは大きなビジョンなので、人からどう思われるだろうかと思う時もありました。しかし、先生の助言と祈りの中で、たとえ人から批判されても、主から受けた志に従って恐れずに歩いていこう、と思わされました。「大きなビジョンを持つことは大事。そこから始まっていく。」との大三先生の言葉に、励まされ、書き上げることができました。この大きなビジョンを、どのようにして具体的に形にしていけばいいのか、どのように研究を進めるべきなのか、きめ細かく、丁寧に指導して下さり心から感謝いたします。

また、この論文のために快くインタビューを引き受け、ご多忙の中、貴重な時間と経験と知識を分かち合ってくださいました、池田恵賜先生（本郷台キリスト教会）、梅谷悟先生（加古川バプテスト教会）、フォーセット先生（Be One 大阪）、後藤利昭先生（京都シオンの丘キリスト教会）、高見澤栄子先生（オンヌリ教会）、スンボク先生（ヨイド純福音教会）、三中先生（サラン教会）に、心から感謝申し上げます。

論文を読んでくださる皆様、この論文執筆に取り組む環境を与えてくださった関西聖書学院の先生、理事教師、スタッフの皆様心から感謝いたします。

全ての感謝と栄光を王の王なる救い主イエス様にお捧げします。

## 付録

先生方に行ったインタビューをインタビューした順番で添付する。  
京都シオンの丘キリスト教会はインタビューの用紙を使用していないため、割愛している。  
筆者がインタビューを受けて書いたメモもあえて添付し、どのように論文に活かされているかわかるようになっている。気になる方がいれば、ご了承いただきたい。  
なお、以下のインタビューは先生方に論文掲載の承諾を得ているが、インタビューの第三者への共有はお控え願いたい。

### インタビュー①

池田恵賜先生  
本郷台キリスト教会

2025/7/31 (木)13:00-15:00

#### 1. 教会が成長した要因

50人の壁：リーダーが捨て石となり泥を被る

初めは父親と、他の先生がいた。ビジョンをまず掲げた。

それが、1,地域に仕える。2,世界に宣教師を送り出す、の2つ。

地域に仕えるという中で、廃品回収の仕事をした。塵紙回収しながらトラクトを配布。

18年廃品回収で働く。

教会員の反発もあり、人数は半分に。もうやめますとやった。すると老婦人が励ましてくれて、継続することになった。

自分が捨て石となり、地域に仕える中で50人の壁を突破し、80人に。

100人の壁：祈りでリーダーが受け入れる

100人の壁は、役員との対立だった。役員会が勝手に開かれており、牧師が呼び出されダメ出しされた。メッセージスタイルや、さまざまなことに対する批判を受けた。聖霊が、言われたことを聞きなさいと言われ、聞いた。

聞いて祈った。韓国の祈祷院にもいった。断食したり、講壇の所で1週間祈り続けた。すると、役員の方から悔い改めます、と話しに来た。

200人の壁：ビジョンの力、複数牧会、セルグループの導入

恵賜先生がアメリカに6年いった。行く前は120人、帰ってきたら250人になっていた。活発だった。

その時期に、アジアアクセスが主催する教会成長セミナーに行っていた。

複数牧会とセルグループを取り入れ、5ヵ年計画を立てた。それによって、200人の壁は突破された。

ビジョンの力と複数牧会、セルグループが200人の壁を越える鍵となった。

300人の壁：地域に仕える

地域に根ざしていく中で、人々が救われていった。

#### 2. 教会のビジョンと価値観

壁のない教会

未信者を特別視せずに巻き込んでいくのが大切。

未信者でクリスチャンよりも素晴らしい働きをしているような団体はたくさんある。

譲れるところは譲り、未信者に対して、わからないので教えてくださいという姿勢が大切。

神の愛を受けて仕える現場。伝道する必要はない。

☞これはすごい！！伝道する必要はない、と割り切ることで、ノンクリスチャンの懐に入り込める。

尋ねてきたら、言えばいい。いきなり「神が愛しています！」と伝道するなら、心を閉ざしてしまう。

本郷台の働きとなっているNPO、サッカースクール、チャーチスクール、デイサービス、保育園は、クリスチャンのスタッフが90%だが、勧誘は一切しない。そして宗教法人ではない。そのように伝えているからこそまた、神の愛の生き方を見ると、相手は（その生き方に）惹かれていく。「伝道の目的じゃないですよ、勧誘はしないですよ」と伝えている。

2002年から毎年新しい働きが始まって言った。それぞれの働きにリーダーがいる。

### 3.セルグループ

セルの理想の人数は5-10人。夫人だとよく喋るので10人は多い。5,6人がベスト。男性は6-8人が良い。セルで毎週集まっている。メッセージのシェアと祈り合いが中心。セルでは、一步一步というテキストを使ったり、日々のデボーションを分かち合い浸透させる。

ファミリー牧会がある。月一で第一土曜の午前中。

### 4.弟子訓練

できる範囲で強制はしない。  
委ねて、否定せず、やりたいことをさせる。

礼拝では異言は暗黙の了解でしないが、聖霊を求めましようと言っている。礼拝でも。

リーダーとして自分も間違ってるかとも思えることが大切。  
そういう見方もできるんだ〜と。絶対間違ってたなら指摘するが、面白いそれは！といえるのも大切。

教会内で神学校がある。  
ミッション3000ディサイプルセンター。現在、11期で60人を排出。MDC。  
ここの卒業生が、教会の核となっている。神学に集中していない。ざっくりと聖書は学ぶが、牧師との関わり、牧師たちとの交わりから受け取ってもらう。奉仕の姿勢など。  
1年半〜2年で卒業。知識ではなく仕えることにフォーカス。  
カリキュラムは厳しい時は、1年間で、  
火曜〜金曜の午前は勉強、午後は生活のための働き、土日は奉仕

### 6.財政管理

教会の十一は外部の働きに捧げる。  
人件費が大体6-7割。活動費が少ないのではないかという人もいたが、人件費を払ってる彼らが働いてくれていて、それが伝道になっている。結果的にそれは、活動につながっていると説明した。活動費と人件費は、あまり分けていない認識でいる。

管理は3人。

牧師には公務員並みの給料。スタッフは最低賃金以上。

スタッフに聞くと、休みは土日。日曜の午後とか。  
残業はほぼない。人によって違うとのこと。

### 7.会堂

13年目に会堂建築。1977年40名で。  
100名の会堂。

## 8.家庭とのバランス

妻と二人。妻は社会福祉士。スタッフには無理しないように伝えている。疲れたら休ませる。マリッジコースに取り組んでいる。家庭が基本。池田恵賜先生は年に数日が休み。

## 9.牧会体制

主任牧師1人、牧師1人、アドバイザー牧師3人、伝道師2人、フルタイムスタッフ7人、パート、合計17,18名+牧師

不動産関係、お金は→しもべ会。

礼拝、祈祷会は→リーダー会（16名、直接声をかけた人）

火曜午後、コミットして火曜午後に出て欲しい、と依頼する。

定年後の方や、教会で働いている人が多い。

1週間祈って決めて欲しいと話す。夫人は霊的に開かれている。

役員はしもべ会と呼ばれている。8-10人。

任期は2年。最大4年。しもべ会の中で次の役員を決めて、全員で承認する形。会衆制。

総会は議論するのではなく、神の御心を聞くところ。

公聴会というのが、総会の前にある。神の御心を聞くところ。賛美と祈りを持って始める。

木曜までに総会資料を読んで質問を事前に出してくださいと連絡している。

公聴会で、確認してもらい、何か意義がある方はいませんねと、進めていく。

祈祷部長がいる。

礼拝、宣教、祈祷、総務、財務のチームがある。リーダーは1人、月一or毎週MTをしている。

## 10.批判に対して

批判は必ずある。多少に批判は許容範囲。

高慢にならないために神様がおいてくれている。その方の意見に賛同できなくても、

立ち止まれて感謝、と言える。

なぜ聞かされているのか、とか。愚痴を言える仲間がいる、ということをポジティブに言う。

できない分も受け入れる、申し訳ないと言える、弱さを認める強さを持つ。

## インタビュー②

高見澤栄子先生  
韓国オンヌリキリスト教会

2025/8/22

### 1. 教会が成長した要因

- ・ オンヌリのピークは7-8万人の信徒がいた。
- ・ 韓国のプロテスタント教会が成長した大きな要因は、「みことばを学ぶ」ことにあった。  
みことばを学ぶグループがたくさん起こっていった。
- ・ 家族と親族への伝道を徹底した
- ・ 政治的要因も絡んでいる。  
3/6に独立し、独立運動を担ったのがクリスチャンだった。  
クリスチャンは愛国心をもっていた。愛国心とクリスチャンが絡んでいた。
- ・ 文化面において、上下関係がはっきりしている。  
長老は1年訓練を受けなければなれない。長老の席が礼拝堂にある。  
長老になると盛大に祝う。強い責任感がある。  
女性はかんしがいる。女性執事も。女性を教会の中に取り入れ奉仕の機会、活躍の場を与えた。  
→確かに、本郷台も女性への活躍の場を備えていた。  
霊的な賜物が女性にあると話していた。時間的にも余裕もある、と。  
女性に委ねていくことは、教会成長の鍵かもしれない。
- ・ メビウス方式。宣教師メビウスがいた。  
宣教師たちに頼らないで行こうという意味。自分たちで伝道していく。社会と文化で。

★成長要因は、「みことばの土台」そして、家族親族への伝道。  
文化的、政治的側面が絡み合って宣教は前進した。  
宣教師に頼らず、社会と文化の中で神を証する。

- ・ ターゲットをはっきりさせている。  
オンヌリ教会では、伝道を洋服の仕立てのように捉えていた。工夫し、特別に用意する。  
イジェフン先生は、教会での伝道集会で、明確にターゲットを絞っていた。  
30代の女性には、「プロポーズ」という名前の集会。  
30代の男性には、「チャンピオン」という伝道集会をし、  
ボクサーグローブを最後にプレゼントしていた。  
60,70代の家においてもう人生終わるのかなと思っている人が多い男性には、「アンコール」という集会。  
60,70代の女性は近所と比べている人が多い。そのような人々に向けて「ひまわり」という集会。  
太陽だけ見ていこう、と。

### 2. 教会のビジョンと価値観

- ・ 大きい教会は、「救いを、神の救済史としてしっかり見ている」  
人間の問題の解決だけではなく、この地上がどれだけ壊れているのか、  
神の救済の部分がしっかりしたら、他の問題も解けてくる。  
人類の罪という根本的な問題から取り扱っていく。神の救済史にピッタリ焦点があっている。
- ・ この視点で世界を見ると、世界もビジョンも変わる。
- ・ 神の愛の実践ができています。神を愛しなさい、隣人を愛しなさい。ということ。

★大きい教会に共通するのは、人間の孤独、不安、恐れ、経済、病、などの悩みの解決だけを  
教会がするのではなく、まず、その人の根本的な罪をキリストが贖ってくれたことを知る。

そして、この地上に対して神がどのように思っているのか、というワールドビューな視点を信徒に教えている。救われた私たちは、この壊れた世界の中でどのように歩いていくか、という使命を明確に伝えている。  
この世界で世の光、地の塩として生きていくこと。  
そして、十字架の福音が福音がここまで広がり、これから世の終わりに向かって、未伝の部族に福音が伝えられていく必要があること、その壮大な神のストーリーを語り、その神のストーリーの中に生きていく。神の御心の計画に参加していく。  
そのために、神を愛し、隣人を愛していくこと。それを実践するために焦点を当てていくこと。  
そのようにして、教会のビジョンは明確にされていく。

### 3.セルグループ

- ・日曜日以外に集まる。  
20-30人は多すぎる。もし20人集まることのあるなら、3人のグループに分けて分かち合いをさせる。  
3人グループでは、プライバシーを守ること、励まし合うことを伝える。
- ・セルの強みは、ありのままをシェアできることにある。
- ・セルは3-4人がおすすめ。or 7-8人が家に来て、途中から2つに分かれる。
- ・3人だったら、本当の話をする。

### 4.弟子訓練

- ・弟子訓練では、みことばの深みを一緒に味わう。
- ・サーバントリーダーシップで仕えていく。みことばの素晴らしさを分かち合っていく。
- ・今週どうだった〜?と聞く。今週嬉しかったことはなに〜?今、ぶつかっている問題はなに〜?とか聞いていく。  
価値観を互いに高め合う弟子訓練。そこの主の臨在がある。
- ・オンヌリ教会もサラン教会も1対1で弟子訓練をしている。
- ・サラン教会で学んだ植野伸一先生は、キリストの栄光教会を牧会している。  
1人につき半年~1年弟子訓練するそうだ。メンバーの7-8割が弟子訓練終わった。  
礼拝、祈り、聖書に向き合う期待感が違った。
- ・長いメッセージを聞いた後でも、「スモールグループの分かち合いをします!」と言ったら、みんなイキイキしていた。
- ・House of Prayerという霊の祈りの祈祷会を金曜日に行っていた。
- ・テキストに依存しない。

### 6.財政管理

- ・神に喜ばれるミニストリーにするために、**経済を透明にする。**
- ・モンゴルキッズの家をしているが、シャンプーとはぶらし買ったことまで報告が来る。  
50というところが5と書いてある時がある。それを日本の会計がチェックする。
- ・Webサイトにも載せている。もしミスがあれば、前年、ミスがあったことをお詫びします、と載せる。
- ・2万からスタートしたが、今は月106万の必要がある。
- ・会計担当が日本に4人もいる。お互いに見て、監視している。韓国とモンゴルの会計がいる。
- ・ボランティアでやっている。神が集めてくださる。

### 7.会堂

### 8.家庭とのバランス

### 9.教会体制

- ・長老と執事になるためには長老訓練、執事訓練がいる。結婚式のよう。  
それがいいか悪いかは△。栄子先生は、いいとは思っていない。

- ・日本でも、役員が任命されたときは、教会員がこの人のために祈り支えますという場面があればいいのでは。
- ・日本にあった役員の形がある。意識をもてればいい。役員をサポートする意識。

#### 10.批判に対して

- ・牧師批判は牧師と距離できてから起こる。  
一緒にご飯食べたり、心を注ぎ出すような人格的な交わりがあるか。  
ご飯を一緒に食べるのが特に大切。
- ・ミニストリーで食事するのが大切。イエス様も魚を焼いて弟子たちを待っていた。  
一緒に弟子たちと寝泊まりして寝食を共にした。
- ・ある大阪の宣教セミナーに参加した。  
1つの教会なのに50人来ていた。しかも19:30-22:00という時間なのに。幼児の夫婦もいたし、70,80代の夫婦もいた。  
この教会の魅力はなんですか？と聞くと、聞いた7,8人全員、メッセージでも、賛美でもなく、「ご飯美味しいです」と話していた。  
デザートは手作りのテラミス。豪華な食事を通して、講師に期待しているなど、**教会からの愛を感じた。**
- ・中野雄一郎先生の奥さんの葬儀に参列した。1000人くらい来ていた。  
「めいこ先生のご飯は忘れません」と次々に言っていた。美味しいものを食べて、家に招くことが大切なのだという  
神様からのレッスンだった。
- ・批判が出そうな人は、どうか食べにいきましょうよ！というのが良い。

#### 11.異性との距離感に関して

- ・注意するに越したことはない。
- ・サタン礼拝の人々はある時期、牧師たちが性的に失敗するようにと祈っていた。
- ・お金も気をつける。
- ・2人にならない。
- ・訪問する教会で男の先生が迎えに来たら、後ろの座席に座る。座席を離す。  
その先生に奥さんがいることを意識した。いつもその方に奥さんがいるように接する。
- ・メディアを清く保つことが大切。
- ・インターネットを清める。目は、心の窓。  
インターネットをどれだけ清くするか。  
7-8歳の子が見るAIサイトのキャラクターは洋服とかダメダメだった。  
イーロンマスクが作ったサイト。  
ネットはサタンの道具か、神の道具かのどちらか。

#### 12.増殖、枝教会について

- ・独立できるような弟子ができれば素晴らしい。どんどん独立させてほしい。
- ・教会開拓する時に、次の教会を建てる教会を建てる。  
パウロは4世代を意識していた。パウロ、テモテ、次の力のある人

##### 成長している教会の特徴

- ・神様に焦点があっている。神様に焦点があると、パッションがある。  
パッションがあると献身度が上がる。これが、成長している教会。
- ・イランは20-30年前はクリスチャンが500人以下。しかし今では100万人。  
毎週改宗者が起きないと、うちの教会、なんかおかしい、という。それがイラン。
- ・インドネシア、イスラム教徒が一番多い国しかし、クリスチャンは10%!  
どうしてリバイバルが起きるか。それは、この福音は犠牲を払う価値があると、福音の価値を苦しみの中で表している。

**★神に焦点を当てていくことが大事。それによって、パッションと、献身が溢れていく。**  
福音の価値を知るなら、リバイバルが起こっていく。  
福音の価値を伝えていく。神の御心に生き、伝えていく。

#### 14.開拓していく上でのアドバイス

- ・ どういう教会にしたいのか？というビジョンを明らかにする。これをはっきりさせることが大事。
- ・ ミッションステイトメント＝この教会は何を目指すのか。私たちは誰なのか。  
教会全体がリサイトできるもの。

私たちは、日本に福音を絶対語られるクリスチャンになる教会です。

- ・ ビジョンステイトメント＝それを実現するためのここまで狙いたい。  
街の中に福音を聞くというのがビジョンの1。  
街の人からどんどん教会に人が来るとというのがビジョンの2。  
こういう私たちだから何をしたい、というのがビジョンステイトメント。

これをはっきりさせることが大事。

こういうものとしてこの教会に所属し、今この教会は何をしようとしているのか意識できる。

この街をクリスチャンを多い街にしたいと思ったら、街を歩く時その人たちの救いを祈ったりする。

- ・ コアバリュー＝これもはっきりさせる。私たちは男性、女性についてどのように考えるのか。  
リーダーシップについてどのように考えるのか。  
天国人/外国人はどのようにとらえるのか。経済をどう扱うのか。  
これを実現するために、私たちが大切だと思うことはこういうことです、と。  
いくつあってもいい。これを考えるのが大切。

#### 16.メガチャーチ

- ・ 初代教会がメガチャーチだった。毎日3000人救われる人を起こされた。その後神様は、散らした。散らして、ヒソヒソ話で、実はイエス様はこうだったんだと伝道して散っていった。その後にリバイバルの火種の元となった。  
メガチャーチの役割を意識して。日本に1個くらいあってもいいが、  
メガチャーチの役割を意識すること。  
大事なのはセルチャーチ、セルグループ。こういうところがしっかりしなければ、  
本当に表面的になってしまう。  
日本に1個ぐらいいはあってもいいと思う。散らされてそっちが大きくなったらそれが  
ビブリカルなことじゃないかなと思う。

★聖書的な教会は、散らされること。

メガチャーチを作る上で何よりも大切なことは、セルを意識すること。

オンヌリ教会成長の秘訣/日本への適用

- ①みことばを学ぶ：バイブルスタディ
- ②家族と親族への伝道を徹底/伝道の学びと訓練
- ③宣教師に頼らず社会と文化の中で神を証/証の学びと訓練
- ④救いを神の救済史としてみる（ワールドビュー）/
- ⑤セルチャーチ、セルグループ/ここが鍵
- ⑥1対1の弟子訓練/ここが鍵
- ⑦食事で心を注ぎ出す人格的交わり/ここが鍵
- ⑧神に焦点/ここも鍵
- ⑨明確なターゲット伝道/ここも鍵

## インタビュー③

スンボク先生  
韓国純福音教会

2025/8/16

14番と16番の項目を除いては、私の個人的な考えではなく、ヨイド純福音教会の公式的な意見を探して作成し、できる内容だけ返答しました。純福音神学の内容ももうすでによくご存知かと思うのでその内容も省かせて頂きました。

### 【教会について】

1. 教会が成長した要因はなんだと考えられますか？
  - ・ チョー・ヨンギ牧師先生の聖霊運動を通して人々が聖霊充滿を経験し、たくさんの人たちが神様の強い導きで癒しの奇跡、回復の恵み、平安の幸せを受けると、たくさんの人たちがヨイド純福音教会に集まり始めました。

### ★聖霊運動の働き。超自然的な主のみわざが純福音の成長の要因。

これは初代教会の使徒2章と共通している。

開拓初期の開拓チームの人数を教えてください。

- ・ ヨイド純福音教会は、1958年5月18日、チョー・ヨンギ伝道師とチェ・シヤシル伝道師が西大門区(現、恩平区)デジョ洞にあった、チェ・シヤシル伝道師の自宅で創立礼拝を捧げることで始まりました。創立礼拝に参加した人々は、チョー・ヨンギ伝道師、チェ・シヤシル伝道師、彼女の三人の子供と、畑仕事をしている途中で雨宿りするために来た通りすがりのおばあちゃんが全て。

★2人の伝道師と3人の子供と通りすがりのおばあちゃん初めての礼拝。6人。自宅で。

50人の壁:

チョー・ヨンギ伝道師とチェ・シヤシル伝道師の血と汗の祈りと献身の実りによって聖徒たちがだんだん増えていき、50人余りになると、チェ・シヤシル伝道師の家のリビングでは狭くなり、礼拝を捧げるのが難しくなっていた。1959年の春、チョー・ヨンギ伝道師とチェ・シヤシル伝道師は家の前の庭にテントをはって、かますを床にひいて礼拝を捧げました。

★祈りと献身が50人を突破させた。家ではなくテントで礼拝。

祈りが突破させることを本郷台も経験していた。50-80人規模の時期に。牧会者の祈りは大きい。

2. 教会のビジョンを教えてください。またありますか？

- ・ ビジョンや価値観を会集に浸透させる際に意識していることはありますか?教会理念、大切にしている価値観は

純福音の七大信仰

- 1.カルバリ十字架の信仰
- 2.ペンテコステ聖霊充滿の信仰
- 3.地の果てにまで宣べ伝える信仰
- 4.すばらしい神様の信仰
- 5.病を癒されるイエス様の信仰
- 6.再び来られるイエス様の信仰
- 7.分かち合いの信仰

**★明確な十字架の救い。聖霊の満ちし。主の再臨を待ち望み宣教する心。**  
**神様が良いお方であることへの信仰。病の癒し、与える信仰。**  
**明確な救いから、栄子先生が言う通り、神の救済史が盛り込まれ、**  
**包括的に主の御心を教えているのが特徴。**

#### **-小さなイエスの霊性**

小さなイエスの霊性が目指すのは、救われた聖徒がキリストの贖いの恵みに感謝してイエス様のへりくだり、奉仕、犠牲に倣い、イエス様のように生きるため努めることです。

**★聖化について教えている。聖徒の成長のために重要な視点。**

#### **\*五重の福音**

##### **-新生(救い)の福音**

五重の福音の基礎である新生(救い)の福音は、イエス・キリストが十字架で私たちを救われたことを信じ、イエス様を救い主として受け入れれば、罪が赦され、神様の子どもに生まれ変わるという喜びの知らせです。

##### **-聖霊充滿の福音**

聖霊充滿の福音は、すでに新生した聖徒が聖霊を豊かに受けることで異言を語り、聖霊の賜物を受けて力ある福音の証人となり、生活の現場において聖霊の実を豊かに結ばせる福音です。

##### **-癒しの福音**

癒しの福音は、病を癒される主なる神様だけでなく、イエス様が十字架で苦難を受けられたことで私たちが罪の赦しを得、体と心とたましいのすべての病まで全人的に癒されたことを宣べ伝える福音です。

##### **-祝福の福音**

祝福の福音は、イエス様の十字架の贖いにより呪いが断ち切れ、アブラハムの祝福が私たちに臨んだことを宣べ伝える福音です。  
神様は私たちが神様にもっと献身し、隣人に奉仕できるよう人生のすべての領域で祝福を与えられます。

##### **-天国と再臨の福音**

天国と再臨の福音は、肉の死以降、聖徒のために天国が備えられていること、イエス様が約束通りに再臨されること、そして、聖徒が主と共に新しい天と新しい地で永遠の安息と祝福をいただけることを約束する福音です。

#### **\*三重祝福 -たましいに幸いを得る祝福**

イエス・キリストを救い主と信じ、救われ神様の御心通りに生きる時、霊的に豊かな人生を生きる祝福です。

-すべての点でも幸いを得る祝福 キリストの内ですべてが働いて益となり生きる祝福です。

-健康になる祝福 救われた聖徒が体と心とたましいの病の苦しみから解放される祝福です。

**★救い、聖霊、癒し、祝福、天国と再臨、と聖書的な真理を伝えている。**

2. セルグループ° (小グループ°) はどのようにして行なっているか教えてください。

**出エジプト記(18:18)と使徒の働き(2:46-47)の内容を根拠に初代教会の時代、**

**聖徒たちが家庭で礼拝を捧げたことを牧会に適用し、**

**女性の執事を中心にソウルを20個の教区に分ける区域組織を誕生させた。**

**教会は各区域長に聖徒たちを養育し、ともに祈ることを教え、隣人に福音を伝えることを任せた。**

**区域礼拝は黙禱と使徒信条、賛美をし、一緒に祈った後に御言葉を分かち合う時間として構成された。**

**また区域員たちが15人くらいになると、新しい区域に分離。**

その結果67年には数百個の区域に拡大され、  
68年には区域組織によって力強められ、聖徒数も8000名を過ぎました。

区域組織の活動で79年11月聖徒数は10万人を突破した。  
二年後である81年には聖徒数が20万人になりリバイバルした。  
このように教会の成長が全世界に知られるようになり、  
区域という言葉はセルという言葉に翻訳され通用されるようになった。  
区域組織はヨイド純福音教会が短時間で世界最大の教会に成長する一番大きな原動力となった。

★女性の執事を用いている。栄子先生の言われていた通り。  
区域組織。セルリーダーが区域長ともいえる。教会はセルリーダーを育てた。  
セルでは養育と祈り、福音を伝えさせた。  
セルでの内容は、区域礼拝と呼ばれている。黙想、使徒信条、賛美、祈り、みことばの時間で構成。  
15人になると新しいセルに分離。セルによって8000人まで拡張。  
セル組織を育てること。セルリーダーを育てることこそ、  
世界最大の教会に成長する原動力であった。

4. どのようにキリストの弟子を育てているか教えてください。  
1977年9月純福音中央教会はアメリカLAで純福音神学校を建てた。  
77年7月には西ドイツベルリンに、78年2月にはニューヨーク市、  
78年4月には日本の神戸に、80年4月にはシカゴへ、  
様々な地域に純福音神学校を建て、教役者の霊性に力を注ぎました。  
また1980年8月にはアメリカ、カルフォルニア神学大学院韓国分校を設立。

★教職者を育てるため、神学校を建てていった。

5. 次世代への信仰継承にどのように取り組んでいるか教えてください。  
・教会学校のビジョンはありますか？  
純福音の教育は神様の形を失った人間たちにイエス様の十字架を通してご自身の姿を見て、  
創造主であり、摂理者であり、  
贖い主であられる神様を人格的に出会い、受け入れることによって、  
十字架の上で成し遂げられたイエスキリストの完全な救いに到達するようにし、  
キリストの体である教会の中で聖霊の助けと御言葉の教訓で、聖く成長するだけでなく、  
永遠なる神様の国を慕い求めながら救いの喜び」の知らせを世の終わりまで伝えることに、  
その目的を置いています。

★栄子先生が語っていた通り、神の救済史的な視点が明確になっている。  
十字架による罪からの赦し、聖霊とみことばによる成長、世の終わりまで伝えること、  
そこに目的がある。

12. 教会を増殖させ、枝教会を作ることにどのように考えておられるか教えてください。  
ヨイド純福音教会はソウルとその近郊20か所の支聖殿を建築し、ともに礼拝を捧げたり、  
各自成長した支聖殿たちは、  
全部分離して独立し、今は11か所の支聖殿だけ残っています。  
しかし聖徒たちがさまざまな理由でヨイド純福音教会に直接来ることができない場合のために、  
もっと小さい単位で地域を分割し、各地域に100名くらいが入れる祈禱院を作って、  
主日礼拝をはじめ各礼拝、またはその地域の聖徒たちの区域礼拝や集まりに用いられています。

## 【世界宣教について】

13. 宣教師を派遣するための取り組みがあれば教えてください。

1964年チョー・ヨンギ牧師先生が初めてアメリカで福音を伝えたことをきっかけに海外宣教が始まりました。

1975年4月には純福音世界宣教会が設立され、海外宣教が本格的になり、

1976年には純福音北米連合会と純福音救い主連合会が結成され、北米、南米地域とヨーロッパ地域の宣教が始まり、1978年には日本宣教会が発足された。

ヨイド純福音教会は全世界63カ国に657名の宣教師を派遣し、1,218個の教会を建てた。

### ★600名以上の宣教師を派遣。

14. これから教会を開拓していく上でのアドバイスがあれば教えてください。

純福音では絶対的な肯定の信仰を強調しています。私たちの神様は良い神様なので、私たちが全てのことを肯定的に考えて進むとき、神様が私たちを用いて下さるからです。

### ★主が良いお方で、すべてを益としてくださるといふ肯定の考え方をもち進む大切さ。

この論文も、卒業後の歩みもすべては益となる。

★絶対肯定の奇跡という本を読む。

16. メガチャーチ牧会経験を通して特に学んだことがあれば教えてください。

また、日本でメガチャーチを形成する際に大切だと思われることを教えてください。

メガチャーチだからこその働きがあります。例えば海外の貧困な国に病院と学校、寮を建て、自分たちで運営していけるように教育をします。国家的なキャンペーンを行ったりもします。

しかしメガチャーチだからこそ人々からの視線をもっとたくさん浴びせられます。

それでもっと気を付けて説教し、もっと気を使って行動します。

それで純福音ではいつも謙遜について話します。

私がするのではなく、私たちがするのではなく、

神様がただ私たちを道具として用いて下さることに感謝することを学ばせます。

日本では自分自身がクリスチャンであることを明らかにすることがとても重要だと思います。

神様を恥ずかしがったり、隠すものには神様もその人を知らないと言うと聖書に記録されています。

ですから自分自身が誇らしいクリスチャンであることを明らかにするということがまず行われるべきだと思います。

★栄子先生が言うように、メガチャーチだからできる働きがある。

神の道具として用いてくださること、謙遜さについての教え。

クリスチャンであることを誇る。

## 純福音成長の秘訣

① 聖霊運動による聖霊充満と癒し、回復の恵み、平安の幸せに

② 牧会者達の血と汗の祈りと献身

③ 明確な教え

1) 神の救済史が盛り込まれた7大信仰（明確な信仰の指針）

十字架、聖霊、宣教、神の良さ、癒し主、再臨、与える信仰

2) 小さなイエスの霊性（救われた者が恵みに感謝し謙り、奉仕、犠牲に倣い、イエス様のように生きる）

3) 5重の福音（救い、聖霊充満、癒し、祝福、天国と再臨）

4) 3重祝福（御心通りに生きる霊的な豊かさ/全ての点での幸い/体、心、魂の病の苦しみから解放される祝福）

④ 区域組織 （教会は各区域長に聖徒たちを養育し、ともに祈ることを教え、隣人に福音を伝えることを任せた。）

黙禱と使徒信条、賛美をし、一緒に祈った後に御言葉を分かち合う時間として構成。

15人くらいになると、新しい区域に分離。その結果67年には数百個の区域に拡大され、68年には区域組織によって力強められ、聖徒数も8000名を過ぎた。

女性の執事を用いている。栄子先生の言われていた通り。セルリーダーが区域長ともいえる。教会はセルリーダー（区域長）を育てた。

セル組織を育てること。セルリーダーを育てることこそ、世界最大の教会に成長する原動力となった)

⑤神学校を建てて教職者を育てた

⑥明確な教育指針

十字架による罪からの赦し、聖霊とみことばによる成長、救いの喜びの知らせを世の終わりまで伝えることに目的がある。

(栄子先生が語られていた通り、神の救済史的視点が明確になっている。)

⑦絶対的な肯定の信仰を強調。神様は良い神様なので、

私たちが全てのことを肯定的に考えて進むとき、神様が私たちを用いて下さるという信仰。

⑧謙遜についての学び

メガチャーチだからこそ人々からの視線をもっとたくさん浴びせられます。

それでもっと気を付けて説教し、もっと気を使って行動します。それで純福音ではいつも謙遜について話します。

私がするのではなく、私たちがするのではなく、神様がただ私たちを道具として用いて下さることに感謝することを学ばせます。

## インタビュー④

梅谷悟先生  
加古川バプテスト教会

2025/8/31 (木)13:30-16:00

ビジョンは神からくる。神の青写真。  
神が私にさせたいと思っていることを受け取る。ビジョンは受け取る。受け取ったら、信じて進む。  
主が来てくださる。  
ビジョンを次の世代にやる。主が来てくださる。これがビジョン。  
神の計画は、1人ではない。具体的なところを受け取る。  
教会、私の教会を建てますと主は言われる。教会がビジョン。今日神の主のビジョン。  
神が望んでいる教会。教会は主のもの。教会が受け取る。ビジョンは教会が受ける。  
自分がしなくていい。教会がすればいい。次の世代を見ていくこと。

自分の願いをビジョンにしてはいけない。それは罪。  
これは野望なのか。神のビジョンなのか。それを受け取る。  
豊さんのこのビジョンは、主が来られることのためにしていきたいこと。

ビジョンは、主が来られるためにこれをする、ではなく、主が来られること。  
そして一人をするのではない。教会です。豊さんのビジョンは、教会です。  
そして、豊さんの世代で見るのではなく、次の世代にバトンを渡していく、そうしないと敗北感を覚えることになる。

★これを聞いて、本当に良かった。このビジョンは果たして正しいのかどうか悩むこともあった。  
野望なのかもしれないと思った。  
でも消えない思いでもあった。主の来られる道を備えるためにしていきたい。  
そして、主が来られることにつながるビジョンを掲げ、次の世代にそれを継承していく。  
そして、一人でやるのではなく教会でやること。そして、この世代でやるのではなく、  
主が来られるまで繋いでいくこと。  
これが、本当に大切だと思った。ビジョンを再定義して、主に祈り、  
主が私にさせたいと思っていることを  
さらに明確に受け取っていきたいと思った。主よ、そうさせてください。  
受け取り、信じて進むものとしてください。  
イエスの御名で祈りますアーメン

### 1. 教会が成長した要因

壁は教会の組織が変わるとき  
バプテストなので会衆性。しかし、民主主義を聖書は教えている訳ではない。  
その数集まるときに変わる組織体制がある。  
バーンアウトを機に、「お世話教会から脱皮します」と言った。その際1割は去った。

2割は行こう！と積極的。→この2割が真ん中の6割に影響を与える組織にしたらしい。  
6割は上と下を見ている。  
2割は動かない。慎重。→この人たちも大事にする。動ける関係を作る。真ん中の6割の人によって。

### 30人の壁

- ・育てる  
次の世代を祝福させる。大事な集会でも次の人に賛美リードを任せる。  
中高生たちを、次の人を育てる。

牧会者は次の人を育てる。PPも中高生にさせていく。

- ・部活で中学生から教会に来なくなる。頑張っって教会に来て、「なんで先週来なかったん？」と冷たい視線。
- 3回ほどすると、教会に来なくなる。家庭に何を伝えるか。その子達が礼拝できるようにしてチャーチスクールを始めた。
- 子供の責任ではなく大人の責任。祝福するため。
- この子達が「礼拝できるようになるため」

## 70人の壁

- ・**教会の使命の明確化。**教会の使命は、「礼拝、宣教、交わり」誰に行っても同じ。
- ・役員の役割は、最前列でアーメン！という。
- ・基本怒らないが、スタッフに厳しく教えることはひとつある。  
それは、依頼するときは早めにあること。  
その人を成長させることになっているかどうか、ということ。  
直前になって依頼するのはたとえ喜んで引き受けてくれても良くない。
- ・設備スタッフを雇用。40人来た時には80人、100人入れる箱を用意する。
- ・有給スタッフの雇用。役員は委員会制。
- ・決めるのは牧師とスタッフヘシフト。

## 150人の壁

### 2.教会のビジョンと価値観

- ・赤ちゃんから年取ってからまで、みんなで礼拝すること。  
そのために、介護施設を始めた。その人たちの礼拝のため。 20人スタッフ  
そのために、チャーチスクールを始めた。子供たちの礼拝のため。 20人スタッフ  
そのために、保育園を始めた。その子達の礼拝のため。 30人スタッフ  
そのために、訪問看護を始めた。在宅の人の礼拝のため。4人スタッフ  
そのために、スタッフは全員クリスチャンじゃないといけない。

そのために、チャーチスクールでビジョンを語り続けてきた。

有給スタッフは80人。

実は、保育園はこの地域でどの園より給料は高い。そして、みんな引越し以外でやめない。

この園の職員の半分は、チャーチスクール卒業生。

私は保育士としてここで働きたい、看護師としてここで働きたい、  
という人が起こされてなっている。

### 3.セルグループ

- ・セルは体質。それは細胞。  
セルはビジョンの共有をすること。10人。神の基準。  
セルには、リーダーがいて、ヘルパーがいる。  
ヘルパーはセルリーダーを育てる。セルリーダーがいないとセルは増やせない。  
セルリーダーとヘルパーがいる。育てるため。  
教会のビジョンがないと見えない。ビジョンは血液のよう。
- ・やることは、**ビジョンの共有。**

### 4.弟子訓練

- ・子供たちを育てていく。宣教ツアーへ連れていく。イスラエル、様々なツアーに連れて行った。  
そこで宣教の思いが与えられていく。
- ・海外の奉仕に呼ばれても、連れていく。食事を払う。
- ・聖霊の賜物は、主が決める。与えられたのをを用いれるように育てる。

### 5.次世代への信仰継承

- ・**教会学校のビジョンは、「チームジーザス(受けるより与える者となる)」**

- 70名の子どもたち。現在65名ほど。70名来てくださいとみんなで祈るとくる。みんな喜ぶ。
- ・スタッフは20名。成長の本からメッセージをして教えている。
- ・宣教師を目指して育てる。  
宣教師はどこでも活路を見出し、どんな状況でも与える姿が必要なので、  
どんな職場、状況でも地の塩、世の光となることができる。みんな奉仕大好き。チームとなる。
- ・そのために意識していることは、  
CSは子供をお世話する場所ではなく、子どもたち（0歳～）がイエス様の協力者になりチームとな

る

- 大人は上から目線ではなく、一緒に子どもたちと同労者（チームメンバー）として役に立つ
- ・正しい自己評価をする  
被害者意識で生きない。父母に感謝する。  
自分を低く見積もらない。神の子、王子、王女として生きる。非常に良かった。神の子。  
その結果、与えることができる、役に立つ人として生きる。
- ・エンカウンターキャンプ  
傷から解放され、そのまま受け入れられる神の愛を全員が経験する2泊3日

## 6.財政管理

- ・オープン。毎月1回出す。牧師はお金に関与しない。  
予算は必要なので、今年はこれをしますという。予算を取ってくれる。
- ・会堂献金も1回しかしていない。
- ・キャンプも、500万必要で巣折ってくださいと言ったら1000万与えられた。  
子どもたちは喜んだ。大人たちが惜しみなく捧げる教会にいることに。  
200名のキャンプ海外からも来て予算1000万。豪華だった。
- ・貧しいことが尊敬を受けるのではない。  
スタッフはバイトは必要ないほど支払う。  
**主に召された働きをしてください、と。**  
神はアブラハムを祝福した。子供に惨めな経験をさせたいのか。  
**献身者は本気で祝福される**と思っている。
- ・スタッフも神と人に惜しまず使える。スタッフの家族のためにも捧げる。

## 7.会堂

- ・10年目に最初の会堂を立てた。  
前の会堂を撤去した。みんな賛成した。前の教会のものは欲しい人にどうぞと言った。  
会堂は消耗品。中高生が壊せば、直したらいい。汚れたら直したらいい。

## 8.家庭とのバランス

- ・毎週、1回子供を置いて2時間くらいデートをしていた。カフェで。
- ・牧師は神から与えられる。牧師はスタッフに与え、スタッフはセルリーダーに与え、  
セルリーダーはセルメンバーに与え、セルメンバーはノンクリに与える。
- ・開拓は家庭とのバランスはバラバラだった。長男特に。反省している。
- ・燃え尽きで3ヶ月休んだ。これてなかった息子と一緒にいろんな教会を回って。  
子供と弱くなった。子供と仲良くなった。

## 9.教会体制

- ・チーム牧会で10人いる。
- ・役員会は今はない。宗教法人法に基づく名前だけ。
- ・この規模になると役員は400人を見れない。
- ・バトンタッチ  
本人が主に聞くこと。終わると時が来た、と主に言われた。  
主に尋ねて行った時与えられたのが、チーム牧会だった。

- 4人チーム。4人を指名した。そして、4人に代表を祈ってもらった。  
 主が決める。4人とも違うと思うと言った。1ヶ月集まり聞いた神が示され、報告した。  
 今でも僕は、献身者。主が示されることをする。今の牧会チームに従う。
- ・牧会チームがビジョンを受け取り、8人のスタッフが計画を吟味し、合宿する。  
 それからリーダー（セル）50,60人に報告。質問があればなんでもしてもらおう。  
 受け取ったらメンバーに伝わっていく。4月にビジョン月間。お祭りみたい。

#### 10.批判に対して

- ・その口は閉じれない。今はいない。言いたい人は自由にどうぞと。  
 話すのはバカらしくなってくる。批判しても意味なくなる。
- ・他の教会に行きたい人はスムーズに行けるようにする。  
 その教会に電話してお願いしますと連絡までしてあげる。

#### 11.異性との関わり

- ・異性なら、1人他の人にもいてもらう。複数で接する。  
 大事な話は、一緒にセルリーダーにいてもらう。
- ・1対1は異性では話さない。もし話すなら、ドアを開けておく。扉のある部屋で。

#### 12.枝教会

- ・必要に応じてする。38年前から沖永良部でしている。敦賀は独立した。  
 独立できるところは独立する。  
 二本松、滋賀の草津。大住、でも。日本は5年で独立してくださいと言ってやる。

#### 13.宣教師派遣

- ・救いの確信があること。これがないと話にならない。
  - ①ニューライフセミナーを受ける。4回の学び。  
 12回の学びでバプテスマ、社会の理解、偶像、悪霊の問題を取り扱う。
  - ②どのような宣教師か
    - 1：パウロのような現地を回る宣教師
    - 2：現地に住む従来 of 宣教師  
 (中国、マレーシア、ペナン、ウクライナ、イスラエル) この国に遣わしている。  
 ビザを取るのが難しい国。
- ・経済的にバックアップしている。戦争中にもウクライナに何度も行った。
- ・記録に残らないようにする。マレーシア、中国、オデッサ。  
 イスラエルの宣教師は、今戻ってセミナーをしている。
- ・**現地のいい教会を見つけて、その教会を支援する。**  
**その教会が強くなる。主の再臨を考えるならそれがベスト。**
- ・OMの代表もいる。
- ・宣教師が帰ってくる時期と帰ってきてからどうするか。  
 ウイングという建物がある。終えた後も考えるのが派遣教会の役割。
- ・支援し、支え、何かあればすぐ行くのが派遣教会。そのために組織が必要。  
 決めるのは、加古川バプテストの担当者。100%加古川バプテストは宣教師のことを支える。

#### 礼拝

- ・ワーシップリーダーは自分のことは言わない。  
 人間的なことは言わない。準備のないことはない。
- ・メッセージは導入入れずに、聖書は約束の書です、と入っていく
- ・メッセージ後、約束、メッセージ、ゴールがある礼拝。牧師の先週の感想とかいらない。  
 今週~しましようとかもいらない。主が語るから。配慮した言葉とか、気を遣った言葉もいらない。
- ・アナウンスで**臨在の空気**がなくなるから、長々としない。アナウンスは最後にしない。  
 最後は主の前にでて、そのままセルに分かれて祈る。
- ・宣教師を遣わすなら、本当の礼拝をする。主を礼拝する。最終的に人は消える。  
 みことばだけが残る。イエスが中心かどうか。葬りと復活に留まっているか。本来の礼拝。

- ・子どもは別の部屋で礼拝している。今の礼拝は、大人中心。子どもは退屈。それは礼拝ですか？と。主の前で生きるのは楽しんだと。楽しい。子どもは30人。聞いて喜んでる。教会に行くのが喜び。
- ・大人にとって**礼拝は楽しい**。子供にとっても楽しい。子どもは走り回る。椅子はない。静かに！とか言わない。言ったら敗北。ちゃんと聞きなさい！と行ったら負け。

#### メッセージ

- ・みことばを感動持って語っているかどうか。僕が一番、感動してる。今でも10時間以上準備する。
- ・準備する。忠誠は、ここなんだと。
- ・講解説教しかしていない。主題だと、自分の経験から作るから限界がある。
- ・前の週、その前の週のメッセージを確認し、聖書研究をしていく。ギルガル、一節一節調べる。何年かに一度は聖書を変える。1節1節調べ、感動する。ヨシュアは、そのようにした、というところに感動し、共有した。伝わるように。
- ・感動しても、伝わらないんです。どうしたら伝わるように届けられるのですか？と聞いた。すると、こう教えてくれた。

- ①聖書を読む。まず自分が感動する。まず感動すること。みことばに感動する。 【1時間】
- ②感動して、ひたすらメモする。1つの紙に1つの主題だけ。ダイソーの紙に書く。 【2時間】  
50個くらいのメモ。1つのメモに1つの主題。
- ③自分の説教は同じ言葉ばかりになるので、説教集をよく読む。どんな言葉を使っているのか知り感動したのを、メモる。 【1時間】
- ④メモを並べる。1時間祈り、どう語るか、何を語るか、主に尋ね続ける。どう表現するか。 【1時間】  
与えられるまで待たないといけない。メッセージは作るのではなく与えられるもの。三分の一が繋がる。三分の二は使わない。  
これ、その次は、これ、その次は、これ。と。
- ⑤ホチキスで縦に止める。 【1時間】  
縦に並べたメモのストーリーを見て、なんか違うなと思えば、ホチキスから外して、もう一度繋げてみる。それから完全原稿を作る。主が思い出させたら使わないと思ったメモから復元して繋げることもある。
- ⑥ストーリーとなったメモをもとに完全原稿を作る。プリントして、読む。 【2時間】
- ⑦違うなあとか思うところを直して、見返し、直して、3回くらい印刷する。A5の紙に印刷し、手帳バインダーに入れる。  
結論を最後にもう一度書く。マーカーを引く。3色くらい。 【1時間】
- ⑧当日の朝、3回くらい読む。 【1時間】
- ⑨声に出して読むのは本番。主が語られる！語る時、メッセージは主の今のメッセージ。準備をよくしておくと、とらわれない、困らない。

神学生の時、もともと一番メッセージが苦手でボロボロどころじゃなかった。緊張で語れないくらいだった。神様にもうわたしを召してくださいと本気で祈った。そしたら主が、賜物をくださった。準備するのは自信のなさの裏返しでもあった。主が祈った後、くださった。賜物を。信仰と賜物を。本当に祈り願う。準備の時と、語る時。賜物で働きをする。

## インタビュー⑤

グレアム フォーセット先生  
Be One 大阪

2025/9/9

Be One 大阪成長の秘訣

大切なのは葡萄酒と皮袋。  
葡萄酒は本質を意味する。

### VISION

「主を愛し、主の愛に満たされ、主の愛を広げたい」

### ぶどう酒①

「フォーカスは、主の愛。」  
神の愛、神を、互いに愛し神の愛を広げたい。  
互いに愛し合うことに焦点を置くと変になるので、第一に主を愛する。

### ぶどう酒②

「恵みの福音」  
十字架、復活、恵みの中に応答し、恵みの中に歩む。  
これを中心に、この1と2のメッセージばかり。日曜はこれに似たメッセージばかり。  
初めての人にもわかるメッセージ。簡単で単純。  
パリサイ主義、～主義を置いてパフォーマンスでなく、人を養うことに目を留めていく。

### ぶどう酒③

「聖霊による出会い」  
聖霊により満たされ、主に出会う。そのためにいつも祈る。  
メッセージ、賛美を通して一人ひとりが主に出会う、カタリストになりたい。  
初めての人でも礼拝の中で泣いている、理屈はなくても心触れられ、  
応答する人がたくさん起こされていく。  
主に出会うことが不可欠。主の愛が神の恵み語りつつ聖霊が働く。  
礼拝のメイン。訓練というより、「すべての人が迎えられる礼拝を目指してる」  
よいWebサイト。イエスについて何も知らない人がくる。どうイエスを信じるか。  
みんななんか出会いを求めている。モザンビークで真理を求めている。  
日本人はイエスはわからないが、神の愛に触れられると心開く。  
その後真理をかたる。followingジーザスしてもわかんない。  
聖書開けたことない。どうやって本質を伝えるか。  
主にあって心を開き、聖霊のバプテスマ。トレーニングの中で個人的なペンテコステ。  
ファミリーキャンプなどで願い、目指してる。強くそれを目指してる。

### ぶどう酒④

「弟子作り」  
行って弟子を作りなさい、フォロジエの学びをいつもやっている。徹底的に。  
長年のクリスチャンであっても、恵みの福音を抑えたい。2-3人、4人のグループでやっている。  
同時進行で十何個のグループがある。「自由にやり～」と言っている。  
まだやっていない人を見つける。自分であった時間帯で、本に縛られない。  
フォロジエを行っていく。  
祈りなさい。与えること。一生取り組んでいくこと。いつもの課題。  
人が弟子になることを目指している。イエスがどう弟子を作ったのか。  
イエスが教会を開いたわけじゃない。  
人を育てることには、必死。コロサイ1:27-奥義はうちにおられるキリスト、栄光の望み。

コロサイ1:28-キリスト位あって、成熟したものとして立たせるためです。これがテーマ。

⑤男性へ。励ましを！

男性にイエスの王国を伝えたい。サラリーマンに。

普通の一般的な日本人に。そう言う人たちにあった教会生活を持ちたい。

仕事が大変、給料も足りない、上下関係がしんどい。障害持っている子どももいる人がいて、奥さんは家で待っていた。

**教会に来ているのはすごいことだと思う。くる人を奉仕させるマインドじゃなく、その人が、本当に励まされますように！**

**と言うマインド。教会に行ったら本当に養われる。励まされる。そう言う教会でありたい。それをよく考えてる。**

教会に来て、祈ってもらい、食べて、帰る。One thingも行かずに帰ってもいいよと。

とにかく縛られないように。イエスが住んでる栄光の望みなら、

打ち勝つ力を心に湧き上がらせてくださる。

職場で、川が流れるなら、勝利者となる。

男性が増えている。45%が男性。

一番燃えてる、賛美しているのは男性ではない。もっと解放され、打ち勝つようにと目指している。

⑥チーム

リーダーシップは3人。全くフラットでやっている。

全ての奉仕は、チーム。

頼んだら複数の人に声をかけて、一緒にやって、と言っている。

性格、背景は違う。

賜物でもないリーダーとしては一致し一人一人持っている。

小さな問題も対処は一緒。安心する。人だったら大変。一人だったら大変やーということも

三人で話し合っって祈りあってビジョンとかも三人のマインドで、妻も入り六人になる。

れいお、まゆさんも濃い繋がりがあって一緒に奉仕してる。三人で南の礼拝を担当してる。

**チームでビジョン組んで、祈って、出かけていく。**

⑦敷居を低くし入りやすい工夫。～愛し、歓迎し、大切にし、強制しない～

敷居が低い境界でありたい。そう言う境界でありたい。入ってくる人を歓迎し、アットホームで。

わかりやすく、聖霊の働きを望んでいるが躓かないように、日曜の礼拝は異言とかを求めない。

**人が求めているのは、愛され、歓迎され、大切にされること。**

初めての人は気を配っていく。初めての人にライン交換しない。情報もらうためとか言ってやらない。

入りやすい境界。矯正してない。

**多くの人めっちゃ熱心になっていく。**みんな熱心。当番とかない。

賛美の登板はじゅんぺいが作ってる。毎週毎週。掃除も毎週作るから、人が縛られない。登板はしんどくなる。

無理やり役員に入り、ハードな仕事させられしんどくなる。

しんどくなったらいって一っ。いつもいう。無理で一すと言ったらOK!と変わる。

～皮袋～

①よいウェブサイト。

仕事しながらやってもらってる。多くの人が見てくる。

②場所

めっちゃ便利なところ。駅から歩いて3分くらい。本町も3,4分。南はあびこ駅から5分。

御堂筋線の便利なところ

③ズーム礼拝をしている。

全国から集まり、付き合ってる。フレンドシップ。

簡単に入れる。便利な場所。もっと東に開く。広がっていきたい。便利なところへ。

目指しているのは、50-70人の会集。ファミリーシップ。  
70人を超えると繋がりが薄くなり、ひとがいても挨拶してくれなかったとか出てくる。  
人が多いとしんどくなる人がいる。多くいる。20-30人が理想。  
ファミリーキャンプは300人くる。そう言う人は無理にこなくていい。  
北摂90人の時もある。多い。十分フォローしてもらってない。

50-60-70人が理想的。日本の社会の中で立ってく中でなるほどと思った。

本町に多くの人が集まる部屋がない。離れていくかとか。

ファミリーキャンプでしんどくなっている人を感じ、別れましょうと言って折り、別れた。  
どっちの問題も解決した。



多くの店舗を開きたいと思っていたが、本街だけに力入れていたが、キャンパス。  
4,5番目開きたいが、賛美チームが足りていない。  
人が足りてない。もうちょい余裕あれば。  
踏み出すと、主が備えてくださる。

ビジョンに昔は縛られてたが、今は柔軟性がある。

ビジョンはぶどう酒（本質）にフォーカスする。皮袋（何人）とかにフォーカスしない！

主を愛することがビジョンなら縛られない。

10この店舗を2030年までなら縛られない。

ビジョンは、何人目指すなら、皮袋になる。

そう言う話はしない。リーダーでも人数のことは。

→人数をビジョンにしていくなら縛られていく。

そうではなく、主を愛することをビジョンにする！！これはとても大事。

本質をビジョンにし、本質にフォーカスしていこうと思った。

今は宗教法人ある。しない方がいいと思っている。

よく見るが、ファミリーキャンプ何人きたか見てるけど、話はしない。

400人目指しましょうよとかは言わない。

ぶどう酒（本質）にフォーカスしたら人が集まってくると思う。

→わあお！すごい。これが大切だと思った。

このインタビューは、この卒論で、衝撃的な学びだった。

日本の文化適応に成功していた。日本人の関係性を大事にする文化を逆手に取り、

大きさを目指すのではなく、本質を追求していた。

これが、大事だと思った。

本質にフォーカスして人が集まっている先生の言葉には説得力があった。

人数にフォーカスし、人数を求めて祈っている教会に行ったが、人が減っている話を聞いた。

3万人教会を目指したいなら、人数を求めて祈るのではなく、

本質をとことん追求していくことが必要なかもしれない。

聖書は、使徒の働きは、何を語るのか。神が教えている姿を追い求めていく。

主よ。そうさせてくださいイエスの御名で祈りますアーメン。

★本質にフォーカスしてメガチャーチを建て上げる方向を目指す

★MAX70名で教区礼拝、（キャンパス）に分けていく。5-7人セルも稼働させる。

月1とかで全体礼拝？

マレーシア

送ったPDFを読む。

祈りの中でグループの祈り。教会が礼拝し、賛美する中で。

マレーシア。母教会の留学生グループ30人に語った。全体で800-900人の教会。

30人で断食して祈り、備えていった。3年祈りをしていたその中に聖書学校に行つて、教会から派遣された。

ビジョンを教会が認識して、サポートを受けて踏み出していった。

6人の3人は1この時で、早いうちに2人救われ、チームになり、3人救われ6人になり、チームでやっていった。

モザンビーク

日本のチームの祈りで聖霊が注がれ、主が祈りの中で宣教、ビジョン、アフリカが与えられ踏み出した。国を周り主が備えている場所どこにあるか行かないとわからない。

コティエを主が示してくれて、チームを遣わして、ここでいくことを考えてなかった。

1,2年経っていった。チームで補い合い、チームとしてやっていった。

普通じゃない祈り。個人じゃない教会の祈り。

時が来たら反対されても踏み出した。宣教師が言っても、祈りの中で確信与えられ、やっちゃった。それぞれだと思う。祈り。チームとして出かけていくことも。

★→母教会で宣教祈り会を始める

→教会の普通じゃない祈りが、宣教師派遣において超重要。

もし7000部族に宣教師を派遣するなら、教会の祈りが鍵となる。普通じゃない祈りが。

可能な限りチームでいくならパワフル。

三中先生のサラン教会をインタビューしたい。まさに、宣教師を派遣している教会。ここから学びたい。

原則的にチームを求めなさい、と。でも与えられないと言うか見通せないケースもある。

チームを強く言うが行ったら主が働く。

教会の奉仕としてやりたい。短期トリップが多かった。

経済的にも祈りにおいてもサポートする。

27歳だった。

行ったら伝道して、人が集まる場所でイエスを伝えて救われた。

いい方法じゃないけど、やらなきゃと思つてた

hibaみたいなところ。人救われたが、フォローしますよと。

少しずつ教会に集めてモザンビークはprayer walkしている

つもりでいったら人が集まって来た。トラックの上で賛美したら、人が集まって来た。

紙芝居で福音伝えて、イスラムのところだった。応答してくれた。とんでもない方法。

初めの勢いは嘘みたいだった。でも祈りの中で導かれて踏み出した。

いく前に、宣教の本をめっちゃ研究していた。

★→図書室の宣教の本を読み倒す。1,2月

こう言う人、日本のサラリーマンのように、それでも主に従えるか。

彼らの人生が変わるように、御霊に力づけられて語る。

めっちゃ勉強して、こう語りたい。と思つてた。

皮袋をめっちゃ考えていた。

ブレイクするーをどうもたらすか。

宣教団体には、入っていた。マレーシアの時は入ってなかった。

日本に来たらWOH。日本では入った。ワールドアウトリーチに入った。

力になってくれなかった。教会は力になった。

支援会作つていいと思う。意図的にサポートする人を募っていく。

日本のいろんな奉仕で紹介してそう言う関係を大事にしてる。経済的サポートも多くなる。

## インタビュー⑥

三中先生  
サラン教会  
2026/1/8

これは主任牧師ではなく、所属してた牧師の見解である。  
あくまでも、サラン教会副牧師として、第三者的な側面。  
その内容が事実と異なる場合があります、ご注意ください。

### ①どのように3万人以上の教会へと成長したのか？

すでにメガチャーチだった。  
来年から3代目の先生になる。その時に、乗り越えることがある。

始まりは、  
ハン先生が2,3家庭から始めた。カンナムというところにあった。  
そこに開拓した。当時は建物にいろんな店舗の一つとしてスタート。  
一桁だった。

サランが**大事**にしている**グループ**が**2つ**ある。

①ビックグループ：礼拝、祈祷会

②スモールグループ：おく先生、信徒を目覚めさせよう本、スモールグループを重要視している。

語られたみことばを一緒に分かち合う。機能方法的、質問をしていく。

細かく質問をしていき、その質問で、信徒の悩み、

考えていることをみことばを中心に吐き出させる。できるだけ少人数で。多くても10人,12人まで。

### ビジョン

140人の教職者、毎週火曜の朝と土曜の朝に牧師会があった。

火曜の朝は、先生がシェアリングをしてくれた。

土曜の方が業務的。

先生がいつもというのが

「牧者の心をもってやりなさい。メガチャーチだけれども、**1人の魂を大切に**しなさい。

開拓教会をするような心持ちでありなさい。」 「1人の魂を大切に**する**」それをずっと言われていた。

牧師は、

オク先生→オー先生

オク先生の時代からカルセミナーをしていた。(弟子訓練セミナー)月昼～金昼まで。

講義を聞いて、実際に信徒リーダーがたくさんいた。

**信徒リーダーに導いてもらうために、火曜の朝にスモールグループの導き方、**

**大事なことを演繹法的に語り、スモールグループに分かれて**

**リーダーが導いていく。**

**月～金は牧会者に対する弟子訓練セミナー。**

それぞれの担任の牧師が、弟子訓練セミナーをしてなければ、主任牧師がまず受ける。

その後、副牧師も弟子訓練セミナーを受けられる。韓国の全国の教会を訓練していた。

海外からも招き、弟子訓練について学びを持っていた。サラン教会が取り組んでいる弟子訓練。

初代、オク先生、教会内の牧師ができないことを信徒レベルでもらうために、

信徒の方を弟子訓練をした。

30周年でいざごぎがあった。初代の先生は、教会の中で信徒を育てようとしていた純粹に。

2代目の今の先生は、対外的な大会を導いたりするのがあった。

弟子訓練と言ってる割には教会にいないとか。

2代目牧師に対する、質を変えてしまったと思われていた。反対派が出てきた。分裂が一時期あった。

それを乗り越え、今は安定している。長老が弟子訓練の中で頭でっかちになっていく。弟子訓練が教会の中での差別の対象になってしまった。あなたはした、あなたはしてない、そんなニュアンスができきた。みんながいい方に行ったわけではなかった。長老が頭でっかちになり、今の牧師を叩いて追い出そうとした。やめろやめろ、とその時はすごかった。毎週日曜礼拝の最中で、外でプラカードを掲げでオー牧師は退任しろと。実際にオー牧師が言っていたのは、6ヶ月自粛した。論文の表札があったと言われた。何十年も前、もう終わって卒論として通っていて、それを引っ張り出してきて、今のオー牧師を講壇から引き摺り出そうとした。オー牧師への不平不満がそういう形であらわされた。オー先生も言っていた。傲慢なところもあった。先生が言ったことは全部なされていくスタイル。ある意味誤解されやすい。性格的問題もあった。40代半ばからサランの2代目牧師になった。ノリノリで突き進んでいく感じだった。それをある意味、止めるきっかけにもなったのかなと。謙った姿を見せられた。

弟子訓練の方向性を新しくしよう、と本質を変えず、方向を変えようということ言われた。弟子訓練は、教会の成長のためにあるだけじゃない。弟子訓練をしたことにより、教会の中はもちろん、そこにその弟子訓練した人々が出ていく、ディサイプルメイキングチャーチ →ディサイプルメイキングチャーチフォーミッションになった。弟子訓練は、宣教のためだ、と。外に向けた働きが活発になってきた。

#### WEA

世界福音同盟協議会

JEA日本復員協議会、サランと関わってきた先生たち、そういう先生を招き、世界宣教のために手を取り合ってやっていきましょう、と。

スモールグループを重要視している。日本語礼拝部の先生に聞いてみた。オー先生のすごいところは、**礼拝に対するパッション**。礼拝に対する情熱はすごいんですと。どれだけ、信徒へ礼拝を通して恵みを受けてほしいか、それを強調される。

#### 弟子訓練のテキスト

初代のキリスト教書店にもある。時代が変わってきた。30年前に書いたものを、今使ってもギャップがあるということで改訂した。4,5年経つ。それも日本語で全部訳されている。ハード。日本人には緩やかにする必要がある。毎週、説教要約、課題図書、宿題、予習復習、

#### ②多くの宣教師をどのように宣教師を派遣し、訓練しているのか？

##### 宣教師

いろんな過程を通る必要がある。ETC：宣教について3日間、行く。短期宣教で行くならそれを受けてたら教会が少し負担してくれる。そういう基礎過程コースを3日間受けたら、短期戦今日行く時に20%の飛行機代か何かを支援する。

##### 宣教師訓練コース

宣教師になりたいという人は、ITCがある。ETCが基礎過程なら、ITCは深化過程。それが12週あった。毎週土曜。朝8時から11時半まで。3ヶ月くらい。それを受ける。その時に祈り会、賛美。その日の初台者。いろんな国に行っている宣教師がいる。

帰ってきている宣教師がいる。その人たちに発表してもらおう。  
メキシコの宣教師が30分くらいきておられた。  
聞くだけでも行ったことの地域に関する情報はもちろんくし、  
宣教師たちがどういう働きをしているか知る。  
聞く、聞いたらスモールグループがある。スモールグループのリーダーは現役の宣教師たち。  
安息年なり帰ってきてる宣教師たちがリードし、グループメンバーとシェアする。  
自分たちのことではなく、テキストに沿ってシェアする。そういうのをやって、派遣される。  
派遣先に関しては協会から指定ではなく、自分が示された地に行く。

教会からいくが、教会だけでは足りないから、宣教団体を通して、教会と宣教団体で送り出す感じ。  
その3,4ヶ月の過程の中で、宣教師が帰ってくる時がある。宣教館が何個かある。  
宣教師たちが帰ってきた時に、寝泊まりするところがない人があらかじめ宣教部を通して、  
空いてますか？と。聞いていく。6人ファミリーだけど、なるべく大きい部屋借りたいです、と言ったら、  
それに似合ったように、なんとか準備してくれる。  
それはサラン教会の全教会員の献金から成り立っている。  
ある信徒さんが、宣教師のため捧げますという宣教館もある。捧げたらおしまいではなく、  
帰ってきた宣教師たちと食事してください、とか。担当宣教師が引退なのか、安息なのかしている。  
その方が送られてくると、食事したりして。  
共同スペースもあり、個人的に交わりしたり、信徒の方が訪れてきたら、  
オープンスペース的な小さいカフェみたいな自由に飲み食いできるような場所がありそこで  
交わりしたりできる。宣教館7つ。1日1500円くらいで泊まれる。  
それを、グローバル宣教部がサラン教会の宣教に関しての部署。  
ホテルよりはるかに施設も綺麗で、静か。すごくいい。

いろんな形がある。教職者として6年仕えて日本語礼拝部の副牧師として。  
教会で仕えたので派遣宣教師という形で、毎月いくらかもらっている。

派遣宣教師がいれば、協力宣教師がいる。  
海外ボランティア。現地の牧師、協力牧師、4,5,6くらいのカテゴリーがある。

何人の宣教師を派遣しているのか？  
サラン教会今、57カ国の214家庭。派遣が、80家庭。  
スペシャル宣教師、それぞれの部門でのプロフェッショナル35家庭。  
海外ボランティア8家庭。123家庭が派遣。  
協力が、長期宣教師が70家庭。現地の宣教師が21家庭。  
91家庭。協力機関が、46ユニット。国内が19ユニット。計75ユニット。  
2024年2月時点

### ③メガチャーチのスキャンダルについて先生が考える見解

小さい教会さえもいろんなことある。  
大きい教会になると、いろんなことがあるいろんな人がいる。  
いうのは簡単。その位置に立ってみないと、本人にしかわからない。  
見た目では判断し、言えるが、その場に立たないと、わからない。  
わからないからいうと思う。

サランも毎週4回メッセージ8,10,12,14;30-同じ日に同じメッセージをする。  
サラン教会。毎回7000人超え。  
あの域に立ってみないとわからない。

異端が来たり、怪しい人とか、新天地とか異端が入り込んできたり。

オー先生を近くで見た時、三中先生は、一生懸命働いてくださいと言われるかと思った。

「まず、ご自身が、一番恵まれてください」そう仰った。

メガチャーチだから、一生懸命ではなく、一番恵まれてくださいといわれ、いい霊的なショックを受けた。

今年で20周年日本宣教に心を閉ざされていた。日本の北海道から沖縄まで回ると言っていた。

聖歌隊。先生が引き連れて。

引退前に、日本で弟子訓練セミナーがあるかも。

過去のサラン教会で起きた過去のスキャンダルが、

色んな先生と話す中で、もう、それも消化されたのかなと。

日本の多くの先生方が、弟子訓練が必要だと言っている。

違う言葉であったとしても、イエス様の弟子作り。日本でどんどん広げたい。